

(千葉大学学位申請論文)

英語教育基本語彙の選定に関する研究

1991年1月

千葉大学大学院自然科学研究科
生産科学専攻計測情報科学

中條清美

目 次

第 1 章	序章	
第 1 節	はじめに	2
第 2 節	先行研究調査	8
	1. 語彙調査に関するもの	
	2. 基本語彙に関するもの	
	3. 先行研究調査のまとめ	
第 3 節	研究の目的	17
第 4 節	用語の定義	18
第 5 節	本論文の構成	19
第 2 章	基礎的研究	
第 1 節	はじめに	21
第 2 節	基礎的研究	21
	1. “Word-form” to “head-word” 変換プログラムの開発	
	2. 有効度指標の信頼性	
	3. 種々の言語活動の語彙	
	4. 音声言語の類型	
第 3 節	第 2 章の概要	29
第 3 章	「英語教育基本語彙」の選定	
第 1 節	はじめに	31
第 2 節	「英語教育基本語彙」の選定方法	33
	1. 素材（言語材料）の選定・収集	

	2. 素材の入力・分析・変換	
	3. 固有名詞，略語，数詞の除外	
	4. 基幹リストの選定	
	5. 補足リストの選定	
	6. 基幹リストへの補足と調整	
第3節	5段階分類	43
	1. 分類の必要性	
	2. 分類の方法	
	3. 表示の方法	
第4節	第3章の概要	47
第4章	選定された基本語彙の有効度	
第1節	はじめに	49
第2節	有効度の計測	49
	1. 有効度を計測するための目標言語材料	
	2. 有効度の計測	
第3節	選定された基本語彙の有効度	51
第4節	第4章の概要	52
第5章	他の基本語彙との有効度の比較	
第1節	はじめに	54
第2節	他の基本語彙との比較	54
	1. 有効度を比較した基本語彙と比較の方法	
	2. 最終目標語彙に対する有効度の比較	
	3. 同語数での有効度の比較	
	4. 段階別の目標語彙に対する有効度の比較	
第3節	比較の結果	61
	1. 最終目標語彙に対する有効度の比較	
	2. 同語数での有効度の比較	

	3. 段階別の目標語彙に対する有効度の比較	
第4節	考察	66
	1. 最終目標語彙に対する有効度の比較	
	2. 同語数での有効度の比較	
	3. 段階別目標語彙に対する有効度の比較	
第5節	第5章の概要	71
第6章 結論		
第1節	研究のまとめ	73
	1. 研究の成果	
	2. 基本語彙選定の特徴	
	3. 分類・表示方法の特徴	
第2節	結論	76
参考文献		
		77
付録1 「現代英語のキーワード」		
		85
付録2 固有名詞・略語・数詞のリスト		
		92
付録3 使用した言語材料の出典		
		110

第 1 章 序章

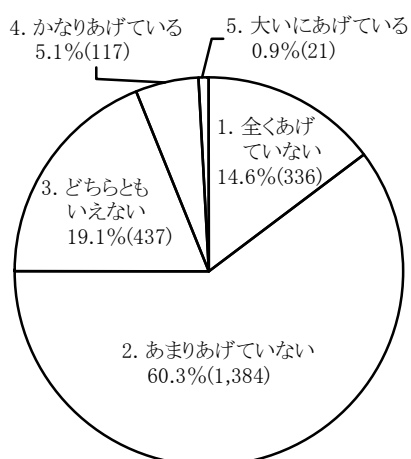
第 1 節 はじめに

英語教育への批判

日本の中学校，高等学校，大学の英語教育は必ずしも十分な成果をあげていないと言われる。英語教育実態調査研究会(小池, 1990)が大学を卒業した社会人に意見を求めたところ，日本の英語教育が「成果をあげている」とした者が6%に対し，「成果をあげていない」とした者が75%と圧倒的に多い(図1-1)。一般の国民の平均的な感想を見ても，現在の中学・高校での外国語教育に対する満足度は「満足している」が17%に対して，「不満だ」が58%で多くの人々が現在の英語教育のやり方に失望しているという(図1-2)。

図1-1 英語教育の成果

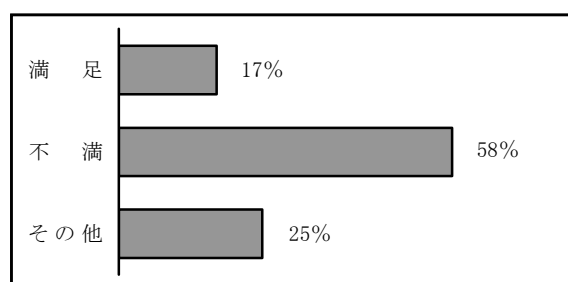
(小池, 1990)



()内は人数 回答者数 2,295

図1-2 中学・高校での外国語教育に対する満足度

(読売新聞3/14/1988)



学習者のニーズ

それではどのようにすればよいか。それは現代社会に生きる日本人英語学習者のニーズに対応した教育を行なうことであろう。

新聞社の調査(表1-1)によれば，学校での外国語教育に関する改善要望の中で「会話教育に力を入れる」が54%で断然トップだという。2位は「外国人教師」採用(28%)で，どちらも国際化時代を迎えて，国民の多くが「聞ける」，「話せる」外国語教育を求めて

いる姿が見えてくる。

表1-1 中学・高校での外国語教育に対する改善要望
(単位%, 複数回答; 読売新聞3/14/1988)

会話教育に力を入れる	54
外国人教師を増やす	28
外国語教育を始める年齢を繰り上げる	16
学生・生徒の海外研修の機会を増やす	16
その他	52

音声によるコミュニケーション手段としての英語のニーズが大きいという事実は他のいくつかの調査でも確認されている。中学生は英語の学習の中でどれに一番力を入れて勉強したいかという問いに対して、「相手に通じるように英語で話すこと」を第1位(37%)に、「生の自然な英語を聞き取ること」を第2位(27%)にあげ、音声学習の希望が上位を占めている(華表, 1991)(表1-2)。

表1-2 中学生の希望する英語の学習(単位%; 華表, 1991)

相手に通じるように英語で話すこと	37
生の自然な英語を聞き取ること	27
まとまった英語の文を読み取ること	19
相手に通じるように英語で書くこと	17

社会人を対象にした調査では、中学校・高校の英語教育の目的として「英語でコミュニケーションできる基礎力を養成する」が89%(複数回答)で最も多く望まれ、第2位の「英米をはじめとする諸外国の文化・事情を理解する」(25%)・他に大差をつけた。同様に大学の英語教育の目的としても第2位の「国際人を養成する」が33%に対し、「英語でコミュニケーションができる」が78%で最も多く望まれている(表1-3)。

表1-3 社会人の希望する中学・高校・大学の英語学習の目的
(単位%, 複数回答; 小池, 1990)

中学・高校		大学	
コミュニケーション	89	コミュニケーション	78
外国文化理解	25	国際人養成	33
国際理解	20	専門の基礎	19
教養	13	教養	16
その他	7	その他	7

このように学習者や学習者を受け入れる社会が一般に「会話教育」や「コミュニケーション」などという表現で、「音声言語」によるコミュニケーション能力の育成を最も望んでいることは、竹蓋(1989)の調査によっても明らかになっている。しかも興味深いことは、いわゆることばの4技能を「聞く、話す」と「読む、書く」とに分け、学習者を中学生、高校生、大学生、それに社会人に分けて学習したい技能を調査した結果、中学生から社会人まで順に49%、54%、78%、88%と学習者の年齢層が上がるほど、音声言語を強く望むようになるという事実である(表1-4)。

表1-4 生徒の望む学習したい技能(竹蓋, 1989)
(単位%; 4技能合計で100%)

	話す	聞く	合計
社会人(企業: 1977-78)	35	53	88
大学生(広島大:1976)	52	24	78
(東京大:1980-87)	53	22	
(全国: 1985)	61	15	
(千葉大:1984)	57	27	
高校生(千葉県:1984)	31	23	54
中学生(千葉市:1984)	44	10	49
(千葉県:1984)	25	19	

現代社会に生きる学習者のための基本語彙

英語教育の目的が教養としての英語の指導にあるのか、実用としての英語の指導にあるのか論争されたり、また英語教育の目的が達成されていないなどと批判されても、実はそれらの用語自体が厳密には定義されていない。一般的には読むことの指導を教養とし、話すことの指導を実用ととらえているようである。英語教育の目的は英語のユーザーである学習者と現代社会のニーズがどこにあるかによって決まるべきものであろう。本研究では英語の学習において最も基礎的な部分で、最も重要と言われる語彙指導(West, 1930; Lorge, 1937; 田崎, 1978; 森田, 1985)の教材に的をしぼり、かつ、学外からの批判に応えることを主目的にして、基本語彙を選定した。

学習者が必要とする語彙はその時代を反映したものであろう。本研究では「国際化社会」、「情報化社会」、そして「女性の社会進出のめざましい時代」と定義づけられる現代社会におけるコミュニケーションの手段としての英語の学習と、そのための語彙学習

を効果的にするために、語彙リストの選定、および、分類を試みた。現代社会に生きる学習者のニーズは、これら3つの現代の特徴の中にあると考えたのである。

現代はボーダーレスの時代と言われ、ヒト、モノ、カネの国際間移動に昔ほど国境の壁が高くなくなった。単に貿易量が多だけでなく、ヒトの移動も格段に増大している。「観光白書」によると'89年に海外旅行をした国民は966万人に達した。'90年は1,000万人を超え、新記録を作ったと言われる。外国人労働者の日本への入国も増大している。'80年から'88年の間で渡航目的別出国者数は、短期商用・業務が48万人から102万人(2.1倍)に、海外支店等への赴任が3.6万人から8.3万人(2.3倍)に、留学等が1.4万人から8.4万人(6.0倍)に増大した(総務庁統計局, 1989)。企業は'85年のプラザ合意以降の円高に対応して海外現地生産を加速させ、国際化とは現地化でもあると言われる時代に入っている。端的な例をあげれば、昨日まで日本の地方工場で働いていた工場労働者が、明日から米国の現地生産工場で米国人労働者と英語を交わしながら自動車を組み立てるようになり、その家族が地域コミュニティの中で英語の生活をするのが現実には十分あり得る。このように国際化社会とは、外国語を音声によるコミュニケーションの手段として使用する、また、日常生活の場面で個人的に外国語を使用する必要が増大することに特徴づけられる。

現代は情報化社会とも言われる。情報が物資やエネルギーと同等あるいはそれ以上の重要な資源となり、その価値を中心に社会・経済が発展している。産業の中心は重工業からコンピュータを中核とした電気・情報機器産業に移り、コンピュータと電気通信が現代の基本構造を形成している。小型携帯用パソコンの急激な普及に象徴されるようにコンピュータが日常生活の中に組み込まれだしており、この傾向は今後さらに拡大するだろうと言われる。今や技術者のみならず一般社会人から子供までがコンピュータ関連の知識やコンピュータ用語を必要としているのである。

現代を特徴づけるもう一つのキーワードは「女性」であろう。女性の社会進出がめざましい。'90年の統計によれば、4年制大学卒の女性の就職率が男性と同率になったという。大学・短大進学率も'88年度に女子は史上最高の36.8%を示し、男子の進学率(35.8%)を初めて上回った。参議院の女性議員数が'80年の17人から'89年には33人に増加し、企業の中で女性役職者数が'77年を100とすれば、'87年には203となる時代である(野沢, 1990)。教科書のテキストまでが男性優位であるなどと批判もあり(糸井, 1988)、女性のめざましい社会進出に対して英語語彙指導の教材も対応が求められているのである。

英語教育基本語彙の選定

我々は、教育用基本語彙の選定のための目標を、「文学」に偏重せず、「現代社会の学習者が希望するであろう23種類の言語活動(表1-5)を、選定された基本語彙自体である程度行なえること」に置いた。この23種類の言語活動は、現代社会の3つの特徴から発生する学習者のニーズを反映して学習者が具体的に希望する、または、目標とするであろうという基準で選択したものである。さらに、この3つの特徴によるもの以外で学習者が希望するまたは必要とする言語活動を補うため、Dornyei(1990)と吉島(1987)の調査も参考にした。この目標言語活動の中には、学外からの批判に応えるべく、これまでの基本語彙に比べ、より多くの音声言語を取り入れた。対象とした学習者は、中学校、高等学校、大学の生徒・学生および一般社会人である。

表1-5 学習者が希望するであろう23種類の言語活動

区分	言語活動の種類
音声言語 (10種)	日常会話, サバイバル英語, 映画の対話, 看護婦との対話, 医者との対話 経済ニュース, ビジネストーク, 会議英語, 政治・法律ニュース, リスニングテスト
文字言語 (13種)	生活誌, 生活用語, 女性誌, 美容誌, 英字新聞, 科学誌, ビジネスリーダー パソコンマニュアル, パソコン誌, 科学読物, 現代小説, 読解テスト, 政治誌

このように広範囲の言語活動を目標にしたのは、中学・高校生も対象にした語彙のため「平均的、標準的」なものにならざるを得ないからである。中学・高校の時点では、生徒はどちらの方面に進むか決まっておらず、多方面の分野に興味を持っている。生徒が興味を持つ話題や分野によって使われる語彙は一般に考えられているよりは大きく異なる。従って、学校英語教科書はだれにでも合うように、いろいろな話題を集めて作られているのが普通である(君塚他, 1981)。しかし、現在の「教科書語彙」がどれくらい実際に使えるか「有効度」を調べてみると、「有効度」はあまり高くない(竹蓋, 1983)。そのため現在の「教科書語彙」を補い、どちらの方面に進むにしても役に立つ語彙が必要になってくる。そのような見直しのため、23種類という広範囲の言語活動を目標にして基本語彙の選定を試みたのである。

これらの言語活動を行なえるようになり、学習者のニーズを満たす基本語彙の選定には、6分野、すなわち、「生活語彙」、「専門分野」(情報収集、ビジネス、会議、法律、コンピュータ)、「日常会話」、「女性雑誌」、「テスト」、「米国教科書」の語彙が必要であると考えた。そのため、これら6分野から素材(言語材料)を収集し、それをもとに基本語彙を選定した。この6分野の選択理由と背景は次のとおりである。

「国際化」にともない、駐在、留学等海外で生活する機会が増大している。「生活語彙」は学習者にとって英語で生活するために必要不可欠な語彙であろう。しかし、衣食住や病気など日常生活の場面で使われる「生活語彙」が学校英語教科書には少なく、身の回りのことについて英語で話そうとしても教科書に載っている語彙だけでは自分の言いたい事を十分に表現できないと言われる(堀内, 1976; 松原, 1987; 稲岡他, 1988; 久保野他, 1989)。「専門分野」の英語のニーズは「国際化・情報化」の進展にともないますます増大している。国際化の最も進んでいる部門の一つである企業で仕事をするビジネスマンはいやおうなくビジネスを英語で行なう状況に直面している。企業は大学での英語教育に対して強い不満を持ち、大学での英語教育に期待できないという声すらある(竹蓋, 1989)。日本に比べ訴訟が多い契約社会では「法律」関係の語彙も必要とされるだろう。「国際化・情報化」にともない、英語の新聞・雑誌などのマスメディアに特徴的な「情報収集」の語彙は情報の受信・発信の手段として必要性が高い。また、「コンピュータ」関連の語彙は「情報処理」の中心をなすコンピュータを使いこなすために現代人に必要不可欠なものであろう。このように「国際化・情報化」によって「生活語彙」や「専門分野」の英語が求められているのである。

「日常会話」を6分野の1つとして加えたのは、音声言語の教育のニーズが大きいため、「生活語彙」の半分、「ビジネス」英語の半分、「会議」英語、その他の言語材料にも音声言語をかなり含めたが、それだけでは会話独特の表現を十分カバーできないためである。

男どうし、女どうしの話題には想像以上に大きな差があると言われる(Haas, 1979)。「女性雑誌」には女性に特徴的な話題や興味が存在することも我々の研究で確認されている(中條他, 1989)。教材を学習者に自由に選ばせたところ、外国語学習の効果が顕著に上昇したという報告もある(関, 1971)。女子学生の進学率が男子を上回り、女性の社会進出がめざましい現代において女性は今や無視できない存在となった。「女性」を反映した基本語彙の選定に異論をとる人は少ないだろう。

以上の4つの現代を代表する分野以外に、高校・大学の入学試験や TOEFL などの留学用の「テスト」の語彙も学習者にとって重要である。最後に、日本人とネイティブスピーカーの英語に対する感覚のずれ(竹蓋, 1981)や日本の英語教育で頻度の高い単語と英米本国で日常的に頻度の高い語のずれ(竹林, 1985)を矯正し、5分野でカバーできない語彙を補うために「米国教科書」を基本語彙のための6番目の素材とした。

このように本研究では現代社会を特徴づける分野等から素材を収集し、客観的に分析して、現代の学習者のニーズに応えた基本語彙の選定および分類を行なった。

第2節 先行研究調査

現在までさまざまな言語材料についての語彙調査と基本語彙の選定および改善が米国を中心に継続的に試みられてきた。本節では、現存の基本語彙を評価する際に考慮すべき点を明らかにするため、現在までに国内外で行なわれた語彙調査や基本語彙の選定目的、選定方法および選定された語彙の内容を概観する。本研究では、語彙調査は「一つまたは複数の言語活動の語彙を代表するに足るだけの、相当数の語を含む言語材料に現われた異語の使用頻度等の調査とその結果」であり、基本語彙は「特定目的のために一定の基準にもとづいて語数を制限して選定された語彙」と定義する。基本語彙は語彙調査にもとづいて選定されることが多いので、本節では、まず、1) 語彙調査について観察し、次に、2) 基本語彙の選定を概観した。

1. 語彙調査に関するもの

最初に正確に英語の語彙調査を行なったのは Eldridge(1911)であると言われる。彼は「万人に使用されるための制限語彙を紹介するには、まず第一に重要なことは、どんな語が日常の使用に最も頻繁に出現するかを知ることである」と述べ、基本語彙選定基準としての頻度とその調査の重要性を指摘した。

The first essential for the introduction of a limited universal vocabulary is a knowledge as to what words occur the most frequently in ordinary use. (Eldridge, 1911, (Fries and Traver, 1950))

以来、さまざまな言語材料をもとに語彙調査が行なわれた。主なもの38種を表1-6に示した。これらのほとんどは「最も頻繁に現われる語こそ、学習者の最も出会いそうな語」(マッケイ, 1979)と考え、語の出現頻度が調査された。

ことばは伝わる媒体によって手紙や読み物など文字による文字言語と、会話やインタビューなど音声による音声言語に分けられるので、表1-6に見られる語彙調査を文字言語と音声言語に分けて観察した。

1) 文字言語の語彙調査

初期の語彙調査の特色は、スペリング指導の資料を得るために手紙や作文を対象にした点であろう。次に読み物の語彙調査が行なわれた。それは、語彙は読解に影響する最も重要な構成要素と考えられてきたためである(Nolte, 1937)。我が国の英語教材にも大きな影響を与えたと言われる Thorndike and Lorge(1944)の Teachers' Word Book of 30,000 Words は、延べ約2,000万語の言語材料を調査したもので

表1-6 主な語彙調査

研究者	年	延べ語数	異語数	調査した言語材料
Eldridge	1911	35,000	6,000*	新聞 newspaper articles**
Cook & O'She	1914	200,000	5,200	手紙 family correspondence**
Ayres	1915	400,000	1,000*	手紙 personal and business correspondence**
Houser	1916-7	65,500	1,869	手紙 letters written by farmers
Andersen	1921	361,184	9,223	手紙 personal and business letters
Thorndike	1921	4,565,000	10,000*	古典 Bible and English classics
Dewey	1923	100,000	10,161	各種 representative of good English**
Horn, E.	1926	5,136,816	10,000*	手紙 all the writing vocabularies then available
Horn, M.	1926-7	489,555	7,097	会話 conversation of kindergarten children
French, <u>et al.</u>	1930	79,390	2,240	会話 telephone conversation
Wheeler, <u>et al.</u>	1930	131,000	2,219	教科書 first-grade readers
Fitzgerald	1934	461,321	7,340	手紙 letters written by 4,5,6th grade children
菅沼	1935	--	7,045	教科書 中学 100冊
Voelker	1942	99,400	1,000*	会話 spoken vocabulary of later adolescents
Fossum	1944	143,586	10,278	スピーチ speeches from junior college students
Thorndike, <u>et al.</u>	1944	20,000,000	30,000*	読物 four different sets of reading matter
Rinsland	1945	6,012,359	25,632	作文 compositions in eight grades
Black, <u>et al.</u>	1955	288,152	6,826	スピーチ classroom speeches of college students
Schonell, <u>et al.</u>	1956	512,647	12,611	インタビュー Australian workers' oral vocabulary
Murphy, <u>et al.</u>	1957	1,195,098	--	会話 children in primary grades
速川	1965	--	10,524	教科書 中学36冊、高校75冊
Howes	1966	250,000	9,699	インタビュー college students and patients in a hospital
Jones & Wepman	1966	136,450	1,102*	インタビュー adults, comments on 20 cards of the TAT test
Kucera & Francis	1967	1,014,232	50,406	読物 representative of printed American English
Mellinger	1970	295,271	12,897	手紙 written business office communication
Carroll, <u>et al.</u>	1971	5,088,721	86,741	読物 published materials for grades 3 through 9
Harris, <u>et al.</u>	1972	4,500,000	7,613	教科書 textbooks for grades 1 through 6
Wei & Light	1973	250,000	13,789	新聞 the South China Morning Post
Jones & Sinclair	1974	135,000	8,150	会話 conversation, recorded at universities
Singleton	1976	74,802	3,860	スピーチ classroom public speaking of college students
Hillerich	1978	380,432	8,925	作文 creative writing of elementary children
Dahl	1979	1,058,888	17,871	会話 recordings of psychoanalytic cases
竹蓋	1981	784,357	--	各種 13 kinds of vocabularies
Hofland, <u>et al.</u>	1982	1,000,000	50,000	読物 representative text types of British English
Moe, <u>et al.</u>	1982	286,108	6,412	インタビュー interview with first-grade children
竹蓋	1985	199,678	16,837	ニュース FEN
竹蓋	1986	408,799	19,311	小説 paperbacks 12冊
竹蓋	1987	1,105,132	54,346	雑誌 TIME 29冊

* 頻度上位の語のみ

** Fries and Traver, 1950より

ある。コンピュータの利用できる現在でもこれにまさる規模のものは現われていない。その目的は生徒が読書のために必要とする語を調査するためであった。この語彙調査は「学校教科書の語彙の適不適の客観的な測定尺度として、また語彙・読書・綴字の学力テストを作成する基礎として用いられてきた。」

(Fries and Traver, 1950) しかしながら、文学作品に偏り、古い語が多すぎる等、すでに時代遅れであると多くの研究者に指摘された (Roberts, 1965; 他)。その結果、それらの反省から、特に言語材料の偏りを配慮した大規模な語彙調査が2件行なわれた。1つは Kucera and Francis (1967) の研究である。“Representative of current printed American English” を目標に成人用の読物をできるだけ偏りのないよう2,000語ずつ500種の言語材料から計100万語を集めて分析したのである。もう1件の Carroll, et al. (1971) は辞書の作成に利用する目的で3年生から9年生までの子供が手にすると考えられる読物を500語ずつ10,000種の言語材料から集めた500万語を調査した。現在では Thorndike and Lorge (1944) にかわってこれら2種が代表的な語彙調査として種々の研究の基礎資料に用いられている (垣田, 1987)。しかしながら、これらが音声言語の言語材料を排除していることを忘れてはならない。

我が国では、竹蓋 (1981, 1986, 1987) による手紙・日記等13種の英文やペーパーバック、雑誌 TIME などの語彙調査がある。

2) 音声言語の語彙調査

音声言語の語彙調査は、文字言語に比べて発話のサンプルの収集が難しいことと、録音した発話を文字に記録し直さなければならないことから、調査も遅れ規模も小さいものが多かった。テープレコーダなどの記録装置が開発されてからは徐々に大規模な語彙調査が可能になり、延べ語数が Black and Ausherman (1955) では288,152語, Howes (1966) では250,000語, Dahl (1979) では1,058,888語と初期の調査に比べて、その規模が飛躍的にのびた。

音声言語の語彙調査の特徴は、単に使用頻度の高い語を識別する以外に種々の目的をもっていることであろう。たとえば、French, et al. (1930) は speech soundsの頻度, Jones and Wepman (1966) は失語症患者の言語と比較するために語彙調査を行なった。音声言語のデータ収集に用いられた状況は、カウンセラーとの会話 (Dahl, 1979), 入院患者へのインタビュー (Howes, 1966) など自然な発話環境とは言えず、「自然な発話」の音声言語のデータ収集は現在でも難しいものとされている (Svartvik, et al., 1980)。

2. 基本語彙に関するもの

基本語彙をその選定基準によって、1) 客観的な基準(頻度または分布度)にもとづくものと、2) 主観的な基準にもとづくものの2つに分けた。表1-7に今日比較的普及している基本語彙29種をその選定基準および選定方法とともに示した。

1) 客観的な基準にもとづく基本語彙

基本語彙選定のための主な客観的選定基準には頻度と分布度がある。頻度を基準にした基本語彙は、頻度を基準にした1つまたは複数の語彙調査をもとに選定される。頻繁に使われる語の方が有用性が高いと考えられたため、これまで多くの語彙調査が頻度を基準にして行なわれてきた。語彙調査の頻度上位の語から、Thorndike(1921), Faucett and Maki(1932), Thorndike and Lorge(1944), 竹蓋他(1988b)などの基本語彙が選定された。一方、もうひとつの基準である分布度が使用された理由は、1つの語彙調査のみに高い頻度で現われた語よりは、(頻度はあまり高くなくても)多くの語彙調査または基本語彙に広く使われる語の方が重要であると考えられたからであった。表1-7にあるとおり、この分布度の考え方をを用いて、複数の語彙調査または基本語彙に共通する語彙を基本語彙としたものには、Dale(1931), Dolch(1936), Johnson(1971), 清川(1976), 竹蓋(1981), 大学英語教育学会教材研究委員会(JACET)(1983), 東京都中学校英語教育研究会研究部(都中英研)(1986)などがある。

これらの中で本研究(第2章)の基礎的研究のテーマの一つである語の数え方の問題の契機となった基本語彙が竹蓋(1981~88)の「白色語彙」である。第1版の白色語彙から最終版の「キーワード5,000」まで6回改訂された。この研究は、元にした言語材料が延べ912万語というその規模の大きさと、継続的に問題点の解決を試みた点で注目される。以下①~④でその改訂の概要を述べる。

① 白色語彙(1981)

1960年代頃から語彙調査にはコンピュータが使用され、語の数え方はコンピュータ識別に都合の良い“word-form”, すなわち、変化形をすべて1語と数える方法が用いられるようになった。竹蓋はそのような数え方で作成された Kucera and Francis(1967)と Carroll, *et al.*(1971)の両者合わせて延べ6,102,953語を代表する語彙調査の頻度上位各1万語に共通して含まれる7,360語を求め「白色語彙」と命名した。命名の理由は「違った色の光を重ねあうようにすべて集めると白色光になる」ように、現代英語を代表する多くの種類の言語材料を分析した2つの語彙調査の混合に

表1-7 主な基本語彙

研究者	年	語数	基本語彙名	選定基準	作成方法
Thorndike	1921	1,000	First 1,000 Words	頻+分	調査の上位
Ogden	1930	850	Basic English	主	同意語の除外
Dale	1931	769	Dale List of 769 Easy Words	分+頻	調査2種の共通語
Palmer	1931	3,000	The Standard English Vocabulary	主	調査+経験
Faucett,他	1932	1,534	indispensable and essential words	頻	調査2種合計の上位
I. R. E. T.	1934	1,000	The 1000-Word Radius	主	経験
West	1935	1,490	defining vocabulary (New Method D.)	主	定義
Dolch	1936	220	Dolch Basic Sight Vocabulary	分+頻	調査3種の共通語
Thorndike他	1944	1,000	First 1,000 Words	頻+分	調査の上位
Dale他	1948	3,000	Dale 3,000 List	主	既知語の調査
West	1953	2,000	A General Service List of English Words	主	頻+主
中村他	1963	5,004	高校生の英語必修語彙	主	主
Johnson	1971	306	A Basic Vocabulary for Beginning Reading	分	調査2種の共通語
Otto他	1972	500	Sight Words for Beginning Reading	頻	調査の上位
Harris他	1973	332	Basic Vocabulary for Beginning Reading	分	調査のうち1年生用
Hillerich	1974	240	240 Starter Words	分	調査4種の共通語
van Ek	1975	1,600	The Threshold Level	主	機能、概念の分析から
van Ek	1976	1,495	The Threshold Level for Modern Language Learning in Schools	主	機能、概念の分析から
清川	1976	278	The 278 Most Frequently Spoken Words	分	調査3種の共通語
全英連	1981	4,800	高校基本英単語活用集	主	頻, 分, 主, 経験
Hindmarsh	1980	4,500	Cambridge English Lexicon	主	頻+直感
竹蓋	1981	7,360	白色語彙	分+頻	調査2種の共通語
Engels他	1981	3,286	L. E. T. Vocabulary-List	分+頻	調査, 基本, 計6種
JACET	1983	3,990	JACET List of Basic Words	分+頻	調査, 基本, 計4種
都中英研	1986	1,860	基本語彙1,000語, 補足460語, 外来語400語	分	調査, 基本, 計12種
金田	1988	4,000	D4000学習語彙リスト	分	調査, 基本, 計15種
Summers 他	1987	2,100	The Longman Defining Vocabulary	主	定義
竹蓋他	1988	6,546	白色語彙マークVI	頻	調査8種合計の上位
竹蓋	1988	5,000	キーワード5,000	頻	調査の上位

頻：頻度 調査：語彙調査
 分：分布度 基本：基本語彙
 主：主観

より偏向のない基本語彙を求めようとしたからである。

② 白色語彙マークⅡ～マークⅤ(1983～1986)

白色語彙(1981)は、文字言語の語彙に比べ音声言語の語彙が十分とはいえないため、Dahl(1979)他が加えられた。さらに日本人学習者のためには、日本人学習者が興味を持つ言語材料を加える必要があるという観点から雑誌『タイム』の語彙(竹蓋, 1987)他が含められた。その結果、マークⅤは延べ9,128,733語を代表する68,750語の語彙となった。

③ 白色語彙マークⅥ(1988b)

さらに改善するために他の研究者の基本語彙と比較しようとした時、語の数え方の違いが問題となってきた。マークⅤは数え方が上で述べたように“word-form”であるが、従来から広く使われている Thorndike, et al.(1944) や West(1953)などの基本語彙は変化形を一括して1種類の語と数える“head-word”によるため、両者は単純には比較できない。そこで、このマークⅤの頻度上位15,000語を中心にして各変化形を原形に手作業で変換して「白色語彙マークⅥ」6,500語が作成された。その際、コンピュータによる変化形から原形への自動変換ができないため、原形への変換は手作業により相当の時間を要するという問題が残った。

④ キーワード5,000(1988)

次に、白色語彙マークⅥから固有名詞と略語を除き、頻度上位5,000語までを「キーワード5,000」とした。このリストの有用性の高さは内外の10種の基本語彙と比較して証明された。

竹蓋(1981～1988)の「白色語彙」以外に、既存の語彙調査や基本語彙をもとにして作られた基本語彙で注目されるものが2つある。それは、大学英語教育学会教材研究委員会(JACET)(1983)と東京都中学校英語教育研究会研究部(都中英研)(1986)のものである。

JACETの“JACET List of Basic Words”は大学の「2年間の課程を終えるまでに習得すべき認識用語彙」の3,990語からなり、Kucera and Francis(1967), Carroll, et al.(1971)など4種の語彙調査、基本語彙を中心にその他7種の基本語彙を参考資料とし、「3ないし4つの語彙表に共通に現われているものはできるだけ採用」して選定された。

都中英研の「基本語彙1,000語、補足460語、外来語400語」は Palmer(1931), We

st(1953)などの基本語彙12種のうち、6種以上にとりあげられている語を中心に
て、「東洋の日本という地域・文化の特徴から」数語、「主観的な視点から、日常生
活等に欠けている語」を加えて選定された。

2) 主観的な基準にもとづく基本語彙

客観的な基準とは異なる基準で作られたもので、現在も利用されている主な基本
語彙に、① Ogden(1930), ② Palmer(1931), ③ West(1953), ④ van Ek(1976), ⑤
Hindmarsh(1980), ⑥ 全英連(1981), ⑦ Summers, et al.(1987)などがある。こ
れらの基本語彙の作成者たちは、それぞれ異なった観点から語彙の問題の解決に向
った。従って彼らの語彙選定の目的も方法も異なっていた。彼らは計測可能な頻度
や分布度といった客観的な基準は主たる語彙選定の基準として採用しなかった。

① Ogden の “Basic English” (1930)

“Basic English” は 850語からなる自足的な語彙で、最小の語彙であらゆ
る観念を表現しようと意図したものである。Ogden の目的はもともと国際語
を確立することにあつた。その選定方法とは、「ある語を他の語によって定
義する作業が重ねられた。たとえば, puppy は young dog に置き換えられ,
enter は go into, descend は go down という具合に変えられて、最後に
go, give, take などそれ以上は変えられない850語が残った。」(マッケイ, 1
979) というものであった。

② Palmer の “The Standard English Vocabulary” (1931)

1922年に文部省の招きで来日した Palmer はもともとは Thorndike の語
彙調査からスタートして主観的判断と経験的な資料を加えて3,000語の基本
語彙を選定した。Palmer は環境語(教室用語や日本人生徒のおかれている地
域社会に密接な語)を必須なものとして加えた。

③ West の A General Service List of English Words (1953)

語彙選定に関する国際的専門委員会がカーネギー財団の援助のもとで開か
れ, Thorndike, Faucett, Palmer, Westらの語彙選定の専門家たちによって
最も普遍性のある2,000語が選定され, Interim Report on Vocabulary
Selection(1936) として発表された。これを再録したものが West の A Gen
eral Service List of English Words(1953) である。外国語としての英語
の教授・学習のために作られたこの基本語彙は頻度の他に “(1) Ease or dif

ficulty of learning (=Cost), (2) Necessity, (3)Cover,
(4) Stylistic level, (5) Intensive and emotional words” が考慮された.

④ van Ek の The Threshold Level for Moderen Language Learning in Schools (1976)

Council of Europe(ヨーロッパの統合促進を目的に1940年設立)の特別プロジェクトによって選定されたもので、義務教育3年間の外国語としての英語教育の到達可能な目標を規定した。日常的場面で外国人との最低限のコミュニケーションを保つのに必要な「機能と概念」を分析し、そのために必要な1,495語を決定した。全く主観的な有用性の評価にたよっているという批判もある(Meara, 1980)。

⑤ Hindmarsh の Cambridge English Lexicon (1980)

Hindmarsh が Cambridge First Certificate in English の読解試験用に選定した基本語彙。West(1953)からスタートして17種の語彙調査、基本語彙を参考にして “intuitions of teachers of EFL” にもとづいて選んだ4,470語である。

⑥ 全英連の「高校基本英単語活用集」(1981)

全国英語教育研究団体連合会(全英連)が選定した「高校在学中にぜひとも覚えておく必要のある最小限度の4,800語」。選定基準は (1)頻度数の高いもの、(2) 使用範囲の広いもの、(3) 日本の現在の高校生に必要と思われるもの、(4) 現場の指導経験から必要と思われるもの、(5) 付録として巻末にのせた方がよいものとされている。

⑦ Longman 英々辞典の “The Longman Defining Vocabulary” (1987)

学習用辞書として評価の高い Longman Dictionary of Contemporary English(LDCE) (Summers, et al)の定義語彙。この辞書のすべての語は、この2,100語以内で定義された。元は West(1953)にもとづいているが、最近の頻度統計の情報を参照して更新されている。

3. 先行研究調査のまとめ

先行研究調査の結果，以下のことが明らかになった．

- 1) 主な基本語彙には Ogden(1930), Palmer(1931), Thorndike and Lorge(1944) West(1953), van Ek(1976), Hindmarsh(1980), 全英連(1981), 竹蓋(1981～1988), 大学英語教育学会(1983), 東京都中英研(1986), Summers, et al.(1987) などがある．
- 2) 基本語彙とその選定方法には，頻度基準による語彙調査の頻度上位語を求める方法や分布度の考え方をういて複数の語彙調査または基本語彙の共通語を求める方法といった計測可能な基準(客観的基準)によって選定されたものと，既存の語彙調査または基本語彙から主観的基準で語を取捨選択・追加する方法などのように計測不可能な各々の選定者固有の目的に沿った基準(主観的基準)によって選定されたものがある．
- 3) 音声言語の語彙研究は，発話のサンプルの収集が難しいなどの理由で比較的規模の小さい語彙調査が多く，文字言語の語彙研究に比べて遅れている．主な基本語彙のうち，音声言語を考慮したものは van Ek(1976)と竹蓋(1981～1988)の2つだけである．
- 4) 語の数え方には word-form を1語と数える方法と head-word を1語と数える方法の2とおりある．複数の基本語彙の優劣などを比較する場合，一方の数え方を他方の数え方に変換・統一しなければならない問題が生じる．

第3節 研究の目的

本研究の目的は、現代社会の学習者のニーズに対応できる教育用基本語彙を選定することであった。我々が1988年に選定した「キーワード5,000」は他の代表的な10種の基本語彙より実用上「有効度」の高い基本語彙であったが、この語彙も改善の余地がある。それは第一に「白色語彙」というどの言語材料にも共通の普遍的な基本語彙をめざした語彙からスタートしているため、日本人学習者が必要とするであろう言語活動で使われる語彙、たとえば、生活語彙がまだ十分とは言えない点である。第二に、元にした素材(言語材料)の中で中心を占める素材が25年以上も前のものなので科学技術用語などの最新の用語が不十分である。第三に、音声言語が十分でない。第四に、元にした素材の多くが他の研究者の行なったものなので、元の素材が手元になく、どのような文脈の中で語が用いられているかが調べられない点などである。

本研究は以上の点を改善するため、国際化社会、情報化社会、それに女性の進出のめざましい時代といわれる現代に生きる日本人学習者に必要とされる1980年代の生の素材を新たに収集し、分析して、日本人学習者のためのまったく新しい教育用基本語彙を選定しようという意図で行なわれた。

本論文の目的は次の3点である。

- 1) 日本人学習者が実際の生活環境の中で英語を使う場合に役立つ実用の語彙を多く含めた新しい英語教育用基本語彙を選定すること。
- 2) 選定された語彙を学習者に便利なように、学習者の成長・学習の順序を配慮して分類すること。
- 3) 日本人学習者が必要とするであろう言語活動における選定された基本語彙の有効度を計測し、他の研究者の基本語彙と比較すること。

「基本語彙」という名称は多くの研究者に使用され紛らわしいので、本研究で選定された基本語彙を本論文中では、以下、「現代英語のキーワード」と呼ぶ。

第 4 節 用語の定義

本論文で使用した用語は以下の意味で用いた。

語：両端を空白や句読点，引用符などで区切られた連続する文字の列

語彙：ある特定の目的で収集された語の集合

語彙リスト：語彙をアルファベット順，または，頻度順に配列した表

言語材料：調査または資料収集のために使用される複数の語で構成された標本

頻度：ある語が特定の言語材料中で何度使われているかを示す数値，または，出現回数

分布度：複数の言語材料，または，語彙調査，基本語彙の中で，ある語が何種類の言語材料，または，語彙調査，基本語彙で使われているかを示す数値

異語：ある言語材料中で使用されている異なる語

異語数：異語の数．出現回数は考慮しないで各語を 1 回に数えた合計

延べ語数：ある言語材料中で使用されている語の総計．異語数だけでなく，その反復使用されたものの数も加算したもの

語彙調査：1 つまたは複数の言語活動の語彙を代表するに足るだけの相当数の語を含む言語材料に現われた異語の使用頻度等の調査とその結果

語彙選定：ある基準にもとづいて語を選択すること

基本語彙：特定目的のために一定の基準にもとづいて語数を制限して選定した語彙

有用度：基本語彙がある目的のためにどれくらい役に立つかの度合い

特徴語：ある言語活動の語彙に含まれるが別の言語活動の語彙に全く含まれない語，または，両方の語彙に含まれるが前者での頻度が後者での頻度に比べ著しく高い語を前者の特徴語という．

有効度：基本語彙がある言語材料の語彙の何％をカバーしているかという割合を示す数値(単位は％)．下記の式によって求められる．

$$X = T / L \times 100$$

但し，X：有効度

T：基本語彙がカバーする目標言語材料の語数

L：目標言語材料の語数

目標言語材料：基本語彙の有効度を測定するために使用される対象となる言語材料

音声言語：音声で伝えられることば

文字言語：書かれた，または印刷された文字で伝えられることば

第5節 本論文の構成

第1章では，研究の背景，先行研究調査，および，研究の目的を述べた．第2章では，先行研究調査の結果その必要が明らかになって行なった4件の基礎的研究を，第3章では，本研究で開発した英語教育基本語彙の選定方法を記述した．第4章では選定された英語教育基本語彙の有効度の計測，および，その結果について述べた．第5章では，選定された基本語彙と他の研究者の基本語彙の有効度を比較した．第6章では全体のまとめを行ない，最後に参考文献リストを付した．付録には選定した「現代英語のキーワード」の語彙リスト，その他を付けた．

第 2 章 基礎的研究

第 1 節 はじめに

本章では、第 1 章で述べた先行研究調査の結果その必要が明らかになって行なった 1) ~4) の基礎的研究について述べた。

- 1) “Word-form” to “head-word” 変換プログラムの開発
- 2) 有効度指標の信頼性
- 3) 種々の言語活動の語彙
- 4) 音声言語の種類

1) は語の数え方が 2 とおりあるために起こる問題を解決するために、いわゆる word-form で定義された語を head-word のものに変えるプログラムの作成、2) は基本語彙の有用度を計測する際に信頼性の高い有効度指標を得るための言語活動サンプルのサイズの確認、3) はいろいろな分野の言語活動で使われている語彙は各々特徴があり、分野が異なれば使われる語彙も異なることの観察と確認、4) は音声言語の種類の観察である。

第 2 節 基礎的研究

1. “Word-form” to “head-word” 変換プログラムの開発

語の数え方には「変化形を一括して 1 種類の語として数える」「head-word”を単位とする数え方と、「変化形をすべて別語と数える」「word-form”を単位とする数え方の 2 とおりの方法があることを前章(先行研究調査)で述べた。Thorndike, et al. (1944) などのように人間研究者が作成した語彙リストには前者のものが多く、Kucera and Francis (1967) のようにコンピュータで英文を分析して作成した語彙リストは後者の数え方を用いることが多い。どちらの数え方にも長所、短所がある。head-word の数え方では語彙リストの全体の長さが短いので使いやすく、特にリーディング指導の立場で好まれているようである。しかし、個々の変化形の頻度がわからないので、音素の頻度研究やスペリング指導には不向きとされる。Word-form の数え方では個々の変化形の頻度はわかるが、それらがばらばらに表示されるため、ある語全体の頻度が把握しにくいという欠点がある。このようにどちらにも利点があるため現状では両者が混在している。

語の数え方が違うと、複数の語彙リストを厳密に比較することができない。そのため、今まで基本語彙の客観的な優劣の比較はほとんど行なわれていなかった。比較を可能にするためには白色語彙マーク VI の例のように 2 とおりの数え方をどちらか一方に変換・

統一する作業が必要になる(竹蓋他, 1988b). この変換・統一作業を手作業にたよると相当量の時間と労力がかかる. Francis and Kucera(1982)は, Kucera and Francis(1967)の100万語の英文データにもどって品詞情報を得, word-form の語彙リストを head-word の数え方に再編成したところ, その作業に約10年の月日を要したという. また, word-form で作成された白色語彙マーク V を head-word の白色語彙マーク VI に変換するには手作業で6 か月を要した.

そこで我々は, この問題を解決するため word-form を head-word にコンピュータで自動的に変換する “word-form” to “head-word” 変換プログラムを開発した(竹蓋他, 1988a). 本プログラムの特徴は以下のとおりである.

- i) 名詞, 動詞, 形容詞, 副詞の規則変化だけでなく, 不規則変化や代名詞の格変化にも対応する
- ii) 短縮形は短縮前の形に戻して変換する
- iii) たとえば, lives のようにその原形として, live, life の2とおりがああるものについては, 変換辞書に記入した Francis and Kucera (1982)のデータの出現比を参照し, lives の頻度を分配する
- iv) 変換用の辞書は延べ約1,000万語の英文で高い頻度で用いられた11,970語をもとに作成したので, 変換効率は高い

このプログラムの開発によって, 数え方の異なる語彙リストの比較が正確に行なえるようになり, 人間研究者による主観的な基本語彙とコンピュータによる客観的な基本語彙の優劣の比較が可能になった.

2. 有効度指標の信頼性

基礎的研究1によって, 客観的な基本語彙の優劣の比較が同一基準で行なえるようになった. 基礎的研究2では, 複数の基本語彙を比較するための概念として「有効度」を用いる際, その目標とする言語材料のサンプルサイズをいくらにすれば信頼できる有効度の指標を得られるかを調査した.

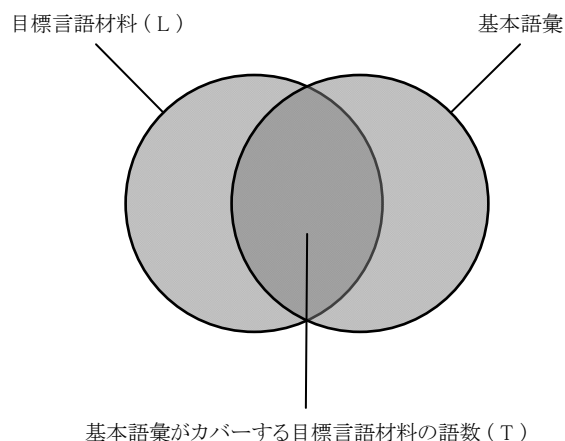
1) 複数の基本語彙の有用度を比較するための「有効度」

ある基本語彙が特定の言語材料(目標言語材料)に対してどれだけ有用であるかは, 基本語彙の各語が目標言語材料の中で各々何回使用されているかを調べ, 各語の使用回数の合計を目標言語材料の語数で割った比率で表わすことができる.

竹蓋(1983)はこの比率，すなわち，基本語彙が目標言語材料の語彙をカバーする割合を「有効度」または「有効度指標」と命名した。

この関係を図示したものが次の図2-1である。

図2-1 有効度の概念



有効度 (X:単位 %) は，下記の式によって求められる。

$$X = T / L \times 100$$

ただし， T：基本語彙がカバーする目標言語材料の語数

L：目標言語材料の語数

この有効度を用いることでいろいろな言語材料に対する各種基本語彙の有用性を一律に測定し，比較することが初めて可能になった。本研究でも，この「有効度」を用いて，基本語彙が目標言語材料の語彙をカバーする割合を求めた。

2) 有効度指標の信頼性

Engels(1968)は，Westの基本語彙(1953)はどんなテキストでも95%をカバーするというWestの主張に疑問を持ち，Westの基本語彙が10種類の読み物(目標言語材料)の何%をカバーするかを各目標言語材料の語数を1,000語にして調査した。その結果，平均でテキストの79%しかカバーしておらず，Engelsは「Westの主張する95%は偽りである」とした。しかし，Engelsはこのように結果がWestの主張と大きく異なった原因として，「調査する言語材料の語数は1,000語では少ないのではないか。」と調査に使う言語材料の語数の問題点を指摘した。これは，目標言語材料の語数は安定した有効度を得られるに十分なだけ大きくなければならないことを示している。確かに目標言語材料の語数が多ければ多いほど有効度の指標は安定するが，言語材料の語数

に比例して、その収集と有効度の計測に要する労力が増大する。語数が少なれば少ないほど目標言語材料が集めやすく、多くの種類の目標言語材料について有効度を調べることができる。重要なことは、どこまで少ない語数で指標の値があまりばらつかない信頼できる指標の値が得られるかという限界の語数を確認することである。

そこで我々は、基本語彙の安定した有効度を得るために必要な目標言語材料の最低語数を調査するため、基本語彙の有効度が語数ごとに同一語数の言語材料の複数サンプル間でどれだけの幅でバラツキ（標準偏差）があるかを測定した（中條他，1989a, 1989b）。

目標言語材料は、なるべく分野に偏りがないように配慮して、日常会話、対談、ニュースなど音声言語10種、英字新聞、女性雑誌など文字言語10種、あわせて20種の言語活動の目標言語材料を各25,000語ずつ準備した。有効度を求めたい基本語彙には、1) 中学3年間の教科書で学習する語彙、2) 高校1年までの教科書で学習する語彙、同様に、3) 高校2年まで、4) 高校3年まで、5) 大学1年まで、6) 大学2年まで、のそれぞれの学年までの教科書で学習できる6段階の語彙*を6種の独立した基本語彙と仮定して準備した。図2-2に示すとおり、目標言語材料から100語～5,000語までの7種の大きさのサンプルを語数ごとに各5個抜き出し、計35種のケースを目標言語材料20種のそれぞれについて用意した。その総計700種のサンプルに対する6種の基本語彙の有効度4,200個を計算した。

その結果、サンプルの大きさ（語数）が変わると有効度の値の同一語数のサンプル間のバラツキ（標準偏差）の大きさが顕著に変わることがわかった（表2-1、図2-3）。当然推測されることであるが、サンプルの大きさがあまり小さいと有効度の値の安定性は低い。計測結果からみる限り、有効度の計測には、目標言語材料の語数は約1,500語あれば、ある程度安定した値が得られるという結論が得られた。

* 1) 中学3年までの教科書で学習する語彙	<u>New Horizon 1,2,3</u>	(異語数)	992語
2) 高校1年	”	1) + <u>Unicorn I</u>	1,794語
3) 高校2年	”	2) + <u>Unicorn II</u>	2,814語
4) 高校3年	”	3) + <u>Unicorn II B</u>	3,488語
5) 大学1年	”	4) + <u>Language and Culture 1</u>	4,783語
6) 大学2年	”	5) + <u>Language and Culture 2</u>	5,800語

図2-2 有効度のバラツキ（標準偏差）測定のための目標言語材料のサンプル

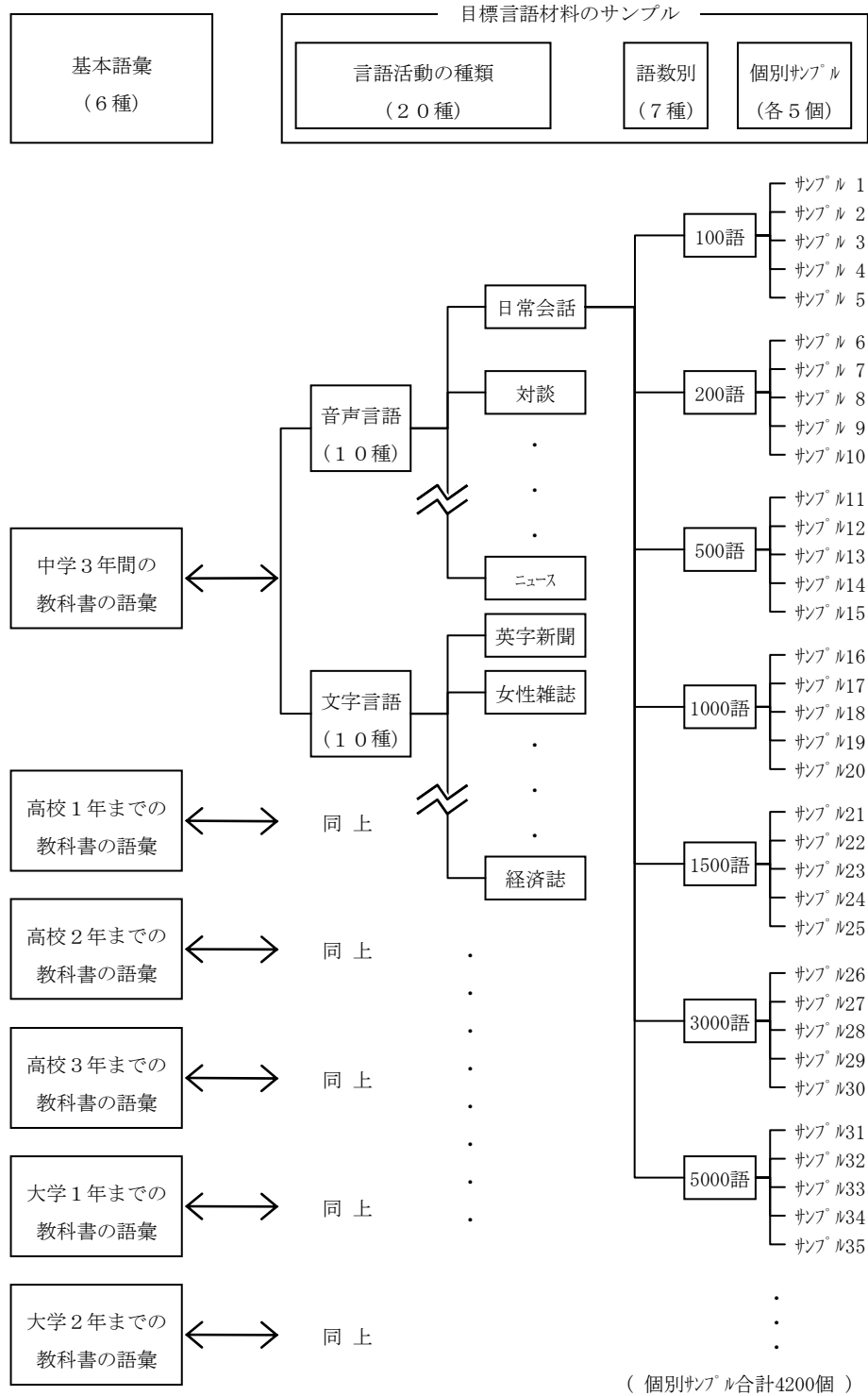


表2-1 サンプルの大きさによる有効度（平均値）の変動と

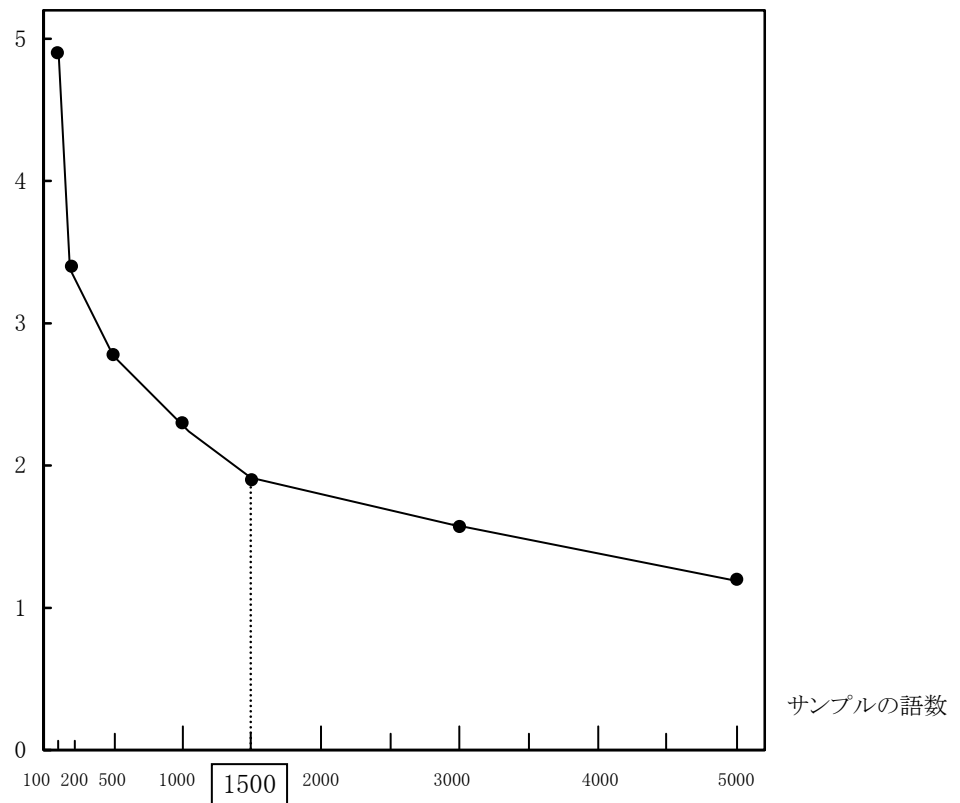
同じ大きさのサンプルでの有効度(%)のバラツキ（標準偏差）の変動

サンプルの語数（語）		100	200	500	1000	1500	3000	5000
音声言語	平均値(%)	86	86	86	86	86	86	86
	標準偏差	4.8	3.5	2.7	2.5	1.8	1.4	1.0
文字言語	平均値(%)	78	80	78	78	78	78	78
	標準偏差	4.9	4.1	3.1	2.6	2.1	2.1	1.8

図2-3 サンプルの大きさによる有効度のバラツキ（標準偏差）の変動

（音声・文字言語計20種の平均）

標準偏差



3. 種々の言語活動の語彙

下の2つの指摘にあるように、語彙調査はそれが元にした素材(言語材料)の特徴に影響されてある程度偏りのある語を含む。すなわち、ある語彙調査で頻度の比較的低い語が、他の語彙調査では比較的頻度の高い語として現われることがあり、どの言語材料にも共通の頻度の語彙を含む「一般的な語彙調査」はありえないといわれている。従って、日本人英語学習者のための基本語彙を求めようとする時、不特定多数の言語活動の種類の手言語材料をより多く収集して語彙選定するのではなく、日本人に必要な言語活動の手言語材料をもとに語彙選定することが求められる。

The Word-frequency count is very sensitive to the nature of the material from which it is extracted. The validity of the specific word count is unquestionable, but no general word-count is of such validity. (West, 1930)

どの言語材料にも共通の語彙、普遍的な出現頻度を求めるということは不可能に近い。逆に、必要であり、また、より有益な研究とは、特定の言語行為別に分類された材料中での語彙の出現頻度であり、それらの比較である。特に、日本における、英語教育の目標、必要性を考慮した言語材料の収集が必要であり、またそのための比較が必要だということである。

(竹蓋, 1981)

竹蓋(1981)は、分野によってその使用語彙が相当程度異なることを、私信、文学作品、科学論文など13種の分野の語彙と白色語彙を比較することで実証した。その結果、それぞれの分野の語彙には特徴語があることが確認された。

そこで、日本人にとって必要と思われる分野の語彙はどのような特徴を持っているかをみるために、我々は表2-2に示したように「ビジネス英語」(石川他, 1987), 「看護英語」(竹蓋他, 1987a), 「計算機科学の英語」(竹蓋他, 1987b), 「生活絵本(絵単語集)の語彙」(椎名他, 1988), 「女性向け英語雑誌の語彙」(中條他, 1989c)などを我が国の学校英語教科書(高校3年まで)と比較した。

表2-2 種々の言語活動の語彙の特徴語の例

種々の言語活動	特徴語の例
ビジネス英語	契約用語 (agreement) 決済用語 (payment)
看護英語	病名 (ulcer) 身体名称 (throat)
計算機科学英語	ハードウェア (device) ソフトウェア (arithmetic)
女性雑誌	家族 (kid) 対人関係 (marriage)
ニュース誌	軍事 (military) 政治 (agency)
生活絵本	生活 (cucumber, glue, laundry)

中学・高校の英語教科書で用いられている語彙は「比較的特徴のない語である」ことが明らかにされている(竹蓋, 1981). 従って, 各分野の言語活動の語彙から教育用語彙を除いた語は各分野の最も顕著な特徴的な語と言ってよい. この語彙を各分野の「特徴語」と呼び, その例を表2-2の右側に示した. 各分野の語彙はそれぞれ分野ごとに異なる特徴語を持っていることがわかる. また, 教育用語彙で不足していると言われる衣食住などの「生活語彙」は生活絵本に, 病気関連の語は看護英語に含まれていることが明らかになった. さらに, 女性雑誌の特徴語には「家族・対人関係・衣服・インテリア」に関する語があがっており, 語彙の面からも女性の特徴的課題, 興味の存在することが確認できた.

次に, 分野が異なる2種の語彙の類似度(共通部分の語数の割合)を調べることによって両者が異なる種類の語彙であることを確認した. 一例として, ビジネス英語と教育用語彙との組み合わせ(異分野間)の類似度は35%であった. ビジネス英語の言語材料を二分割して得られた前半と後半の組み合わせ(同分野内)の類似度は47%であった(35と47は Median testの結果, 有意差が認められた). 同分野内の共通部分が, 異分野間の共通部分より大きいことから, ビジネス英語の語彙と呼べる, 教育用語彙とは明らかに異なる語彙が存在すると言える.

これらの研究から, 「語彙は分野によってかなり異なる」ことが再確認できた. 従って, 基本語彙のための素材(言語材料)の選択の際には, 分野に偏りがでないように留意すること, また日本人のための基本語彙を選定するためにはその目的にあった素材を選ばなければいけないという二つのことがこれらの研究から示唆された.

4. 音声言語の類型

語彙は分野によって異なることが基礎的研究3で明らかになった. 基礎的研究4ではさらにそれらの分類を試みた.

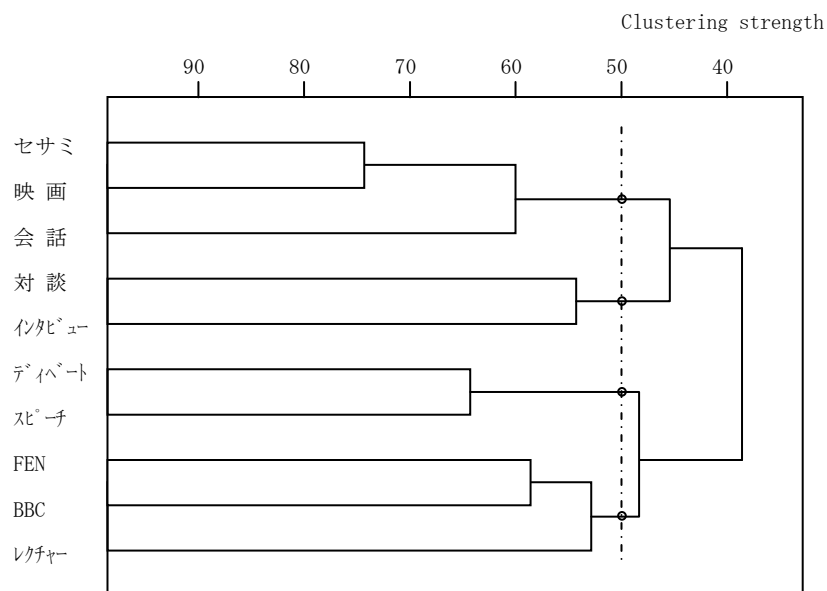
文字言語の言語材料が語彙の使われ方の面から分野別に分類できることは竹蓋(1982)によって実証されている. 一方, 音声言語の方は主観的, 仮説的にジャンル別の分類が試みられているにすぎない. 基本語彙の選定に使用される言語材料の分野に偏りがないようにするためには, 文字言語のみならず音声言語の言語材料も分野ごとに分類する必要がある. 我々は語彙の使われ方という数量的, 客観的データを使い, しかもその比較にクラスター分析という多変量解析の手法を用いて異なる10種の音声言語の語彙を客観的, 自動的に分類しようと実験的に調査を試みた(竹蓋他, 1990).

クラスター分析の基準には, guy, nation などの「特徴語」, please, which などの

「機能語」、短縮形や語・文の長さなどの「文体特性」をあわせて288項目選んだ。10種の音声言語のサンプルにおける288項目の頻度等が分類のためのデータとなった。クラスター分析の結果、10種の音声言語は図2-4に見られるように、クラスターの強度を仮に51にとるとセサミストリート、映画、会話の「対話(Intimate,Casual)」、対談、インタビューの「対話(Consultative)」、それに、ディベート、スピーチの「演説(Frozen)」、さらに、FEN、BBC、レクチャーの「報道・講演(Formal)」の4種の分野に分類できることがわかった。丸かっこ内の Intimate, Casual等の分類はJoos(1967)によるものである。

以上の結果から、音声言語の言語材料にはこれらの4種のタイプのどれかに偏ることなく選択した方がよいということがわかった。

図2-4 音声言語の類型



第3節 第2章の概要

本章では、先行研究調査の結果その必要が明らかになって行なった4件の基礎的研究、すなわち、1) いわゆる word-form で定義された語を head-word のものに変えるプログラムの作成、2) 信頼性の高い有効度指標を得るための言語活動サンプルのサイズの確認、3) 種々の言語活動とそこで使われている語彙の特徴の観察、4) 音声言語の類型について述べた。

第 3 章 英語教育基本語彙の選定

第 1 節 はじめに

本章では基礎的研究にもとづき、現代の日本人学習者のニーズに対応した教育用基本語彙「現代英語のキーワード」を選定した。

選定方法は以下の1), 2)からなり、その概要を図3-1に示した。

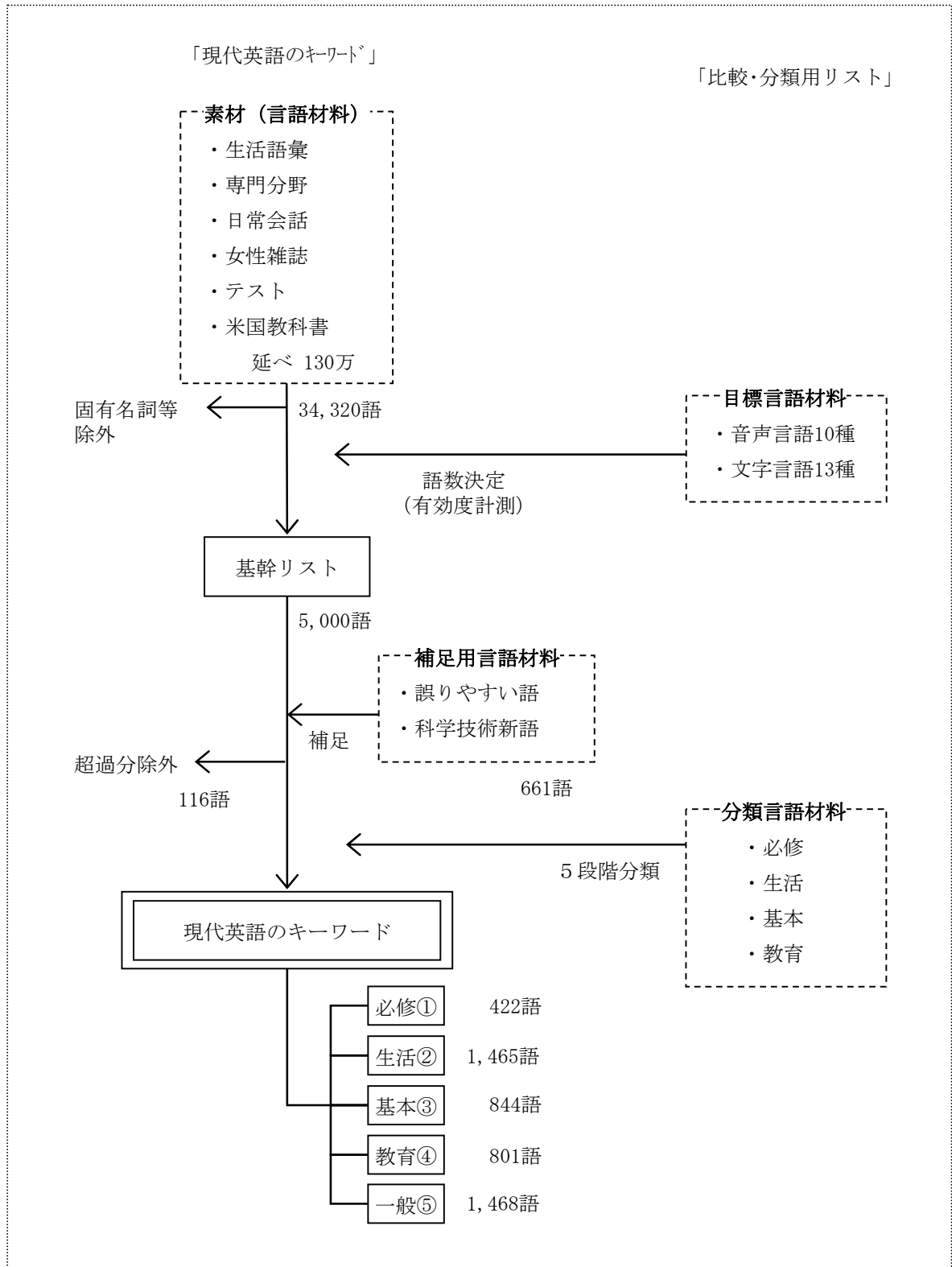
1) 基幹リストの選定

- ① 6分野・10種の素材（言語材料）を延べ1,298,977語、異語数で34,320語収集した。
- ② 収集した素材をデータベースに入力・分析・変換し、語彙リストの形で保存した。
- ③ 上記の語彙リストより固有名詞、略語、数詞を取り除いた。
- ④ 基本語彙の語数を決定するため「目標言語材料」を用いて各語数別の有効度を計測した。その結果にもとづき、頻度上位5,000位で切って「基幹リスト」を選定した。
- ⑤ 「補足用言語材料」として日本人の誤りやすい語と科学技術関連の新語の言語材料を収集した、データベースに入力・分析した後、固有名詞、略語、数詞を取り除いた。
- ⑥ 基幹リストに補足リスト(661語)を追加し、語数を調整して「現代英語のキーワード」の5,000語を決定した。

2) 5段階分類

- ① 「分類言語材料」と名づけた4種類の言語材料を収集し、データベースに入力・分析した後、固有名詞、略語、数詞を取り除いた。
- ② 5,000語を4種類の「分類言語材料」を使って5区分した。
- ③ 各語に意味、分類記号、頻度を付し、「現代英語のキーワード」が完成した。

図3-1 「現代英語のキーワード」の選定方法の概要



第2節 「英語教育基本語彙」の選定方法

1. 素材（言語材料）の選択・収集

「国際化社会」、「情報化社会」、それに「女性の進出のめざましい時代」などと言われる現代社会の学習者のニーズに対応できる基本語彙を選定するために、表3-1に示す6分野・10種の素材を収集した。基本語彙を選定するためにこの6分野を選択した基準は、学習者が希望する、または目標とするであろう23種類の言語活動(表1-5)を行なうのに必要か否かである。各分野の素材を選んだ各々の理由と背景を以下1)～6)に述べた。

表3-1 素材（言語材料）

分野	言語材料名	延べ語数	
生活語彙	Home, 『看護英語会話入門』, 他21冊	107,944	
専門分野	情報収集	The Japan Times, Time, Business Week	88,447
	ビジネス	Business English Master, Vol.1～5, 他5冊	114,447
	会議	『会議英語』, 『国際会議英語の聞き方話し方』	58,077
	法律	Law and Modern Society, 他1冊	46,834
	コンピュータ	PC Computing, English for Computer Science	45,891
日常会話	A Corpus of English Conversation	74,910	
女性雑誌	Elle, Cosmopolitan, 他2冊	85,249	
テスト	『昭和61年全国大学入試問題正解 英語』, 他6冊	50,428	
米国教科書	The Ginn Reading Program, Level K～15	626,750	
合計		1,298,977	

収集された6分野の素材の語数は延べ1,298,977語になった。言語材料はできるだけ1980年代に出版された新しいもので、ネイティブスピーカーの著作または共著のものを収集するように努めた。ネイティブスピーカーの英語とのバランスをとるために含めた米国教科書を除き、5分野・9種の各々についてほぼ10万語ずつ収集することをめざしたが、分野によっては言語材料が入手しにくいことや時間的な制約もあり、収集した各分野の語数は表3-1のようになった。なお、言語材料の出典の詳細については巻末の付録3に付した。

1) 生活語彙

最近、海外に渡航・赴任する日本人が急増しているという(総務庁統計局, 1989)。1966年に既に英語教育の専門家から「これからの(語彙選定に関する)仕事としては、学習者が実際の生活環境の中で英語を駆使して生活する場合、どのような語彙を用いるかについての研究」(山家, 1966)の必要性が指摘されていた。ところが今日になっても依然として、衣食住や病気など日常生活の場面で使われる「生活語彙」が学校英語教科書には少なく、コミュニケーションが十分にできないことは既に述べたとおりである。そのため、「もっと増やすべきである」という指摘が繰り返されている(堀内, 1976; 松原, 1987; 稲岡他, 1988; 浜野, 1989; 久保野他, 1989)。特に、「学校英語では健康状態を表す表現は非常に少ない」(櫻井, 1985)ともいわれる。

以上の指摘を重視し、生活に関する語の豊富な英文雑誌や絵単語集、病気に関する語の豊富な医療関係の本を言語材料に選択した。

2) 専門分野

現代の社会情勢に照らして次の①～⑤の「専門分野」で使用される語は日本人学習者に必要と考えられる。

- ① 世界の生の情報をとるために必要な新聞・雑誌などの「情報収集」の語彙
- ② 社会人に対する調査(小池, 1990)では、仕事上の必要で英語を使う人が54%もいるという。ビジネス実務を行なう際に欠かせない「ビジネス」英語
- ③ 各種の重要な国際学会や国際会議で使われる「会議」英語
- ④ 日本に比べ訴訟の多い社会では欠かせない「法律」関係の語彙
- ⑤ 中学1年生の84%がパソコン・ファミコンを所有し(松原, 1986)、学習指導要領(1989)にも数学、理科を中心にその使用がすすめられている「コンピュータ」関連の語彙

3) 日常会話

日本の国際化が進み、音声言語によるコミュニケーション能力を身につけることがますます重要になっている。ロンドン大学の Quirkらが中心になって収集した A Corpus of English Conversation(1980)全3部のうちの第1部を日常会話の素材として加えた。

4) 女性雑誌の語彙

英語において、アメリカのフェミニズムの影響は「1970年代以降英語に起こった最も重要な変化」(Crystal, 1988)といわれる。具体的には chairman のような「男性」語を chairperson のような中立語に置き換えたり、he や man の頻度が急激に低下する形となって現われた。このような社会的態度の変化は特に女性雑誌に顕著に現われたという報告がある(Cooper, 1984)。また、米国の雑誌番付、ギャラガー・レポートで上位10位の半数は女性誌で占められ、現代は「女性雑誌時代」ともいわれる(開高他, 1982)。さらに、女性誌と一般誌(男性向け)の語彙を比較した我々の研究においても、女性の用いる語と男性の用いる語の性差を質的、量的に確認した(中條他, 1989c)。

以上のような事情から、女性雑誌の語彙も分析すべき言語材料に選んだ。

5) テストに多く使われる語彙

中学生のうち95%が高等学校に進学する。さらに高校生のうち49%が大学・短大を志願するという調査がある(文部省, 1990)。これらの受験の際にはほぼ例外なしに英語の試験を受けなければならない。また、米国やカナダなどの外国の大学や大学院への留学志望者は TOEFLの留学試験を受けなければならないが、日本でも受験者は年間5万人近くに達し(古藤, 1989)その数は年々増えているという。このような状況ではやはりテストに多く使われる英語を無視することはできないと考え、テストに多く使われる語彙を素材の1つに選んだ。

6) 米国教科書の語彙

日本人の英語に対する感覚は、ネイティブスピーカーの英語とずれていることが、これまでの研究で何度も指摘されている。特に語については次のような指摘がある。「affection, feeling, happiness, artist, culture, polite, impression など日本人が特に好んで使う語がある。」(竹蓋, 1981)

そこで、言語材料の選択においてもネイティブスピーカーの英語とかけ離れたものとならないように、米国で広く使われている国語(英語)教科書 Ginn Reading Program の幼稚園から8年生までの教科書の文章を素材として収録した。リーディングプログラムは子供の言語発達に合わせて、低学年では家や学校社会における子供の生活、高学年では文学、伝記、民話、ユーモア、科学、詩まで幅広い話題が扱われており、ネイティブスピーカーの英語とのバランスをとるためには、相応しい言語材料と考えた。

2. 素材の入力・分析・変換

1) 使用した機器およびデータ分析用プログラム

言語材料の入力; 光学文字読み取り装置 OCR Kerzweil 4000, 5100

言語材料の分析; パソコン NEC PC-9801 VM

ワークステーション SONY NWS-1750

分析プログラム; 単語分析用プログラム (竹蓋他, 1986)

“Word-form” to “head-word” 変換プログラム (竹蓋他, 1988a)

言語材料を分析する際にパソコンの処理能力を超えた場合はワークステーションを使用し, UNIX上のユーティリティ awkを使った.

2) 入力・分析・変換の方法

光学文字読み取り装置を利用して入力した言語材料は単語分析用プログラムを使って単語単位に区切り, その出現頻度とともにアルファベット順の語彙リストを作成した. この語彙リストは word-form単位で作成されているので, 続いて基礎的研究1で開発した “word-form” to “head-word” 変換プログラムを用いて head-word単位に変換し, 保存した.

3) 分析結果

延べ1, 298, 977語の英文から異語数34, 320語の語彙リストが作成された.

3. 固有名詞, 略語, 数詞*の除外

1) 固有名詞, 略語, 数詞の扱い

素材に含まれる固有名詞, 略語, 数詞 (以下, 固有名詞等) を抜き出して観察した結果, それらの大部分は人名, 地名, 会社名, 算用数字であり, 各分野に特有のものというよりは, むしろ個々の言語材料に依存していることが判明した. また, 後で比較に用いる主な基本語彙10種では固有名詞等は除かれているものが多いため比較の都合上からも, 効率の高い基本語彙をめざす「現代英

* 固有名詞, 略語, 数詞の定義

- ① 固有名詞: 特定の人々, 場所, 国家, 月, 曜日, 休日, 雑誌等の名称を固有名詞というクック他(1977)の定義に従った. また, 文頭以外で大文字で始まる語は固有名詞または固有名詞化とみなした.
- ② 略語: ある語または語群の全形を用いる代わりにその一部で間に合わせることを省略といい, そうしてできた語を略語という大塚(1970)の定義に従った.
- ③ 数詞: 数的関係を示す語を数詞という大塚(1970)の定義に従った.

語のキーワード」にこれらの語を含めることは適当でないと判断し除外した。

2) 固有名詞等の除外の方法

各語を分析前の素材の英文で検索し、各語が英文中で文頭以外の理由で大文字で始まる場合に固有名詞または固有名詞化とみなし除外した。固有名詞と他の品詞の両方の用法を持つ語は、原則として頻度の高い方の品詞に分類した。略語と数詞についても同様の方法で除外した。

3) 除外した固有名詞等の扱い

除外した固有名詞等の中には Japan のような国名など、外国語としての英語学習上重要と考えられる語も少数ながら含まれているので、「現代英語のキーワード」を使用する人の判断で必要な固有名詞等をつけ加えられるように配慮した。除外した語のうち、基幹リスト収録基準の頻度13以上の1,019語を利用しやすいように分類して付録2に収めた。

4. 基幹リストの選定

素材を分析して得た語彙リストから、頻度の高い語を取り出して基本語彙のもとになる基幹リストを作成する際、何語を選んで基幹リストを構成すれば、できるだけ少ない語数で、しかも有効度の高い語彙を得ることができるかを明らかにする必要があった。そのため、まずこの語彙リストから頻度上位 1,000語, 2,000語, 3,000語, 4,000語, 5,000語, 6,000語, 7,000語, 8,000語を取り出し、以下に述べる「目標言語材料」に対するそれらの有効度を計測した。目標言語材料の最低語数を調査した基礎的研究2にもとづき、目標言語材料には有効度の計測に十分な延べ語数1,500語ずつを収集した。計算には竹蓋他(1986)の教育研究用プログラム集に収録された「有効度計算用プログラム」を用い、集計には表計算ソフト「Lotus 1-2-3」を用いた。

1) 有効度を計測するための目標言語材料

基本語彙の語数を決定するために語数別有効度の計測に使用する目標言語材料としては、選定された基本語彙の有効度を計測するための23種の言語材料と同一の言語材料を使用した(表4-1)。

一般的に音声言語は文字言語に比べて少ない語数で言語活動が行なわれることが明らかにされており(Dahl, 1979), 両者に対する有効度に差が出るのが予想されたので、目標言語材料を音声言語と文字言語に分けた。また、目標言語材料を選択する際には、その分野が偏らないように、我々が行なった音声言語の類型

(基礎的研究4)および文字言語の類型(竹蓋,1982)の研究結果を参考にした。

2) 語数別有効度の計測結果

23種の目標言語材料に対する1,000語～8,000語の計8種の語彙リストの有効度を計測した結果をまとめ、図3-2、表3-2に示した。8種のそれぞれの語彙リストの23種に対する有効度の平均値を示す点を結ぶと、語数の増加に伴う有効度の変化を表わす直線の連鎖①から⑦が得られた。表3-2の右欄に示した1,000語ごとの有効度の増加量を、図3-2の右の軸にとり棒グラフを描いた。

図3-2 語数の増加に伴う有効度の値の変化

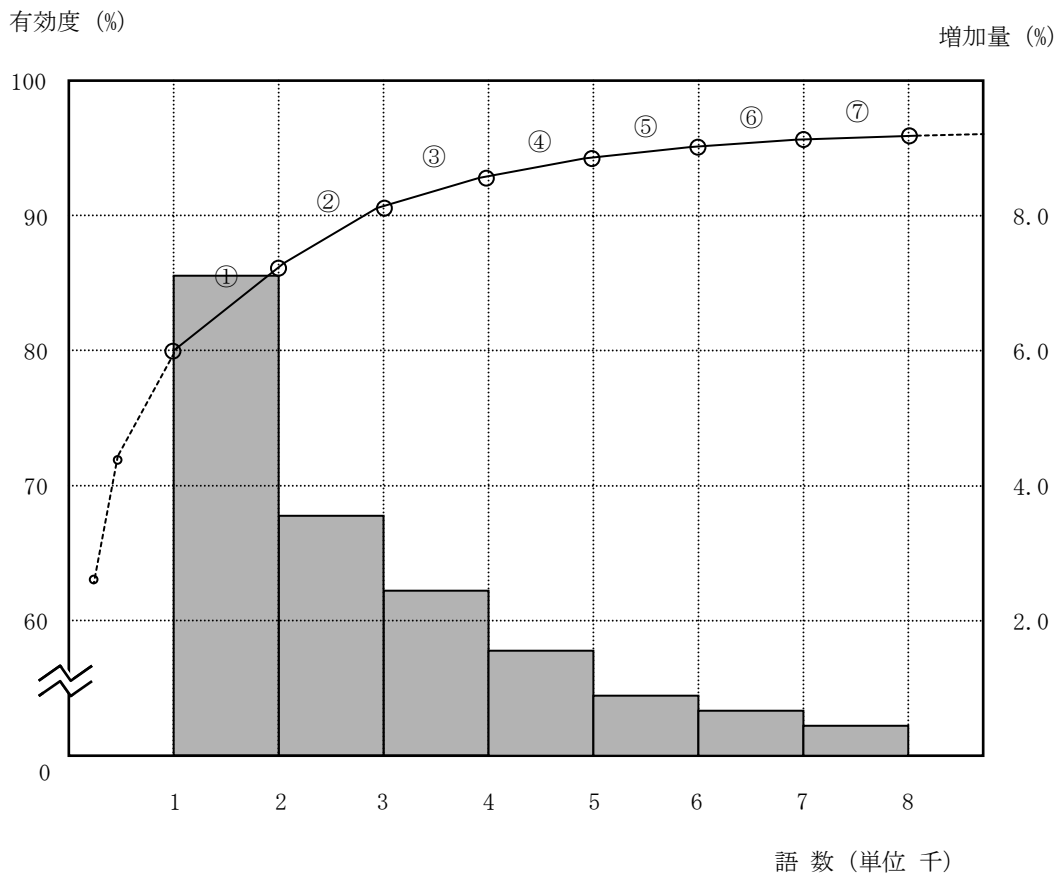


表3-2 語数の増加に伴う有効度の値の変化

直線	語数	有効度(%)	1000語毎の増加量
①	1000 → 2000	79.6 → 86.7	7.2
②	2000 → 3000	86.7 → 90.3	3.6
③	3000 → 4000	90.3 → 92.7	2.4
④	4000 → 5000	92.7 → 94.3	1.6
⑤	5000 → 6000	94.3 → 95.2	0.9
⑥	6000 → 7000	95.2 → 95.8	0.7
⑦	7000 → 8000	95.8 → 96.5	0.6

3) 「現代英語のキーワード」の語数の決定

図3-2と表3-2で明らかなように、当然ながら、有効度は語彙リストの語数が増すに従って増え続ける。しかし、その上昇の程度は徐々にゆるやかになる。そして、図3-2の直線の連鎖ではあまり明確でないが、表3-2の右欄にある

1,000語毎の向上を示す上昇率の数値、および、図3-2の棒グラフを見ると、有効度の上昇の度合いが5,000語を超えたときにそれまでの増加量に比べ大幅に小さくなり、「高原状態」になることがわかる。すなわち、1,000語から5,000語まで1,000語ずつ増やしていくときの有効度はそれぞれ7.2から1.6%も増えるのに対し、5,000語を超えてさらに1,000語ずつ学習しても有効度の向上はそれぞれ0.9, 0.7, 0.6%と1%を切り、しかもほとんどその「向上の度合いが変わらなくなってしまふ」ということである。これは5,000語を境にして学習効率が大幅に落ちることを意味する。

以上の結果から、できるだけ少ない語数で高い有効度を得るためには、語彙リストの語数を5,000語程度に抑えることが有利であると判断し*、「現代英語のキーワード」の語数を5,000語に決定した。

そこで、素材を分析して得られた語彙リストの中から、頻度13以上の5,000語を取り出して仮に「基幹リスト」と名づけた。

* 5,000語に決定したもう1つの理由は、本研究で選定した「現代英語のキーワード」は他のリストとの比較の都合上、固有名詞、略語、数詞約1,000語が除かれているが、この語彙の実際使用上は当然それらが加えられることを考えれば有効度が95%を超え、未知語に遭遇する割合もそれだけでコミュニケーションがある程度可能な20語に1語以上となるのが容易に推定できるからである。

5. 補足リストの選定

1) 「補足用言語材料」の収集

6分野の素材から作成した基幹リストに補足する「補足用言語材料」として、日本人学習者が注意すべき、その使用に際して誤りやすい語と、現代に生きる社会人として知っているべき科学技術関連の新語を収集した(表3-3).

表3-3 「補足用言語材料」

分野	言語材料名	異語数	補足語数
日本人の誤りやすい語	『日本人の英語欠陥辞典』, 『日本人の英語』 『日本人が間違いやすい英語表現』, 他12冊	1,535	525
科学技術関連の新語	『先端技術キーワード辞典』, 『データパル』 『最新科学技術情報事典』, 他2冊	1,606	136
合 計			661

i) 日本人の誤りやすい語とその分類

日本人学習者の誤りやすい英語の存在は多くの研究者が認めており、その原因は母国語である日本語の影響にあることが指摘されている(三浦, 1971; 松井, 1979; 小島, 1980; 竹蓋, 1981)。そのような間違いやすい英語にどのようなものがあるかを明らかにし、間違っ使われやすい語を正しく学習することが学習効率を高めるために重要と考えられる。従って、日本人学習者のための基本語彙を選ぶ際、頻度の高い語だけを入れるのではなく、日本人が誤りやすい語も基本語彙に入れる必要があると考えた。

日本人の誤りについて書かれている本は少なくない。我々はネイティブスピーカーの感覚を重視し、12人の英語教育に携わっているネイティブスピーカーが「日本人の誤りやすい英語」について書いた、『日本人の英語欠陥辞典』(ミルワード, 1983) など15冊を選んだ。その中で指摘されている誤りやすい語・イディオムを延べ2,866語収集した。

それらを誤りの所在によって大きく4分類し、さらにそれぞれを下位分類して次の表3-4に示した。

一番多い誤りは、「教える」という日本語に対して *teach*, *show*, *tell* のどれを用いるかといった場合のような日本語と英語の意味・発想の違いに起因するものである。それぞれの小分類での順位は、多いものから 1) 日英の語義の対応の

ずれ, 2) 前置詞・接続詞, 3) 文型, 4) 数, 5) 日本人に使用過多, 使用不足の語の順であった。ネイティブスピーカーたちが著作の元にしたデータの多くは英作文, 論文等であったため, 発音の誤りは全体の1%に満たなかった。しかし, 発音の誤りやすい語は, 素材の一つ「テスト」に収集されている。

表3-4 ネイティブスピーカーに指摘されている誤りやすい語の分類

誤りの原因		誤りやすい語の例	語数	比率(%)
意味・発想	日英の語義のずれ	teach, show, tell	831	29.0
	文体レベルの誤り	above-mentioned (法律用語)	165	5.8
	使用過多, 不足	so-called (使用過多)	196	6.8
	カタカナ英語	feminist (女権拡張論者)	47	1.6
	コロケーション	drink* soup (eatが正しい)	26	0.9
	小計			1,265
文法構造	前置詞・接続詞	during (前), while (接)	317	11.1
	文型	discuss (that節をとらない)	303	10.6
	数	both (複数形で呼応)	249	8.7
	副詞	only (修飾する語の隣)	91	3.2
	代名詞	others (物には用いない)	89	3.1
	時制	recently (現在時制では誤り)	72	2.5
	形容詞	convenient (主語は it)	71	2.5
	冠詞	same (前に定冠詞)	71	2.5
	受動態	occur (自動詞は受動態なし)	49	1.7
	その他		71	2.5
小計			1,383	48.3
発音		Nobel, novel	27	0.9
つづり		atomosphere* (atmosphere)	191	6.7
合計			2,866	100.0

* 正しくない英語

ii) 科学技術関連の新語

技術革新によって新語が次々と生み出される現代社会において新語の収集は欠かせない。新語辞典の編者 Barnhart は「過去5年間の新語の42%は科学技術関係」のものであるとしている（佐々木他, 1988）。しかし、そのような語は通常公刊されている書籍を分析しても必ずしも高い頻度で使われてはいない。そこで、新語の中で最も高い比率を占める科学技術関連の新語を別の方法で収集することとし、表3-3に示した言語材料から見出し語を収集した。

「科学技術関連の新語」がカバーする範囲は著者によって多少異なるので、収集した言語材料のうち、最も広い範囲を扱っている『データパル』（相賀, 1990）を選んだ。その「科学・ハイテク」に分類されている以下の項目に含まれる語を「科学技術関連の新語」とした。

宇宙・地球 天文 宇宙開発 海洋 地震・火山 原子力 物理 核
理論物理学 素粒子 超伝導 生物 バイオテクノロジー 進化論
情報科学 ニューメディア OA・FA オーディオ ハイテク通信
コンピューター エレクトロニクス エネルギー開発
現代工学 航空工学 先端技術 新素材 ロボット

2) 「補足用言語材料」の入力・分析

「補足用言語材料」を基幹リストのための素材と同じ方法で入力・分析し、固有名詞等を除外した後、以下の基準で選定した計661語を基幹リストに補足する「補足リスト」とした。

i) 日本人の誤りやすい語

12人のネイティブスピーカーが指摘した日本人の誤りやすい語、計1,535語（異語数）のうち2人以上の著者に指摘された525語。

ii) 科学技術関連の新語

5冊の科学技術関連の新語を扱った書籍から収集・分析して得られた計1,606語（異語数）の新語のうち、475語が2冊以上で扱われていた。特定の1分野に偏る語（例 cobalt-rich）を取り除くため頻度の基準も採用し、475語のうち頻度5以上の136語。

6. 基幹リストへの補足と調整

1) 「補足リスト」の補足

基幹リストに日本人の誤りやすい語と科学技術関連の新語の計661語を加える準

備をしたところ、661語のうち545語はすでに基幹リストに含まれていたため補足後の基幹リストの語数は計5,116語になった。

2) 語数の調整

「現代英語のキーワード」は語数を5,000語にすることを先に決定していたので超過分の116語を取り除いた。その際、削除する語の選定には、「補足リスト」は削除の対象とせず、それ以外の語のうちから、次の i) と ii) の基準に該当する語を削除した。

i) 頻度の低い語 (頻度13~15)

ii) Dale, et al. (1981) の資料で学年指定の高い語 (Grade 13以上)

以上のようにして最終的に「現代英語のキーワード」の5,000語が選定された。

第 3 節 5 段階分類

1. 分類の必要性

選定された語彙は全体としてそれだけである程度の実用言語活動ができる量で、しかも学習効率が最も高い量ということで5,000語とされた。しかし、学校教育には中学校から大学まで異なるレベルがあり、そのすべての学習者に最初から5,000語を目標とさせるのは教育的に望ましくない。また5,000語の中には a, the, this, because などのようにそれがないと英語にならないような語もあれば, advocate, dismissal, dose など特定場面でのみ使われるような語も含まれている。そのために、5,000語の中で、どのような順序で、どのような種類の語彙を先に、または、後に学習したらよいか、語彙を下位区分に分類することが必要と考えた。

Thorndike and Lorge (1944) は約 2,000万語と称される膨大な量の英文を分析して得られた3万語を「出現頻度順」に1,000語リスト、2,000語リスト、3,000語リストなどのような段階別語彙リストに分類した。にもかかわらず、我々が以下に見られるような異なる分類法による基本語彙を選定したのには理由がある。それは人間、とくに外国人が第二言語として英語を勉強する時、その語彙を大量の英文での出現頻度順に学習することが最も自然な形とは言えないと考えるからである。そこで我々は人間の認知的成長に合った言語活動圏の広がりおよび外国語の学習環境の変遷を重点的に考慮し、そのような場面で使われる語彙の分類に従った段階別語彙の作成をめざしたのである。基本語彙をこのように分類することのもうひとつの利点は、それぞれの人間的成長段階で自分

の興味や必要にあったトピックの言語活動をすれば、それを通して外国語を学習すると、動機づけの面から見てもより効果的な学習につながることである。

そこで、「現代英語のキーワード」の5,000語の分類のために、使用頻度順という「論理的な順序」とあまり大きくない違いがなく、しかも、日本人学習者の年齢的成長にあわせて語の種類が身近なものから広い範囲へ、具体的なものから抽象的なものへと拡大していくように、1) 必修(語)、2) 生活(用語)、3) 基本(語)、4) 教育(用語)、5) 一般(社会人用語)の5段階の分類法を開発し、採用した。この分類によって学習者は頻度の高い、すなわち、使われる可能性の高い語から学習することが可能になるだけでなく、語彙の学習を自分の興味や必要と結びつけることも容易になる。

この学習者の年齢的成長段階にあわせて学習語彙を拡大していくという考え方は、日本の英語教育に大きな影響を与えた Fries(1945)の提案の中にもある。Fries は次の4つの段階を考えている。第1段階としては、機能語等を中心にして学校、教室など直接の環境に出てくる内容語を加えた程度のもの。第2段階としては、家庭・学校・教室など直接経験的なもの以外に、若干の主要な生活領域に関するもの。第3段階としては、一般的な経験領域において認知のための語彙を拡大し、最後の第4段階としては、専門的な分野に必要な語彙を重点的に習得する段階としている。

本研究では5段階分類を独自に考案したが、結果的に Fries の分類とある程度類似した結果となった。ただし、Fries は考え方を示すに止まったが、本研究では具体的に段階別に語彙を分類し、実用にするところまで進めた。

2. 分類の方法

1) 分類のための言語材料

5,000語を5段階に分類するために、表3-5に示す4種類の言語材料を使用した。

①「必修」を分類するための言語材料

5段階の最初のレベル「必修」を分類するためには、我が国の英語教育が中学校から始まることを考慮して、中学校教科書に使用することが義務づけられている文部省学習指導要領の必修語507語(1989年版)を準備した。

②「生活」を分類するための言語材料

2番目のレベル「生活」を分類するためには、一般的に年齢が低いときに学習される、また、身のまわりの生活用語が多く含まれている絵単語集、幼児物語、子供の会話の語彙調査(Moe, et al., 1982)を準備した。

③「基本」を分類するための言語材料

3番目の「基本」を分類するためには、Palmer, West らの英語教育の専門家が選定した代表的な基本語彙10種を準備した。どのような方面に進むにしても、英語が使えるようになるためには最重要の基本的な必修語彙として学ばなければならない語である。

④「教育」を分類するための言語材料

4番目の「教育」を分類するためには、大学の入試問題を含め、我が国の高等学校を中心とした学校教育のなかでよく使われる語彙を準備した。

表3-5 分類のための言語材料

分類名称	言語材料	異語数
必修	文部省の必修語	507
生活	絵単語集13冊，幼児物語41冊，Moe, <u>et al.</u> の和集合延べ325,593語のうち頻度5以上の語	2,268
基本	Palmer, West, Thorndike, <u>et al.</u> , 他7種の基本語彙の和集合5,695語のうち分布度5以上の語	2,227
教育	中学・高校教科書36冊，高校・大学入試問題9冊の和集合延べ332,701語のうち頻度4以上の語	3,542
一般	(上記4分類により分類された語を5,000語から除いた残りの語を一般社会人用語とした.)	--

これらの4種の「分類のための言語材料（分類言語材料）」は基幹リストの作成に用いた方法と同じ方法で入力，分析し，固有名詞等を除外した。これら4種を用いて5,000語を「必修」「生活」「基本」「教育」に分類し，残りの語を5番目の段階の「一般」の語に分類するが，各分類に配分する語数をほぼ1,000語程度にするため，「生活」「基本」「教育」の分類に用いた言語材料をそれぞれ，頻度5以上，分布度5以上，頻度4以上の語に限定した。

2) 分類の方法

まず，「現代英語のキーワード」5,000語のうち1番目の分類言語材料の文部省必修語に含まれている語を選別した。論理的には5,000語と文部省必修語の積集合をとったことになる。これらの語が第1の分類の「必修」となった。次に5,000語から「必修」に分類された語を除いた残りとして，2番目の分類言語材料との積集合をとったものを「生活」とした。さらに，5,000語から「必修」と「生活」を除いた残りとして，3番目の分類言語材料との積集合をとったものを「基本」とした。同様

に5,000語から「必修」「生活」「基本」を除いた残りとして、4番目の分類言語材料との積集合をとったものを「教育」とした。最後に5,000語から「必修」「生活」「基本」「教育」を除いた残りの語を「一般」とした。

3) 結果

「現代英語のキーワード」の5,000語は 1)「必修」が422語、2)「生活」が1,465語、3)「基本」が844語、4)「教育」が801語、5)「一般」が1,468語に分類された。ただし、文部省の必修語が507語であるにもかかわらず「必修」が422語となっているのは、そのうち頻度の低い語、固有名詞、および変化形等の85語は「必修」には含めなかったからである。

3. 表示の方法

付録1に収めた「現代英語のキーワード」の5,000語には、表3-6の例に示すように、各語の綴りのほかに「頻度」「分類」「意味」の3種の重要な情報を加えた。

表3-6 「現代英語のキーワード」の例

頻度	語	分類	意味
35099	A+	①	1つの
44	ABANDON	④	捨てる
27	ABDOMEN	⑤	腹部
107	ABILITY	③	能力
389	ABLE+	②	…できる
22	ABNORMAL	⑤	異常
36	ABOARD	⑤	乗って
3295	ABOUT+	①	…について(の)
342	ABOVE	②	…の上に[へ]
39	ABROAD+	③	外国で[へ]
35	ABSENCE	③	不在, 休み

「頻度」はその語が1,298,977語の英文中で、どの程度の出現「頻度」があったかを示した。

「分類」は学習者がいま学習している語が「必修」「生活」「基本」「教育」「一般」という5段階のどの「分類」に入っているかを、それぞれ「①」「②」「③」「④」「⑤」によって示した。たとえば、「生活」を「②」と表示したのは、一目でその語が5段階の中の第2段階の語であることがわかるようにするためであった。

「意味」には、基幹リストを作成する際に用いた英文で実際に使われた複数の意味のうち、ネイティブスピーカーが最初に習得する意味(Dale, et al., 1981)*の日本語訳を、1つないし2つ付けた。

日本人の誤りやすい語525語については、該当する見出し語の後に「+」の記号を付し、学習を進める上で注意を要する語であることを明確にした。

第4節 第3章の概要

本章では、教育用基本語彙「現代英語のキーワード」の選定方法について述べた。第1節では、その選定方法の概要について略述し、第2節では、「現代英語のキーワード」の選定手法、つまり、素材の選定、その収集、分析、変換、基幹リストの選定、補足リストの選定、基幹リストの語彙と補足リスト間の調整の方法について述べた。第3節では5,000語を日本人学習者が学習しやすいように5段階に分類する必要とその手法について述べた。また、各語に意味、分類記号、頻度を付した「現代英語のキーワード」の表示法について説明した。選定された「現代英語のキーワード」の5,000語については、その種類および分類結果の例示のため、一部を付録1に収めた。

* Dale, et al. (1981) の The Living Word Vocabulary は意味に関する比較的新しい資料の中でも信頼が置け、入手可能なものである。これは各語の意味別に、調査したネイティブスピーカーの75%以上の子供が、その意味を容易に理解できる学年を、40,400項目にわたって調査したものである。現在、意味の頻度統計で利用できるものはWest (1953) の2,000語の資料のみであるので、本研究では、この Dale, et al. (1981) を使用した。

第 4 章 選定された基本語彙の有効度

第 1 節 はじめに

現代社会の日本人学習者に必要とされる英語の言語活動にはその最終目標として次のようなものが考えられよう。

まず第一に国内にいる場合であるが、FEN「ニュース」を聞く、英字「新聞」や英文「雑誌」を読む、「映画」を見る、現代「小説」を読む、仕事でクレームの「手紙」を書く、海外「旅行」にでかける、海外出張で「ビジネストーク」をする、国際「会議」に出席する、留学「試験」を受けるなどである。このようなものに加えて、外国に住むようになれば、「生活」する、「テレビ」を見る、「料理」の記事を読む、「医者」にかかるといったような言語活動も考えなくてはなるまい。

本章では、このような言語活動で使われる語彙を、我々が選定した「現代英語のキーワード」でどの程度カバーできるかを観察する。具体的には、学習者が希望するであろう言語活動のサンプルを23種選定し、それらで用いられる語彙と「現代英語のキーワード」の積集合をとることによって、「現代英語のキーワード」の知識だけで希望する言語活動のどのくらいの割合が可能になるか「有効度」を計測した。

第 2 節 有効度の計測

1. 有効度を計測するための目標言語材料

有効度を計測するための目標言語材料として、表4-1に示した日本人学習者が必要とするであろう音声言語10種、文字言語13種の計23種の言語活動で用いられる言語材料を用意した。これらの言語材料は固有名詞、略語、数詞を除外した後、基礎的研究2にもとづき、延べ語数1,500語分を取り出して語彙リストに分析したものである。これら23種の言語活動は現代社会に生きる日本人学習者の最終目標と考えられるので、これらの言語材料で用いられている語彙を以下最終目標語彙と呼ぶ。

表4-1 最終目標語彙を得るための23種の目標言語材料

言語活動の種類		言語材料の内容	異語数
音 声 言 語	日常会話	大学生と大学職員の対話	292
	サバイバル英語	米国の短期滞在に必要な会話	358
	映画の対話	Tucker など映画の名場面	429
	看護婦との対話	患者への質問	326
	医者との対話	患者の症状について	523
	経済ニュース	ABC放送の経済解説	437
	ビジネストーク	交渉の英語	405
	会議英語	全体講演と分科会	409
	政治・法律ニュース リスニングテスト	FENニュース イラン・コントラ事件公聴会証言録 TOEFL 模擬試験の聞き取り問題	484 487
文 字 言 語	生活誌	料理, インテリアの記事	566
	生活用語	児童～成人向けの衣食住に関する語	1091
	女性誌	<u>Savvy</u> 気難しい上司の対処法	476
	美容誌	<u>Cosmopolitan</u> ダイエットの方法	538
	英字新聞	<u>The Japan Times</u> 株価の乱高下	477
	科学誌	<u>Science News</u> 1989年の主なニュース	681
	ビジネスレター	クレームの手紙	446
	パソコンマニュアル	<u>The Macintosh Bible</u> 初心者への説明	361
	パソコン誌	<u>PC Magazine</u> 表計算ソフトの比較	494
	科学読物	S. Hawking <u>A Brief History of Time</u>	429
	現代小説	A. Christie <u>N or M?</u>	462
	読解テスト	TOEFL 模擬試験の読解・語彙の問題	583
	政治誌	<u>Time</u> アジアの情勢 (中国の自営業)	610

2. 有効度の計測

目標言語材料で用いられている語彙（以下、目標語彙）のそれぞれに対して基本語彙が目標語彙の延べ語数の何パーセントを占めるかの割合を計算したものが我々の定義する有効度である。23種の最終目標語彙のそれぞれに対する「現代英語のキーワード」の有効度を計測した。有効度を求めた後、その結果を下の式

$$\text{未知語に遭遇する割合} = 100 / (100 - \text{有効度})$$

にあてはめ、「何語に一語未知語に遭遇するかの情報」を求めた。

第3節 選定された基本語彙の有効度

日本人学習者が音声言語，文字言語あわせて23種の目標言語材料で代表される言語活動をすると仮定した場合に，本研究で選定した「現代英語のキーワード」がどの程度有効に使えるかを示す有効度は94.3%であった(表4-2)。

表4-2 「現代英語のキーワード」の有効度

音声言語(10種)	有効度	文字言語(13種)	有効度	23種合計
日常会話	98.5	生活誌	92.8	
サバイバル英語	98.2	生活用語	78.9	
映画の対話	96.8	女性誌	96.4	
看護婦との対話	97.7	美容誌	90.9	
医者との対話	89.7	英字新聞	95.2	
経済ニュース	97.2	科学誌	85.9	
ビジネストーク	98.1	ビジネスレター	97.1	
会議英語	97.0	パソコンマニュアル	95.4	
政治・法律ニュース	94.3	パソコン誌	92.5	
リスニングテスト	96.8	科学読物	95.3	
		現代小説	96.1	
		読解テスト	91.7	
		政治誌	90.0	
有効度平均(10種)	96.4	有効度平均(13種)	92.2	94.3
未知語の割合	1/28.0	未知語の割合	1/12.8	1/17.5

この値は，「現代英語のキーワード」の5,000語をすべて学習したと仮定すれば，未知語に遭遇する割合が17.5語に1語ということを示す。さらに音声言語と文字言語に分けると，それぞれ28.0語に1語，12.8語に1語に相当する。

「未知語に遭遇する割合」がどの程度になれば普通の言語活動が可能になるかということは，実験的にはまだ明らかにされていないが(Nation and Coady, 1988)，経験的には「20語に1語ぐらいの未知語は十分に推測できる」(羽鳥, 1979; Bensoussan and Laufer, 1984)とされている。20語に1語という割合は有効度になると95%になる。

このような意見を参考にすると，「現代英語のキーワード」の未知語に遭遇する割合は，今日の学習者が最も望んでいる音声言語活動10種平均では「28語に1語」という結果であるから，このままでも十分なことがわかる。文字言語の方は「13語に1語」の割合であり，13種すべての言語活動には十分とはいえないが，13種中6種について有効度が95%を超えており，これらについてはこのままでも言語活動にはかなり有効であると

言える。残りの7種についても、「現代英語のキーワード」からは固有名詞，略語，数詞を除いてあるので，これらが入ってくると相当程度の言語活動ができることが容易に推測できる。総じて言えば，有効度の計測の結果，「現代英語のキーワード」はそれ自体で学習者が希望する言語活動全般についてある程度の言語活動が可能であると結論づけられる。

第4節 第4章の概要

本章では，教育用基本語彙「現代英語のキーワード」の有効度について述べた。第2節では，有効度を計測するための目標言語材料23種と有効度の計測について述べ，第3節では計測された「現代英語のキーワード」の有効度について報告した。

第 5 章 他の基本語彙との有効度の比較

第 1 節 はじめに

本章では、「現代英語のキーワード」と他の研究者の選定した語彙の有効度を比較する 3 種の方法、結果、およびその考察について述べる。

まず、「現代英語のキーワード」の有効度 94.3% を他の研究者の選定した基本語彙の有効度と比較するため、第 1 章で詳細に検討した他の研究者の 10 種の基本語彙についても同様に 23 種の最終目標語彙に対する有効度を計測し、比較した。

「現代英語のキーワード」と他の 10 種の基本語彙の比較はそれぞれの語数の異なることを考慮に入れ、同語数での最終目標語彙に対する有効度の比較もし、その場合での「現代英語のキーワード」と他者の基本語彙の差を求めた。さらに第 3 番目の比較として、基本語彙の語数が異なれば、目標とする言語活動も異なるであろうという仮定の上で、5 種の異なる目標言語活動を設定して比較した。

第 2 節 他の基本語彙との比較

1. 有効度を比較した基本語彙と比較の方法

1) 有効度を比較した基本語彙

「現代英語のキーワード」とその有効度を比較するため、第 1 章で詳細に検討した他の研究者が選定した「10 種の基本語彙」を、語数順に表 5-1 に示した。これらは、先行研究調査でも述べたように、それぞれ各研究者の独自の基準で選定され、現在も広く使われているものである。

これら「10 種の基本語彙」は、「現代英語のキーワード」と同じ基準で比較できるように固有名詞等を除外するなどした。また、Thorndike and Lorge (1944) からは「現代英語のキーワード」とほぼ同語数で比較ができるように、頻度の切れ目の関係で上位 5,060 語を取り出した。

表5-1 10種の基本語彙*

著者名	年	基本語彙名	略称	語数
Ogden	1930	Basic English	BASIC	850
van Ek	1976	The Threshold Level for Modern Language Learning in Schools	VAN EK	1,265
東京都中英研	1986	基本語彙 1,000語、補足 460語、外来語 400語	TOEI	1,746
West	1953	A General Service List of English Words	GSL	1,869
Summers, et al.	1987	The Longman Defining Vocabulary	LDCE	2,113
Palmer	1931	The Standard English Vocabulary	PALMER	2,869
大学英語教育学会	1983	JACET List of Basic Words	JACET	3,691
Hindmarsh	1980	Cambridge English Lexicon	CEL	3,752
全英連	1981	高校基本英単語活用集	ZEN	4,585
Thorndike & Lorge	1944	Teacher's Word Book of 30000 Words より上位 5,060語	THORN	5,060

2) 比較の方法

有効度の比較には以下の3種類の方法を採用した。

- ① 日本人学習者が必要とすると仮定された23種の言語活動で用いられる語彙(表4-1)、つまり最終目標語彙に対する「10種の基本語彙」それぞれの有効度を求めて「現代英語のキーワード」と比較する方法
- ② 基本語彙のそれぞれの語数が異なることを考慮に入れ、「現代英語のキーワード」を頻度上位から「10種の基本語彙」とほぼ同じ語数になるように区切り、ほぼ同語数にした「現代英語のキーワード」と「10種の基本語彙」の最終目標語彙に対する有効度を求めて比較する方法
- ③ 「現代英語のキーワード」および「10種の基本語彙」がそれぞれ語数が異なること、および、学習者の成長に合わせて目標語彙も変化することを考慮に入れ、基本語彙の語数に応じて異なる5段階の目標語彙(表5-3)を設定してそれぞれへの「現代英語のキーワード」と「10種の基本語彙」の有効度を求めて比較する方法

次に、上記3通りの比較の方法の各々について述べる。

* 以下、それぞれの基本語彙を表5-1に示した略称で呼ぶことにする。

2. 最終目標語彙に対する有効度の比較

1) 有効度を比較する基本語彙群:

「現代英語のキーワード」と「10種の基本語彙」の計11種

2) 有効度を求めるための目標語彙:

表4-1に示した23種の最終目標語彙

3) 有効度の計測と比較の方法:

23種の最終目標語彙それぞれに対する10種の基本語彙の有効度 計230個(23×10)が求められ、「現代英語のキーワード」の23種の最終目標語彙に対する有効度と比較された。

3. 同語数での有効度の比較

語数が5,000語の「現代英語のキーワード」と有効度を比較する「10種の基本語彙」の語数は850語～5,060語まで大きな幅がある。このように語数が多いものと少ないものとは有効度は明らかに語数の多いものの方が有利と考えられる。同一の有効度で比較するのは十分な比較とは言えない。

そこで、次に述べるような方法で再度、基本語彙の有効度を比較した。

1) 有効度を比較する基本語彙群:

「10種の基本語彙」とほぼ同じ語数になるよう、「現代英語のキーワード」を頻度上位から850語, 1,264語, 1,753語, 1,879語, 2,129語, 2,871語, 3,739語, 3,866語, 4,655語, 5,000語に区切った10種の語彙リストと「10種の基本語彙」

2) 有効度を求めるための目標語彙:

表4-1に示した23種の最終目標語彙

3) 有効度の計測と比較の方法:

23種の最終目標語彙それぞれに対する「現代英語のキーワード」から作成された語彙リスト10種の有効度 計230個(23×10)が求められ、「10種の基本語彙」の23種の目標語彙に対する有効度と比較された。

4. 段階別の目標語彙に対する有効度の比較

「現代英語のキーワード」と有効度を比較する「10種の基本語彙」の語数は大きな幅があるので、語数が少ないものと多いものを同一の、しかも、最終目標語彙のみに対する有効度で比較するのは十分な比較とは言えない。明らかに、語数の多いものの方が有

利と考えられるからである。

また、日本人学習者の目標は初めから『TIME』を読んだり『FEN』を聞いたりといった難しい言語活動にあるのではなく、最初は中学校英語教科書のようなものから始め、学習が進み、語の種類が増加するに従って段々に難しい内容のものをめざしていくものと考えられる。

そこで、以上の二点、つまり、基本語彙の語数の違いと学習者の成長に合わせた語の種類、量の増加による影響を考慮に入れ、次に述べるような方法でも基本語彙の有効度を比較することにした。

1) 有効度を比較する基本語彙群：

上記 2. や 3. の方法と異なるのは、まず第 1 に「10種の基本語彙」のうち THORN を除く 9 種について、基本語彙の語数を基準に以下の 5 つのグループに分類したことである。

- ① 500語以下
- ② 2,000語以下
- ③ 3,000語以下
- ④ 4,000語以下
- ⑤ 4,000語超

一方、「現代英語のキーワード」も「必修」、「生活」、「基本」、「教育」、「一般」の 5 段階分類を利用して各分類に区分された語を累計し、以下のように、語数の異なる 5 種の基本語彙を作成した。

必修	計 422語	(現代 1)
必修+生活	計 1,887語	(現代 2)
必修+生活+基本	計 2,731語	(現代 3)
必修+生活+基本+教育	計 3,532語	(現代 4)
必修+生活+基本+教育+一般	計 5,000語	(現代 5)

THORN については「現代英語のキーワード」に対応してほぼ同語数での有効度の変化を観察するため、5,060語を次の 5 種類の基本語彙に再編成した。それぞれの語数は現代 1～5 に等しくなるよう努めたが、頻度の切れ目の関係で「現代英語のキーワード」から作成した 5 種類の基本語彙とまったく同語数には作成できなかったものもある。

THORN の	上位 925語	(T L 1)
〃 の	上位 1,887語	(T L 2)
〃 の	上位 2,713語	(T L 3)
〃 の	上位 3,843語	(T L 4)
〃 の	上位 5,060語	(T L 5)

以上、有効度を比較する基本語彙の種類は、「現代英語のキーワード」から作成した5種、他の研究者の9種の基本語彙、THORN から作成した5種のあわせて19種（表5-2）となった。*

表5-2 語数別の基本語彙グループ

語数	現代英語のキーワード	THORN	基本語彙9種
500語以下	現代1		
2,000語以下	現代2	TL 1, TL 2	BASIC, VAN EK, TOEI, GSL
3,000語以下	現代3	TL 3	LDCE, PALMER
4,000語以下	現代4	TL 4	JACET, CEL
4,000語超	現代5	TL 5	ZEN

2) 有効度を求めるための目標語彙:

次に、語数別に分けた5つの基本語彙グループに対応するよう、それぞれの語数の枠内でできる言語活動の語彙を表5-3に見られるような内容の5段階に分類した。

- ① 最初の500語までの基本語彙でできる言語活動の語彙は、まず第一に学ばなければならないものとして文部省で決められた必修語とした。この語彙には主にそれがなければ英語にならないような語が含まれている。
- ② 2,000語まででできる言語活動の語彙は、一般的に年齢の低い時に学ばれる生活領域の語彙とした。

* 以下、それぞれの基本語彙を()内の略称で呼ぶことにする。

- ③ 3,000語まででできる言語活動の語彙としては、少し領域を広げ、どのような方面に進むにしても英語が使えるようになるための基本的な語彙とした。
- ④ 4,000語まででできる言語活動の語彙としては、大学入試を含め、高等学校を中心とした学校英語教科書に現われる語彙とした。
- ⑤ 4,000語以上でできる言語活動の語彙としては、日本人に必要と考えられた最終目標語彙23種の言語材料の和集合の語彙とした。

表5-3 語数別の基本語彙グループに対応した段階別目標語彙

基本語彙グループ	語数別基本語彙グループに対応する目標語彙
① 500語以下	文部省の必修語
② 2,000語以下	生活語彙（生活領域の語彙）
③ 3,000語以下	成人のための基本的な語彙
④ 4,000語以下	教育用の語彙＋日本人の誤りやすい語
⑤ 4,000語超	23種の目標言語材料＋科学技術関連の新語

以上、段階別目標語彙を得るために収集した言語材料のうち①から④は原則として「現代英語のキーワード」の5,000語を分類する際に用いた4種の分類言語材料である。ただし、4番目の教育用の目標語彙には、教科書や入試問題の語彙だけでなく日本人の誤りやすい語として12名のネイティブスピーカーに指摘された525語を加え、5番目の最高レベルの4,000語以上でできる言語活動の語彙には科学技術関連の新語136語を加えた。これは現代が顕著な国際化社会であることに加えて情報化社会とも呼ばれ、科学技術の進歩にめざましいものがあることを考慮したものである。

なお、この目標語彙の①から⑤までの分類は、原則として、内容が感覚的、経験的、直観的なものから具体的、客観的なものへ、そして抽象的、論理的なものへと重点が移動していくよう、さらに言語活動の範囲は、身のまわりから家庭生活へ、そして社会生活へとといったように段階的に広がっていく順になるよう配慮した。

3) 有効度の計測と比較の方法:

5段階の段階別目標語彙のそれぞれに対する計19種の基本語彙の有効度19個が求められ、比較された。この比較は、異なる内容語彙（語種）をどのくらいカバ

一できるかということに興味の重点があるため異語数のデータにより行なわれた。

延べ語数でのものとは別に異語数のデータで有効度を求める理由は、延べ語数で有効度を求めた場合の欠点として、the や a, of, at などの機能語をはじめとした数十語の頻度がそれ以外の語の頻度に比べて極端に高いため、実質的に有効度に差があってもそれが見えにくくなってしまうことがある。そこで、そのような事態を避けるためには異語数のデータが使える。言いかえれば、コミュニケーションの目的であるメッセージの理解に必要な内容語は必ずしも出現頻度が高くないので、そのような語の含まれている割合の高さで有効度を見るのにはこの方法による比較が不可欠なのである。

第3節 比較の結果

1. 最終目標語彙に対する有効度の比較

表5-4に23種の最終目標語彙に対する「10種の基本語彙」と「現代英語のキーワード」の有効度の計測結果を示した。

表5-4では、左の欄に言語活動の種類、中央の欄にそれぞれの言語活動で用いられた語彙に対する「10種の基本語彙」の有効度、右欄に「現代英語のキーワード」の有効度を示した。「10種の基本語彙」は右に行くほど語数の多いものになっている。言語活動は音声言語と文字言語に分け、音声言語10種と文字言語13種に対する有効度の平均値を別に計算し、結果を中段と下段に示した。最下段に計23種の目標言語材料すべてに対する有効度の平均値を基本語彙別に示した。また、有効度の平均値の下に、その有効度の値では「何語に1語未知語に遭遇するか」の割合を示した。たとえば、「1/28.0」とは「平均で28.0語に1語未知語に遭遇する」という意味である。

2. 同語数での有効度の比較

「現代英語のキーワード」から作成した「10種の基本語彙」とほぼ同語数の語彙リストと、「10種の基本語彙」の有効度を比較した結果を表5-5、図5-1に示した。

表5-5では、「現代英語のキーワード」を左欄に示した「語数」に区切って、23種の目標言語材料に対する有効度を計測し、各語数での23種の有効度平均の値を右から2番目の欄に示した。「10種の基本語彙」の欄の平均有効度は、表5-4の最下段に示したものと同じである。右欄には、「10種の基本語彙」と同語数の「現代英語のキーワード」との有効度の差を示した。表5-5をグラフにすると図5-1のようになる。縦軸に有効度の値、横軸に語数を取り、「10種の基本語彙」の位置を●で、それらの語数での「現代英語のキーワード」の有効度の位置を□で示し、各点をつないだ。同語数における両者の有効度の位置を点線で結んだ。この点線の長さが有効度の差を表している。

表5-4 最終目標語彙に対する「10種の基本語彙」と「現代英語のキーワード」の有効度

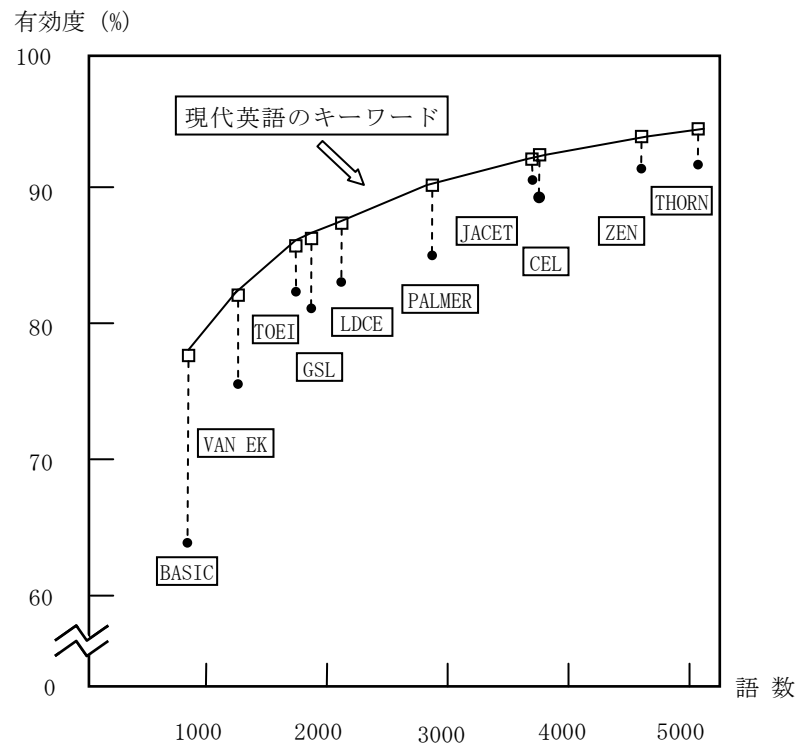
(単位：%)

言語活動の種類		10種の基本語彙 (語数)											現代英語 のキーワード (5000)
		BASIC (850)	VAN EK (1265)	TOEI (1746)	GSL (1869)	LDCE (2113)	PALMER (2869)	JACET (3691)	CEL (3752)	ZEN (4585)	THORN (5060)	10種の 平均	
音 声 言 語	日常会話	75.0	89.3	92.9	92.1	92.8	93.4	96.3	95.4	97.1	96.9	92.1	98.5
	サハ ^o イハ ^o ル英語	70.3	90.3	92.7	89.8	90.3	92.2	96.4	96.3	95.5	95.1	90.1	98.2
	映画の対話	68.0	85.3	91.2	89.3	91.0	91.7	95.3	95.3	96.1	96.2	89.9	96.8
	看護婦との対話	74.2	86.9	91.0	91.3	93.2	92.5	95.9	94.9	96.9	96.8	91.4	97.7
	医者との対話	62.4	71.4	76.3	76.6	79.0	78.9	85.9	84.9	87.4	87.3	79.0	89.7
	経済ニュース	67.0	74.8	82.4	82.4	84.1	87.4	93.5	90.5	92.4	93.9	84.8	97.2
	ビ ^o ジ ^o ネス トーク	64.8	78.2	82.9	83.0	85.1	87.5	93.6	92.3	94.6	94.2	85.6	98.1
	会議英語	65.9	80.2	85.5	83.6	85.1	87.2	94.8	92.3	95.2	94.0	86.4	97.0
	政治・法律ニュース	66.2	77.1	81.7	82.7	84.9	84.9	91.3	89.5	92.7	93.1	84.4	94.3
	リスニングテスト	68.8	84.8	90.4	87.6	89.5	91.0	96.0	95.0	95.9	95.3	89.4	96.8
	有効度平均	68.3	81.8	86.7	85.8	87.5	88.7	93.9	92.6	94.4	94.3	87.3	96.4
未知語の割合	1/3.2	1/5.5	1/7.5	1/7.1	1/8.0	1/8.8	1/16.4	1/13.6	1/17.7	1/17.5	1/7.9	1/28.0	
文 字 言 語	生活誌	60.4	72.3	79.8	80.2	80.8	83.1	87.8	86.3	88.5	90.0	80.9	92.8
	生活用語	33.5	38.8	52.7	47.7	48.9	56.3	65.5	67.1	67.4	69.9	54.8	78.9
	女性誌	62.8	77.5	84.5	82.1	84.7	85.3	93.6	92.1	92.9	93.4	84.9	96.4
	美容誌	59.9	67.9	77.4	77.1	79.0	81.1	86.1	85.2	88.3	88.6	79.1	90.9
	英字新聞	62.4	69.2	79.7	79.5	79.3	84.6	90.1	87.4	90.7	91.4	81.4	95.2
	科学誌	49.7	53.9	64.2	64.5	68.1	69.7	81.9	76.9	80.4	80.5	69.0	85.9
	ビ ^o ジ ^o ネスレター	65.5	77.9	85.7	84.1	85.9	88.9	92.9	92.8	95.7	95.6	86.5	97.1
	ハ ^o ソコ ^o ンマニユアル	64.8	78.8	87.2	84.0	85.7	87.2	91.6	92.4	91.1	92.7	85.6	95.4
	ハ ^o ソコ ^o ン誌	57.0	65.2	73.2	71.7	72.4	77.6	85.1	82.1	84.0	84.3	75.3	92.5
	科学読物	67.7	74.5	84.6	84.8	86.0	89.2	93.4	91.5	95.1	94.4	86.1	95.3
	現代小説	68.2	84.1	89.8	88.2	90.4	91.3	93.2	93.8	96.1	96.4	89.2	96.1
読解テスト	55.9	69.7	77.0	76.8	81.3	80.6	89.1	87.4	90.3	90.6	79.9	91.7	
政治誌	59.7	67.3	74.8	74.4	76.8	79.3	88.2	84.1	88.5	89.6	78.3	90.0	
有効度平均	59.0	69.0	77.8	76.5	78.4	81.1	87.6	86.1	88.4	89.0	79.3	92.2	
未知語の割合	1/2.4	1/3.2	1/4.5	1/4.3	1/4.6	1/5.3	1/8.0	1/7.2	1/8.6	1/9.1	1/4.8	1/12.8	
有効度平均(23種平均)		63.6	75.4	82.2	81.1	82.9	84.8	90.7	89.3	91.3	91.6	83.3	94.3

表5-5 「10種の基本語彙」と同語数の「現代英語のキーワード」の有効度
 (有効度は23種の目標言語材料に対する有効度の平均値)

語数	10種の基本語彙		同語数の現代英語の キーワードの有効度 (B)	有効度の差 (B)-(A) (ポイント)
	語彙名	平均有効度 (A)		
850	BASIC	63.6	77.5	13.9
1,265	VAN EK	75.4	81.9	6.5
1,746	TOEI	82.2	85.5	3.3
1,869	GSL	81.1	86.1	5.0
2,113	LDCE	82.9	87.3	4.4
2,869	PALMER	84.8	90.1	5.3
3,691	JACET	90.7	92.2	1.5
3,752	CEL	89.3	92.5	3.2
4,585	ZEN	91.3	93.9	2.6
5,060	THORN	91.6	94.3	2.7
平均		83.3	88.1	4.8

図5-1 「10種の基本語彙」と同語数で区切った「現代英語のキーワード」の有効度の比較
 (有効度は23種の目標言語材料に対する有効度の平均値)



3. 段階別目標語彙に対する有効度の比較

基本語彙の語数の違いを考慮に入れ、表5-6に示したように「現代英語のキーワード」と他の基本語彙を語数別に①～⑤のグループに分類した。グループごとに、その語数の枠の中でできる目標語彙を5段階（左欄の段階別目標語彙）に設定し、それらで用いられる語彙に対する有効度を求めた。「現代英語のキーワード」から作成された「現代1」、「現代2」、「現代3」、「現代4」、「現代5」の5種の基本語彙の有効度は有効度(B)の欄に、その他の基本語彙の有効度は有効度(A)の欄に示した。

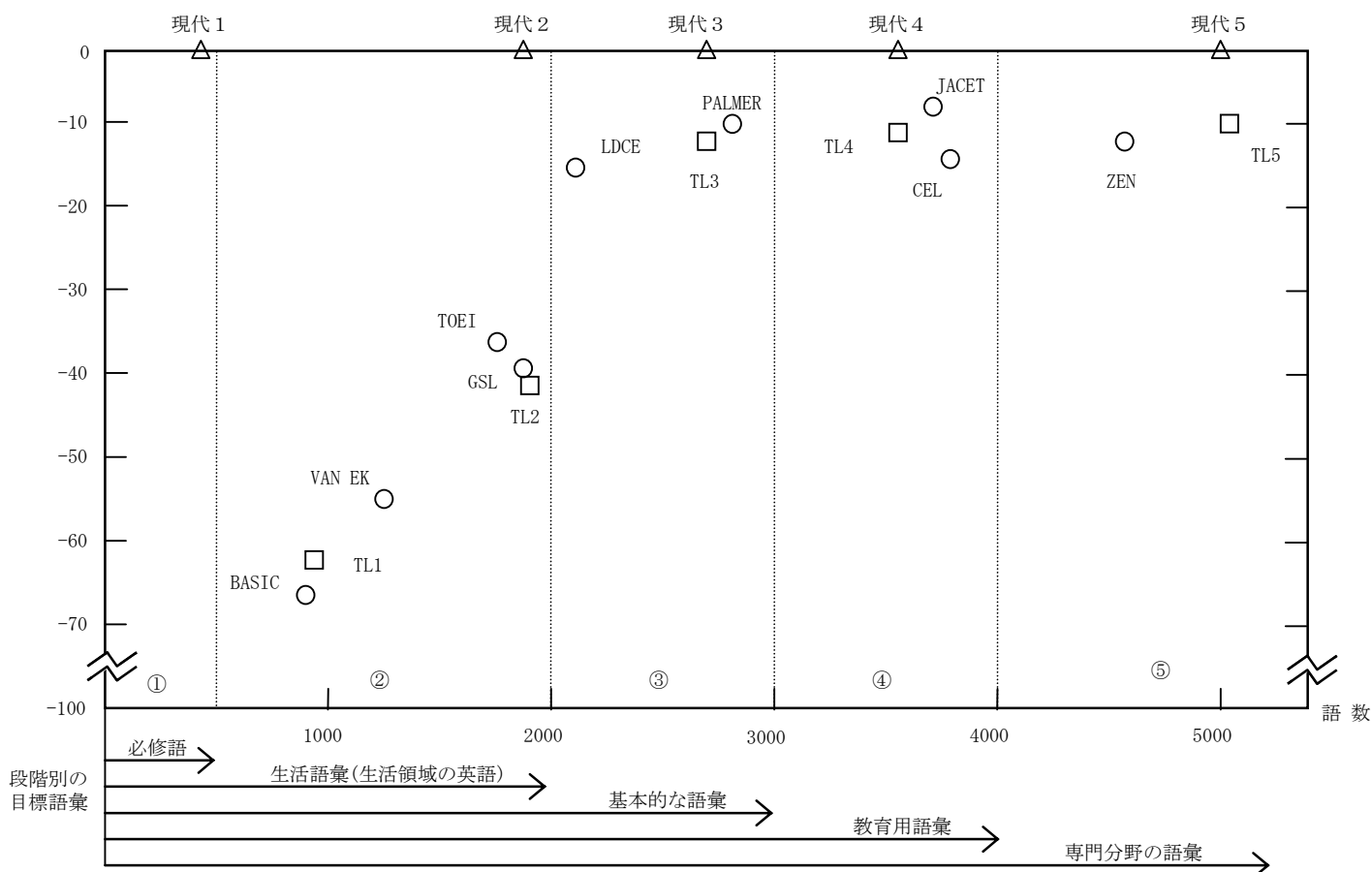
表5-6 段階別目標語彙に対する「現代英語のキーワード」と他の基本語彙の有効度

段階別目標語彙	語数別グループ		他の基本語彙			現代英語のキーワード			グループ内での差 (B)-(A)
	名前	語数	語彙名	語数	有効度(A)	語彙名	語数	有効度(B)	
文部省必修語	①	500以下				現代1	422	88.1	
生活語彙 (生活領域の英語)	②	2,000以下	BASIC	850	27.5				55.1
			TL1	925	32.1				50.5
			VAN EK	1,265	37.2				45.4
			TOEI	1,746	52.3				30.3
			GSL	1,869	49.3	現代2	1,887	82.6	33.3
			TL2	1,887	47.9				34.7
			有効度 (A)+(B) の平均			47.0			差の平均 41.6
基本的な語彙	③	3,000以下	LDCE	2,113	83.2				13.5
			TL3	2,713	86.2	現代3	2,731	96.7	10.5
			PALMER	2,869	87.7				9.0
			有効度 (A)+(B) の平均			88.5			差の平均 11.0
教育用語彙 (教科書・入試)	④	4,000以下	TL4	3,561	76.8	現代4	3,532	85.9	9.1
			JACET	3,691	79.7				6.2
			CEL	3,752	74.0				11.9
			有効度 (A)+(B) の平均			79.1			差の平均 9.1
専門分野の語彙 (23種言語活動)	⑤	4,000超	ZEN	4,585	58.8	現代5	5,000	67.1	8.3
			TL5	5,060	60.7				6.4
						有効度 (A)+(B) の平均			62.2
有効度の5段階総平均			61.0			84.1			23.2

表5-6 をグラフ化したものが図5-2である。各グループにおいて「現代英語のキーワード」から作成した「現代1」「現代2」「現代3」「現代4」「現代5」の基本語彙の有効度が一番高かったので、各グループごとにこれら5種の有効度に対する他の基本語彙の有効度の割合を示した。なお、第1グループの500語までの基本語彙には今回は「現代1」のみ該当した。

この図では語数別に区切られた長方形の範囲内でのみ基本語彙間の有効度位置を比較できる。縦は「現代1」～「現代5」を基準とした場合の有効度の差の割合、横は基本語彙の語数を示す。THORN から作成した5種の基本語彙の位置は□で示し、その他の9種の基本語彙は○で示した。

図5-2 段階別目標語彙に対する「現代英語のキーワード」と他の基本語彙の有効度
 (「現代1」～「現代5」を基準とした場合の有効度の差の割合)



第4節 考察

1. 最終目標語彙に対する有効度

1) 「10種の基本語彙」との有効度の比較

表5-4より、「10種の基本語彙」の有効度はそれぞれ BASIC (63.6%), VAN EK (75.4%), TOEI (82.2%), GSL (81.1%), LDCE (82.9%), PALMER (84.8%), JACET (90.7%), CEL (89.3%), ZEN (91.3%), THORN (91.6%)であった。いずれも本研究で選定された「現代英語のキーワード」よりかなり低い値である。「10種の基本語彙」の平均有効度は83.3%であり、「現代英語のキーワード」との差は約11.0ポイントであった。「現代英語のキーワード」の有効度は1番低い BASIC より約30.7ポイント、10種の中では1番高い THORN より約2.7ポイント高かった。

「現代英語のキーワード」と THORN の差は「わずか」2.7ポイントであったが、図5-1の「現代英語のキーワード」の2,871語と3,739語での有効度の位置を示す2点を結んだ直線の式から、THORN が5,060語で到達している91.6%という有効度に、「現代英語のキーワード」は3,545語の時点で達していることが推定できる。従って、今回調査したような23種の現代英語に対しては THORN には無駄な語が多く、逆に、「現代英語のキーワード」は THORN に比較して少ない語数で同じだけカバーしていると言える。

言語活動別に見て、有効度の高い順に基本語彙を並べたのが表5-7である。「現代英語のキーワード」は23種のうちの22種において有効度が1位であった。ただ1種、「現代小説」の Agatha Christie に対しては THORN の方が有効度が高い。THORN は文学作品を中心に行なった語彙調査の結果から選定されたので、言語活動の中で小説に対して、特に有効であることは当然であろう。

2) 言語活動別の有効度の比較結果

表5-7より23種のうち22種において有効度が1位であったが、特に、どの言語活動において「現代英語のキーワード」の有効度が高いかを観察するために、言語活動別に表5-4の「10種の基本語彙」の平均有効度と「現代英語のキーワード」の有効度の差の大きかった上位5位までを表5-8に示した。「現代英語のキーワード」と「10種の基本語彙」の平均有効度の差、および、「10種の基本語彙」の中で最も有効度の高かった基本語彙との差を示した。

「10種の基本語彙」との差が最も大きな言語活動は、児童から成人に必要な日常

表5-7 言語活動別に見た有効度の順位

言語活動の種類	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位	11位
(音声言語)											
日常会話	キースト	ZEN	THORN	JACET	CEL	PALMER	TOEI	LDCE	GSL	VANEK	BASIC
サバイバル英語	キースト	JACET	CEL	ZEN	THORN	TOEI	PALMER	VANEK	LDCE	GSL	BASIC
映画の対話	キースト	THORN	ZEN	JACET	CEL	PALMER	TOEI	LDCE	GSL	VANEK	BASIC
看護婦との対話	キースト	ZEN	THORN	JACET	CEL	LDCE	PALMER	GSL	TOEI	VANEK	BASIC
医者との対話	キースト	ZEN	THORN	JACET	CEL	LDCE	PALMER	GSL	TOEI	VANEK	BASIC
経済ニュース	キースト	THORN	JACET	ZEN	CEL	PALMER	LDCE	TOEI	GSL	VANEK	BASIC
ビジネストーク	キースト	ZEN	THORN	JACET	CEL	PALMER	LDCE	GSL	TOEI	VANEK	BASIC
会議英語	キースト	ZEN	JACET	THORN	CEL	PALMER	TOEI	LDCE	GSL	VANEK	BASIC
政治・法律ニュース	キースト	THORN	ZEN	JACET	CEL	LDCE	PALMER	GSL	TOEI	VANEK	BASIC
リスニングテスト	キースト	JACET	ZEN	THORN	CEL	PALMER	TOEI	LDCE	GSL	VANEK	BASIC
(文字言語)											
生活誌	キースト	THORN	ZEN	JACET	CEL	PALMER	LDCE	GSL	TOEI	VANEK	BASIC
生活用語	キースト	THORN	ZEN	CEL	JACET	PALMER	TOEI	LDCE	GSL	VANEK	BASIC
女性誌	キースト	JACET	THORN	ZEN	CEL	PALMER	LDCE	TOEI	GSL	VANEK	BASIC
美容誌	キースト	THORN	ZEN	JACET	CEL	PALMER	LDCE	TOEI	GSL	VANEK	BASIC
英字新聞	キースト	THORN	ZEN	JACET	CEL	PALMER	TOEI	GSL	LDCE	VANEK	BASIC
科学誌	キースト	JACET	THORN	ZEN	CEL	PALMER	LDCE	GSL	TOEI	VANEK	BASIC
ビジネスレター	キースト	ZEN	THORN	JACET	CEL	PALMER	LDCE	TOEI	GSL	VANEK	BASIC
パソコンマニュアル	キースト	THORN	CEL	JACET	ZEN	TOEI	PALMER	LDCE	GSL	VANEK	BASIC
パソコン誌	キースト	JACET	THORN	ZEN	CEL	PALMER	TOEI	LDCE	GSL	VANEK	BASIC
科学読物	キースト	ZEN	THORN	JACET	CEL	PALMER	LDCE	GSL	TOEI	VANEK	BASIC
現代小説	THORN	キースト	ZEN	CEL	JACET	PALMER	LDCE	TOEI	GSL	VANEK	BASIC
読解テスト	キースト	THORN	ZEN	JACET	CEL	LDCE	PALMER	TOEI	GSL	VANEK	BASIC
政治誌	キースト	THORN	ZEN	JACET	CEL	PALMER	LDCE	TOEI	GSL	VANEK	BASIC

的な語を収録した「生活用語」であった。「現代英語のキーワード」はこの分野に対しては、他の基本語彙の平均有効度より24.1ポイントも高く、また、2位の THORN の有効度より9.0ポイントも高かった。さらに、「日常生活用語」で用いられている1,500語のうち、「現代英語のキーワード」には含まれているが他の基本語彙には含まれていない語を調べると、この言語活動の全語彙の約5%にあたる77語もあることがわかった。それらの語は、たとえば、abdomen, artery, kidney などの身体の名称や mitten, microwave, spinach, patio, driveway など衣食住に関する語であった。「現代英語のキーワード」の目標のひとつは「国際化社会」に対応した基本語彙の選定であったが、海外で生活する際に必須の「生活語彙」がきわだって強化されていることがわかる。

表5-8 「現代英語のキーワード」と他の基本語彙との有効度の差（単位:ポイント）

順位	言語活動の種類	「現代」と「10種」平均の有効度の差	「現代」と有効度第2位の基本語彙との有効度の差
1	生活用語	24.1	9.0 (THORN)
2	パソコン誌	17.2	7.4 (JACET)
3	科学誌	16.9	4.0 (JACET)
4	英字新聞	13.8	3.8 (THORN)
5	ビジネストーク	12.5	3.5 (ZEN)

次に差の大きかった言語活動は「パソコン誌」(PC Magazine)であった。この言語活動で用いられている語のうち、spreadsheet, worksheet, keyboard などこの言語活動の全語彙の約6%にあたる88語は、基本語彙の中でも「現代英語のキーワード」にのみ含まれていた。これらのパソコン関係で頻繁に用いられる語は比較的新しい語であるため、古い年代に選定された基本語彙には当然含まれていなかった。第3位、4位には「科学誌」(Science News)、「英字新聞」(The Japan Times)などの言語活動における有効度が高かった。それぞれ2位の JACET より4.0ポイント、THORN より3.8ポイント高かった。これらの言語活動で用いられている語のうち、「10種の基本語彙」に含まれず「現代英語のキーワード」にのみ含まれる語には、たとえば、「科学誌」では fusion, quantum, researcher, virus, 「英字新聞」では analyst, investor, corporate などがあつた。「現代英語のキーワード」では「情報化社会」に対応した基本語彙を目標の1つとしていたが、その中心となるコンピュータ関連や情報収

集の分野においても有効度が他より高いことから当初の目標が達成されたと判断された。

続いて「現代英語のキーワード」が有効な言語活動は、「ビジネストーク」であった。この言語活動における「現代英語のキーワード」の有効度は98.1%であり、これは約53語に1語の割合でしか未知語に遭遇しないことを示す。2位のZENが94.6%であり、約19語に1語の割合で未知語に遭遇することと比べるとその差は小さくない。この言語活動で使われている語のうち、「現代英語のキーワード」のみに含まれている語には、global, sector, projection, competitive などがあった。

上にあげた以外にも、「女性誌」、「美容誌」などの女性雑誌、「読解テスト」、「政治誌」、「医者との対話」、「ビジネスレター」などの言語活動では、「10種の基本語彙」との平均有効度の差が10ポイント以上あった。これらはいずれも「現代英語のキーワード」で重視して収集した素材に含まれた分野であった。

「現代英語のキーワード」で重視した分野に相当する言語活動には他に「日常会話」、「看護婦との対話」があった。しかし、これらの言語活動では、比較的少ない語数で会話が行なわれ、基本語彙全体に有効度が高く出たため、差が上記の言語活動ほどには開かなかった。

また、その他の「映画の対話」、「現代小説」、「科学読物」は、日本人の言語活動に欠くことができないものとして23種の言語活動に含めたものである。映画を見ることは日本人が英語を学習する際によく用いる方法のひとつであり（吉島,1987）、「現代小説」は文系の大学生が希望する教材の第2位であり、また、「科学読物」は、理系の大学生の希望する教材の第1位というアンケート結果（吉島,1987）にもとづいて選択された。これらの分野は特に「現代英語のキーワード」では強化していないため、有効度の差がそれほど大きくない。とはいっても、「現代英語のキーワード」は音声言語に関してはすべて1位の有効度を獲得しており、文字言語についても「現代小説」を除いてはすべて第1位の有効度であった。

2. 同語数での有効度

5,000語の「現代英語のキーワード」を、「10種の基本語彙」と同語数に区切って再度有効度を比較したが、23種の目標言語材料について、どの語数でもやはり、有効度は1番高く、日本人に必要と考えられた言語活動に対して有効に働いていることがわかる。最も差の大きいものはBASICの13.9ポイントで、最も差の小さいものはJACETの1.5ポイントであった。JACETは大人や子供の読み物を偏りなく集めた語彙調査の頻度上

位の語を組み合わせるという汎用目的の基本語彙の作成方法を用いて量的にはかなり効率良く選定されていると言えよう。

その差は「わずか」1.5ポイントであったが、JACET が3,691語で到達している90.7%の有効度に「現代英語のキーワード」はすでに3,125語の時点で達していることが図5-1の「現代英語のキーワード」の2,871語と3,739語での有効度の位置を示す2点を結んだ直線の式から推定できた。従って、「現代英語のキーワード」と JACET の学習効率の差は語数で表わせれば566語あると言える。

3. 段階別目標語彙に対する有効度

学習する基本語彙の語数が異なれば当然めざす言語活動も異なると考えられる。そこでそれぞれの基本語彙を語数によって5グループに分類し、それぞれの語数の範囲内で日本人学習者の成長に合わせた言語活動を5種設定し、それらで用いられる語彙に対する有効度を計測した。

表5-6と図5-2から「現代英語のキーワード」を分類して作成した語彙の「現代1」から「現代5」は5種のグループのすべてにおいて他の基本語彙より有効度が高く、当初の目的どおりに学習者の成長に合わせた5段階に適切に分類されていることがわかる。

特に2,000語レベルまでの生活領域の英語に対して「現代2」の有効度が格段に高く、言語活動別の有効度でも観察されたように、生活語彙の充実していることが他の基本語彙との差の大きさにあらわれている。

各グループ内での基本語彙の並んでいる順番は表では下の方が、図では右に行く方が語数の多いものである。一般的に語数の多い方が有利であるが、そうとも限らない場合がある。たとえば、生活語彙に対する有効度をみた第2グループでは、TOEI は GSLや TL2 より語数が少ないが、この分野での有効度が高くなっている。これは、TOEI には GSL や TL2 より生活語彙が比較的多く含まれていることからであろう。また、教育用語彙に対する有効度をみた第4グループでも、「現代4」は語数が一番少ないが、グループ内の4つの基本語彙の中では教育用の言語材料に対して一番有効度が高くなっている。また、最高レベルの第5グループの「現代5」は TL5 より60語も語数は少ないにもかかわらず有効度の方は6.4ポイントも高い。

表5-6で有効度の平均をグループごとに計算すると、第1グループから第5グループの順に88.1, 47.0, 88.5, 79.1, 62.2%とグループによってかなり異なる。一般的な傾向としては後の段階の目標語彙の方が難しくなっているため、有効度の値も第2グループを除けば順に低くなっている。特に第5グループでは、目標語彙を専門分野(23種の

目標語彙の和集合+科学技術関連の新語)としたため、異語数は4,581語もあり、また、それらの語彙は多岐にわたっているため目標語彙をカバーする基本語彙の有効度は平均するとかなり低めになっている。

第2グループの結果をみると、いかに我々の「現代2」以外の基本語彙が生活語彙を軽視しているかがよくわかる。Richards(1970)が次のようなことばで頻度を基準にしてつくられたリストの欠陥として具象名詞の不足をあげているが、まさにそれがここに表れていると言えよう。

The vocabulary of many familiar situations however, does not rank highly in frequency lists. Soap, bath, cushion, chalk and stomach are not within the first 2,000 words of Thorndike and Lorge's list.

(Richards, 1970)

頻度リストの代表として Thorndike and Lorge の上位925語をとった TL1, 上位1,887語をとった TL2 の有効度が第2グループで低いという結果から、Richards の指摘は Thorndike and Lorge の語彙については正しいことがわかる。しかしながら、根幹は同じく、頻度の基準で作成された「現代英語のキーワード」についてみると、Richards が例にあげている soap, bath, cushion, chalk and stomach の5語はすべて5段階区分の2番目の「生活」に含まれている。そして、「現代英語のキーワード」の第2グループでの有効度は高く、Richards の指摘に適切に対応していることがわかる。要は、基本語彙に具象名詞が不足しているというのは頻度順という基準の問題ではなく、基本語彙の元になる語彙調査の言語材料の選び方、そしてその分類の仕方いかんにかかっているのである。

第5節 第5章の概要

本章では、選定された基本語彙の有効度を他の研究者の基本語彙の有効度と比較し、その結果、および、考察について述べた。

第2節では、選定された基本語彙と他の「10種の基本語彙」の有効度を計測し、その有効度の数値を比較する方法について述べ、第3節で、有効度の比較の結果を報告した。第4節では、その結果について考察を行なった。

第 6 章 結 論

第 1 節 研究のまとめ

1. 研究の成果

本論文の目的は、1) 現代社会の日本人学習者が必要とする言語活動を行なえるよう学習者のニーズに対応した、学習効率の高い英語教育基本語彙を選定し、さらに、2) 学習者に便利なように、選定された語彙を5段階に分類し、3) その有効度を計測して他の基本語彙と比較し、その結果を報告することであった。

選定された基本語彙「現代英語のキーワード」は、現代の学習者が必要とするであろう以下の①～⑥の6分野1,298,977語の言語材料を分析して得られた頻度13以上の語に、⑦と⑧より得られた661語を補足することによって作成された5,000語の基本語彙である。

- ① 生活語彙
- ② 専門分野の語彙（情報収集、ビジネス、会議、法律、コンピュータ）
- ③ 日常会話の語彙
- ④ 女性雑誌の語彙
- ⑤ テストの語彙
- ⑥ 米国教科書の語彙
- ⑦ 日本人の誤りやすい語
- ⑧ 科学技術関連の新語

「現代英語のキーワード」と国内外で選定された主な基本語彙である「10種の基本語彙」の有効度を計測し比較した結果、以下の点が明らかになった。

- 1) 日本人学習者が希望するであろう音声言語、文字言語あわせて23種の言語材料で代表されるような言語活動を行なう場合に、「現代英語のキーワード」がどの程度これらの言語活動で使われる語彙をカバーするかを示す有効度は94.3%（音声言語では96.4%，文字言語では92.2%）であった。この値は5,000語をすべて学習したと仮定すれば未知語に遭遇する割合が平均で17.5語に1語（音声言語では28.0語に1語，文字言語では12.8語に1語）ということを示す。
- 2) 「現代英語のキーワード」と「10種の基本語彙」の有効度を比較した結果、前者の有効度が後者のどの基本語彙よりも有効度が高いことが示された。「現代英語のキーワード」は10種の中で1番高い THORN より有効度が2.7ポイント高い。

その差は「わずか」2.7ポイントであるが、THORN が5,060語で到達している91.6%の有効度に「現代英語のキーワード」は3,545語で達している。従って、「現代英語のキーワード」と THORNの学習効率の差は語数で表わせれば1,515語あると言える。

- 3) 比較した基本語彙の語数に違いがあることを考慮に入れ、「現代英語のキーワード」を他の基本語彙とほぼ同語数に区切って比較しても、やはり、有効度は「現代英語のキーワード」が「10種の基本語彙」より約1.5～13.9ポイント高いことが示された。「現代英語のキーワード」は10種の中で1番差の少ない JACET より有効度が1.5ポイント高い。その差は「わずか」1.5ポイントであるが、JACET が3,691語で到達している90.7%の有効度に「現代英語のキーワード」はすでに3,125語の時点で達している。従って、「現代英語のキーワード」と JACET の学習効率の差は語数で表わせれば566語あると言える。
- 4) 学習者の成長段階に合わせて分類した5段階の言語活動の目標語彙別にみると、有効度は「現代英語のキーワード」の方が「10種の基本語彙」よりすべての段階で高く、その差は平均23.2ポイントにのぼり、「現代英語のキーワード」の「教育用語彙」としての有効性が確認された。
- 5) 言語活動別で見ると、「現代英語のキーワード」は「10種の基本語彙」より生活語彙（生活用語）で24.1ポイント、情報収集関連用語（科学誌、英字新聞）で16.9～13.8ポイント、ビジネス関連用語（ビジネストーク）で12.5ポイント、コンピュータ関連用語（パソコン誌）で17.2ポイント有効度が高く、顕著な差が示された。これらのことから我々の当初の目的である「国際化・情報化社会のニーズに対する基本語彙の選定」は達成されていることが確認できた。

2. 基本語彙選定の特徴

本研究では次のような方法で基本語彙が選定・分類されている。

1) 語彙選定のために使用した言語材料の特徴

- ① 日本人英語学習者に必要と考えられる言語活動で用いられる言語材料が重点的、かつ独自に収集されている。
- ② 比較的最近の語彙と考えられる1980年代の言語材料に限定して、すべて新たに広範な分野の言語材料が収集されている。特に、過去において軽視されてき

た「口語英語」、「女性の言語活動」の言語材料が十分に含まれるよう考慮されている。

- ③ 頻度基準だけでは抜けてしまうものとして、日本人がその使用において間違いやすいとネイティブスピーカーに指摘されている語や進歩のめざましい分野の科学技術用語（新語）が補足されている。

2) 語彙選定方法の特徴

- ① 日本人の誤りやすい語と科学技術関連の新語を除き、主観的な選定基準は用いず、計測可能な客観的基準である頻度をもとにした有効度のみを選定基準にしている。特定の言語材料の特徴語を除外してしまうおそれのある分布度は選定基準として用いていない。
- ② 基本語彙の語数と有効度の関係を調査した結果、学習効率を考慮して、語数を増やしても有効度があまり増加しなくなる臨界点である5,000語に語数を決定している。
- ③ 有効度の計測に際して、安定した指標が得られる言語材料の語数が1,500語であることが確認されている。

3) 分類・表示方法の特徴

- ① 学習者がこの語彙をより効率良く利用できるよう、学習者の成長段階にあわせて5,000語を表6-1の5段階に分類し、順に①から⑤で表示して、一目でどの段階の語彙かわかるようにしている。これによって学習者の興味や必要に応じた学習が可能になる。

表6-1 5段階分類

表示	段階	語数	累計語数
①	必修	422語	422語
②	生活	1,465語	1,887語
③	基本	844語	2,731語
④	教育	801語	3,532語
⑤	一般	1,468語	5,000語

- ② 日本人の誤りやすい語（525語）を「+」の記号で表示しているのもので、日本人学習者が学習を進める上で注意を要する語が明確である。
- ③ 使用頻度が付されているので学習している語がどれくらいの頻度で使われるかがわかる。

第 2 節 結 論

本研究の目的は現代社会の学習者のニーズに対応できる実用の教育用基本語彙を選定し、学習者に便利のように、選定された語彙を分類して提示することにあった。日本人が必要とするであろう分野から、130万語に及ぶ比較的新しい生の言語材料を新たに収集・分析した。高い効率を求めるために頻度を基準にし、かつ、学習する際に問題になると指摘されている語などを補足的に含めて5,000語の「英語教育基本語彙」を選定した。

その結果、現在普及している主な「10種の基本語彙」のどれよりも有効度が高く、それ自体である程度の言語活動が可能な基本語彙を選定することができた。

さらに、選定された5,000語を「必修語」から「一般社会人用語」までの5つの段階に分類した結果、学習者が使用頻度順という「論理的な順序」とあまり大きな違いがなく、しかも、認知発達や年齢的成長にあわせて身近な物から広い範囲の物を表わす語へ、そして具体的な語から抽象的な語へ学習語彙を拡大できる分類を行なうことができた。

参 考 文 献

- Andersen, William Niclaas, "Determination of a Spelling Vocabulary Based upon Written Correspondence," University of Iowa Studies in Education, Vol. II, No.1, 1921.
- Bensoussan, Marsha and Batia Laufer, "Lexical Guessing in Context in EFL Reading Comprehension," Journal of Research in Reading, Vol.7, No.1, 1984, pp.15-32.
- Black, John W. and Marian Ausherman, The Vocabulary of College Students in Classroom Speeches, Bureau of Educational Research, Ohio State University, Columbus, Ohio, 1955.
- Carroll, J. B., P. Davies and B. Richman, The American Heritage Word Frequency Book, Houghton Mifflin Company, Boston, and American Heritage Publishing Company, New York, 1971.
- 中條清美, 竹蓋幸生, 星野昭彦, 「有効度指標の安定性について」, 『千葉大学教育工学研究』, 第10号, 1989a, pp.43-51.
- 中條清美, 竹蓋幸生, 「語彙の有効度指標の安定性について」, 『大学英語教育学会1989年度第28回全国大会要綱』, 大学英語教育学会, 1989b, pp.83-84.
- 中條清美, 竹蓋幸生, 「女性向け英語雑誌の語彙」, 『時事英語学研究』, 第28号, 日本時事英語学会, 1989c, pp.73-84.
- 中條清美, 竹蓋幸生, 「現代英語のキーワード -- 日本人英語学習者のための基礎語彙を求めて」, 『大学英語教育学会1990年度第29回全国大会要綱』, 大学英語教育学会, 1990, pp.80-81.
- Cooper, Robert L., "The Avoidance of Androcentric Generics," International Journal of the Sociology of Language, 50, 1984, pp.5-20.
- Crystal, David, The English Language, Penguin Books, London, 1988.
- Dahl, Hartvig, Word Frequencies of Spoken American English, Gale Research Company, Detroit, Michigan, 1979.
- 大学英語教育学会(JACET)教材研究委員会, 『「英語購読用教科書のあり方」についてのアンケート調査報告 -- 「JACET基本語第2次案」を中心に』, 1983.
- Dale, Edgar, "Comparison of Two Word Lists," Educational Research Bulletin, Vol.X, 1931, pp.484-489.
- Dale, Edgar and Jeanne S. Chall, "A Formula for Predicting Readability," Educational Research Bulletin, Vol.XXVII, 1948, pp.11-20, 37-54.
- Dale, Edgar and Joseph O'Rourke, The Living Word Vocabulary, World Book-Childcraft International, Inc., Chicago, Illinois, 1981.
- Dolch, E. W., "A Basic Sight Vocabulary," Elementary School Journal, No.36, 1936, pp.456-460.
- Dornyei, Zoltan, "Conceptualizing Motivation in Foreign-Language Learning," Language Learning, Vol.40, No.1, 1990, pp.45-78.
- Engels, L. K., "The Fallacy of Word-Counts," IRAL, Vol.6, No.2, 1968, pp.213-231.

- Engels, L. K., B. Van Beckhoven, Th. Leenders, I. Brasseur, L. E. T. Vocabulary-List, Acco, Leuven, Belgium, 1981.
- Faucett, Laurence and Itsu Maki, A Study of English Word-Values Statistically Determined from the Latest Extensive Word-Counts, Shinozaki Shorin, Tokyo, 1932, rpt. 1952.
- Fitzgerald, J. A., "The Vocabulary of Children's Letters Written in Life Outside the School," Elementary School Journal, Vol.34, 1934, pp.358-370.
- Fossum, Ernest C., "An Analysis of the Dynamic Vocabulary of Junior College Students," Speech Monographs, Vol.XL, 1944, pp.88-96.
- Francis, N. and H. Kucera, Frequency Analysis of English Usage: Lexicon and Grammar, Houghton Mifflin Company, Boston, 1982.
- French, N. R., C. W. Carter, and W. Koenig, The Words and Sounds of Telephone Conversations, Bell System Technical Journal, Vol.9, 1930, pp.290-324.
- Fries, Charles C., Teaching and Learning English as a Foreign Language, University of Michigan Press, Ann Arbor, 1945.
- Fries, Charles C. and A. Aileen Traver, English Word Lists, The George Eahr Publishing Co., Ann Arbor, Michigan, 1950.
- 御領謙, 『読むということ』, 認知科学選書5, 東京大学出版会, 東京, 1987.
- Haas, Adelaide, "Male and Female Spoken Language Differences: Stereotypes and Evidence," Psychological Bulletin, 86, No.3, 1979, pp.616-626.
- 浜野実, 「もっと生活語彙を」, 『現代英語教育』, 第26巻, 第9号, 1989, pp.6-7.
- Harris, Albert J. and Milton D. Jacobson, Basic Elementary Reading Vocabulary, The Macmillan Company, New York, 1972.
- Harris, Albert J. and Milton D. Jacobson, "Basic Vocabulary for Beginning Reading," The Reading Teacher, 26, 1973, pp.392-395.
- 長谷川潔, 小池生夫, 島岡丘, 竹蓋幸生共編, 『プロシード英和辞典』, 福武書店, 東京, 1988.
- 羽鳥博愛他, 『英語指導法ハンドブック4 <評価編>』, 大修館書店, 東京, 1979.
- 速川浩, 「教科書に現われた英語単語の研究」, 『英語教育』, 第14巻, 第1-4号, 1965.
- Hillerich, Robert L., "Word List -- Getting It All Together," The Reading Teacher, Vol.27, No.4, 1974, pp.353-360.
- Hillerich, Robert L., A Writing Vocabulary of Elementary Children, Charles C Thomas Publisher, Springfield, 1978.
- Hindmarsh, R., Cambridge English Lexicon, Cambridge University Press, Cambridge, 1980.
- Hofland, Knut and Stig Johansson, Word Frequencies in British and American English, NAVF (The Norwegian Computing Centre for the Humanities), Bergen, 1982.

- 堀内克明, 「提示順序と使用頻度 -- サンマは目黒に限るということ」, 『現代英語教育』, 第13巻, 第6号, 1976, pp.4-5.
- Horn, Ernest, A Basic Writing Vocabulary, The College of Education, University of Iowa, Iowa City, 1926.
- Horn, Madeline Darrough, "The 1,003 Words Most Frequently Used by Kindergarten Children," Child Education, 3, 1926-1927, pp.118-122.
- Houser, J. David, "An Investigation of the Writing vocabularies of Representatives of an Economic Class," Elementary School Journal, Vol. XV II, 1916-17, pp.708-718.
- Howes, David, "A Word Count of Spoken English," Journal of Verbal Learning and Verbal Behavior, Vol. 5, 1966, pp.572-604.
- 市河三喜編, 『研究社英語学辞典』, 研究社, 東京, 1940, rpt. 1962.
- 市河三喜監修, 語学教育研究所編, 『英語教授法事典』, 開拓社, 東京, 1962.
- 稲岡信之他, 「中高連携をとらえた自主教材の開発 -- 筑駒 Picture Dictionary の作成(1)」, 『筑波大学附属駒場中・高等学校研究報告』, 第27集, 1988, pp.131-146.
- I. R. E. T., "The I. R. E. T. Standard English Vocabulary, The 1000-Word Radius," The Bulletin of the Institute for Research in English Teachers, No.100, 1934, pp.8-9.
- 石川由紀, 田中貴美枝, 高橋秀夫, 竹蓋幸生, 「ビジネス英語の語彙」, 『語学教育研究所紀要』, 第1号, 1987, pp.53-66.
- Johnson, Dale D., "A Basic Sight Vocabulary for Beginning Reading," The Elementary School Journal, No.72, 1971, pp.29-34.
- Jones, Lyle V. and Joseph M. Wepman, A Spoken Word Count, Language Research Associates, Chicago, Illinois, 1966.
- Jones, S. and J. McH. Sinclair, "English Lexical Collocations -- A Study in Computational Linguistics," Cahiers de Lexicologie, 24, 1974, pp.15-61.
- Joos, Martin, The Five Clocks, Harcourt, Brace & World, New York, 1967.
- 開高健他, 『世界の雑誌大研究』, 講談社, 東京, 1982.
- 垣田直巳監修, 『英語教科書使用語彙』, 溪水社, 広島, 1987.
- カーム, 貴志謙二訳, 『カーム英文法』, 篠崎書林, 東京, 1978.
- 金田正也, 「外国語学習における静止画の特定と諸特性に関する基礎的研究 [I] -- 英語入門用可視覚化語彙のデータベース化の研究 -- 」, 東洋, 『電子出版時代のシンボルミックス教材:外国語学習にCD-ROM適用の研究(1)』, 松下視聴覚教育研究財団, 東京, 1988, pp.228-270.
- 君塚彪, 安崎康寿, 福沢徳治, 湯本芳枝, 竹蓋幸生, 「学習心理の面からみた英語教科書の教材研究 -- 生徒の興味調査から -- 」, 『英語の研究と教育』, 桐原書店, 東京, 1981, pp.27-49.
- 清川英男, 「Spoken Word List に関する考察」, 『英語教育』, 第25巻, 第2号, 1976, pp.42-46.

- 小池生夫, 『職業人から見た英語教育に関する実態と将来像の総合的研究』, 平成元年
度科学研究費補助金研究(総合研究A)研究成果報告書, 1990.
- 小島義郎, 『まちがえやすい英語』, 日本放送出版協会, 東京, 1980.
- 古藤晃, 『コンピュータが選んだ TOEFL 必須単語 1800』, 語研, 東京, 1989.
- 久保野雅史他, 「中高連携をとらえた自主教材の開発 -- 筑駒 Picture Dictionary の
作成(2)」, 『筑波大学附属駒場中・高等学校研究報告』, 第29集, 1989,
pp.115-158.
- Kucera, Henry and Nelson Francis, Computational Analysis of Present-Day
American English, Brown University Press, Providence, Rhode Island,
1967.
- クワーク, R. S. グリーンバウム, 『現代英語文法大学編』, 紀伊國屋書店, 東京,
1977.
- Lorge, Irving, "The English Semantic Count," Teachers College Record,
Vol. XXXIX, 1937, pp.65-77.
- マッケイ, W. F., 伊藤健三他訳, 『言語教育分析』, 大修館書店, 東京, 1979.
- 松原健二, 「教科書の語彙に現実性を -- 中学校英語教科書の内容語を考える --」,
『英語教育』, 第36巻, 第10号, 1987, pp.28-30.
- 松原宗次, 「中学校におけるコンピュータ・リテラシーの実践」, 『日本教育工学会
第2回大会講演論文集』, 1986, pp.31-34.
- 松井恵美, 『英作文における日本人的誤り』, 大修館書店, 東京, 1979.
- Meara, Paul, "Vocabulary Acquisition: A Neglected Aspect of Language
Learning," Language Teaching and Linguistics: Abstracts, Vol.13, No.4,
1980, pp.221-246.
- Mellinger, Morris, Basic Vocabulary for Written Business Office Communications,
Chicago State College, Chicago, 1970.
- ミルワード, P., 土家典生訳, 『日本人の英語欠陥辞典』, 南雲堂, 東京, 1983.
- 三浦順治, 「英語学習における転移の体系」, 『秋田大学教育学部教育研究所報』,
No.8, 1971, pp.1-70.
- Moe, Alden J., Carol J. Hopkins and R. Timothy Rush, Vocabulary of First-Grade
Children, Charles C Thomas Publisher, Springfield, 1982.
- 文部省, 『中学校指導書外国語編』, 開隆堂出版, 1989.
- 文部省大臣官房調査統計企画課, 『文部統計要覧 平成2年版』, 第一法規出版株式会
社, 東京, 1990.
- 森田勝之, 『TOEFL の英単語』, 日本英語教育協会, 東京, 1985.
- Murphy, Helen A. and others, "The Spontaneous Speaking Vocabulary of Children
in Primary Grades," Boston University Journal of Education, Vol.140,
No.2, 1957, pp.1-105.
- 中村徳男, 寺島政一, 羽部英二, 吉村茂, 西村幸三, 「高校生 of 英語必修語彙(案)」,
『語学教育』, No.261-262, 1963, pp.29-62.

- Nation, Paul and James Coady, "Vocabulary and Reading," in Ronald Carter and Michael McCarthy, eds., Vocabulary and Language Teaching, Longman, London, 1988, pp.97-110.
- Nolte, Karl F., "Simplification of Vocabulary and Comprehension in Reading," The Elementary English Review, Vol.XIV, 1937, pp.119-124,146.
- 野沢敬, 『知恵蔵 1991』, 朝日新聞社, 1991.
- Ogden, C. K., The Basic Words, The Hokuseido Press, Tokyo, 1930, rpt. 1983.
- Otto, Wayne and Robert Chester, "Sight Words for Beginning Readers," The Journal of Educational Research, Vol.65, No.10, 1972, pp.435-443.
- 大塚高信編, 『新英文法辞典』, 三省堂, 東京, 1970.
- Palmer, Harold E., "The Standard English Vocabulary," 『英語教授法事典』, 開拓社, 東京, 1931, rpt. 1981, pp.281-318.
- Quirk, Randolph, Sidney Greenbaum, Geoffrey Leech, Jan Svartvik, A Comprehensive Grammar of the English Language, Longman, London and New York, 1985.
- Richards, Jack C., "A Psycholinguistic Measure of Vocabulary Selection," IRAL, Vol.8, No.2, 1970, pp.87-102.
- Rinsland, Henry D., A Basic Vocabulary of Elementary School Children, The Macmillan Company, New York, 1945.
- Roberts, A. Hood, A Statistical Linguistic Analysis of American English, Mouton & Co., Publishers, The Hague, 1965.
- 櫻井健司監, ジャパンタイムズ編, 『メディカル英会話手帖』, ジャパンタイムズ, 東京, 1985
- 佐々木謙一, 山田侑平, 『ビジネス英語のキーワード』, 研究社出版, 東京, 1988.
- Schonell, Fred J., et al, A Study of the Oral Vocabulary of Adults, The University of Queensland Press, Brisbane, Queensland, 1956.
- 関英男, 『情報科学と五次元世界』, 日本放送出版協会, 東京, 1971.
- 椎名紀久子, 大西知佳子, 高橋秀夫, 竹蓋幸生, 「幼児・児童向け英語物語の語彙」, 『日本児童英語教育学会研究紀要』, 第6号, 1987, pp.31-44.
- 椎名紀久子, 中條清美, 竹蓋幸生, 「幼児・児童向け絵単語集の分析的考察 -- コミュニケーション能力育成のための教材を考える」, 『日本児童英語教育学会研究紀要』, 第7号, 1988, pp.17-27.
- Singleton, Cleavonne, The Lasting Properties of Word-Counts, Diss. Ohio State, 1976, Ann Arbor, University Microfilms International, 1986.
- 相賀徹夫, 『データパル』, 小学館, 東京, 1990.
- 総務庁統計局, 『第三十九回 日本統計年鑑』, 1989.
- 菅沼太一郎, 「英語標準語彙の選定について」, 『英語教育』, 第2巻, 第1号, 1953, pp.11-13.
- Summers, Della, et al, Longman Dictionary of Contemporary English, Longman, Burnt Mill, 1987.

- Svartvik, Jan and Randolph Quirk, A Corpus of English Conversation,
C W K Gleerup Lund, 1980
- 竹林滋, 「学習辞典をめぐって」, 『三省堂ぶつくれつと』, No.55, 三省堂, 東京,
1985, pp.52-57.
- 竹蓋幸生, 『コンピューターの見た現代英語』, エデュカ, 東京, 1981.
- 竹蓋幸生, 『日本人英語の科学』, 研究社出版, 東京, 1982.
- 竹蓋幸生監修・著, 『別冊 The English Journal: ボキャビル大作戦』, アルク,
東京, 1983.
- 竹蓋幸生監修・著, 『別冊 The English Journal: ボキャビル大作戦 '85』, アル
ク, 東京, 1985.
- 竹蓋幸生, 「基本語彙を見直す」, 『現代英語教育』, 第23巻, 第6号, 1986, pp.6-8.
- 竹蓋幸生編著, 『英語教師のパソコン』, エデュカ, 東京, 1986.
- 竹蓋幸生監修・著, 『別冊 The English Journal 30: TIME 基礎語彙 1000 完全攻略
作戦』, アルク, 東京, 1987.
- 竹蓋勝子, 高橋秀夫, 竹蓋幸生, 「メディカル・コミュニケーションの語彙 -- 看護婦
との対話」, 『千葉大学教育工学研究』, 第8号, 1987a, pp.15-26.
- 竹蓋幸生, 高橋秀夫, 星野昭彦, 「計算機科学の語彙 -- コンピュータを英語で学ぶた
めに」, 『千葉大学教育工学研究』, 第8号, 1987b, pp.27-40.
- 竹蓋幸生, 「キーワード 5000: 「SYSTEM」について」, 『言語行動の研究』, 第1号,
千葉大学英語学・言語行動研究会, 1988, pp.88-93.
- 竹蓋幸生, 高橋秀夫, 中條清美, 「語彙リスト変換プログラムの機能とその試用結果」,
『言語行動の研究』, 第1号, 千葉大学英語学・言語行動研究会, 1988a,
pp.98-103.
- 竹蓋幸生, 中條清美, 「白色語彙・マークVI作成の試み」, 『千葉大学教育工学研究』,
第9号, 1988b, pp.71-82.
- 竹蓋幸生, 『ヒアリングの指導システム』, 研究社出版, 東京, 1989.
- 竹蓋幸生, 中條清美, 「語彙から見た口語英語の類型」, 『時事英語学研究』, 第29号,
日本時事英語学会, 1990, pp.63-77.
- 竹蓋幸生, 「キーワード 5,000: system について」, 第2版, 長谷川他, 『プロシー
ド英和辞典』, 福武書店, 東京, 1991予定.
- 田崎清忠, 『英語教育理論』, 大修館書店, 東京, 1978.
- Thorndike, Edward L., The Teacher's Word Book, Teachers College, Columbia
University, 1921.
- Thorndike, Edward L. and Irving Lorge, The Teacher's Word Book of 30,000 Words,
Bureau of Publications, Teachers College, Columbia University,
New York, 1944.
- 東京都中学校英語教育研究会研究部, 「英語基本語彙 1,000語, 補足 460語, 外来語 (英
語) 400語」, 『語彙と英語教育(9)』, 1986.
- 華表宗一, 「効率的なヒアリング教材の開発 -- 内容理解力を高める三ラウンド制のヒ
アリング指導」, 『平成3年度長期研修生研究報告』, 千葉県教育センター,

1991予定.

van Ek, J. A. and L. G. Alexander, The Threshold Level English, Pergamon Press, Oxford, 1975.

van Ek, J. A., The Threshold Level for Modern Language Learning in Schools, Longman, Burnt Mill, 1976.

Voelker, Charles H., "The One-Thousand Most Frequent Spoken-Words," Quarterly Journal of Speech, Vol. XXVIII, 1942, pp. 189-197.

Wei, Michael and Timothy Light, A Newspaper's Vocabulary, The Chinese University of Hong Kong, 1973.

West, Michael, "Speaking-Vocabulary in a Foreign Language One Thousand Words," Modern Language Journal, Vol. XIV, No. 7, 1930, pp. 509-521.

West, Michael and James Gareth Endicott, The New Method English Dictionary, Fifth Edition, Longman, London, 1976, (First Published 1935).

West, Michael, A General Service List of English Words, Longman, Burnt Mill, 1953.

Wheeler, H. E. and Emma A. Howell, "A First-grade Vocabulary Study," Elementary School Journal, Vol. XXXI, 1930, pp. 52-60.

山家保, 『新しい英語教育』, 英語教育協議会(ELEC), 東京, 1966.

吉島茂, 「第二次『外国語の学習に関するアンケート』の集計報告」, 『言語文化センター紀要』, 第8号, 東京大学教養学部附属言語文化センター, 1987, pp. 93-141.

全国英語教育研究団体連合会(全英連)編, 『高校基本英単語活用集(改訂新版)』, 研究社, 東京, 1981.

糸井江美, 「テキストまでなぜ男性優位」, 『朝日新聞』, 4/28, 1988.

「中学・高校での外国語教育に対する満足度」, 『読売新聞』, 3/14, 1988.

付録 1 「現代英語のキーワード」

略語表

- + 日本人の誤りやすい語 525語

- * 日本人の誤りやすい語と科学技術関連の新語から補足した 661語のうち、基幹リストに含まれていなかった頻度 13未満の 43語

- ① 5段階区分のうち「必修」
- ② " 「生活」
- ③ " 「基本」
- ④ " 「教育」
- ⑤ " 「一般」

頻度	語	分類	意味	頻度	語	分類	意味
35099	A+	①	1つの	35	ACQUISITION	⑤	買収
44	ABANDON	④	捨てる	20	ACRE	④	エーカー
27	ABDOMEN	⑤	腹部	394	ACROSS+	①	…を横切って
107	ABILITY	③	能力	267	ACT	②	行い
389	ABLE+	②	…できる	191	ACTION	③	行動
22	ABNORMAL	⑤	異常	54	ACTIVE	③	活動的な
36	ABOARD	⑤	乗って	17	ACTIVELY	⑤	活発に
3295	ABOUT+	①	…について(の)	118	ACTIVITY	③	活動
342	ABOVE	②	…の上に[へ]	44	ACTOR	③	俳優
39	ABROAD+	③	外国で[へ]	17	ACTRESS	③	女優
35	ABSENCE	③	不在, 休み	47	ACTUAL	③	現実の
*	ABSENT+	③	居合わせない	225	ACTUALLY	④	実際に
32	ABSOLUTE	④	完全な	23	ACUTE	④	激しい
113	ABSOLUTELY	④	絶対に	27	ADAPT	④	適合させる
28	ABSORB	④	吸収する	369	ADD	②	足す
16	ABSTRACT	⑤	抽象的な	133	ADDITION	③	加えること
15	ABSURD	④	不合理的な	80	ADDITIONAL	⑤	追加の
35	ABUSE	⑤	乱用する	197	ADDRESS	③	住所
37	ACADEMIC	⑤	大学の	31	ADEQUATE	⑤	十分な
16	ACCELERATE	⑤	加速する	13	ADJOIN	⑤	隣接する
17	ACCENT	③	アクセント	43	ADJUST	④	調節する
232	ACCEPT+	③	受け入れる	20	ADJUSTMENT	⑤	調節
30	ACCEPTABLE	⑤	受け入れられる	17	ADMINISTER	⑤	施行する
29	ACCEPTANCE	⑤	受け入れること	59	ADMINISTRATION	⑤	管理
62	ACCESS	⑤	接近	40	ADMINISTRATIVE	⑤	管理(上)の
16	ACCESSORY	⑤	アクセサリー	19	ADMINISTRATOR	⑤	管理者
111	ACCIDENT	②	事故	36	ADMIRE	③	感嘆する
19	ACCIDENTALLY	⑤	偶然に	29	ADMISSION	⑤	入ることの許可
22	ACCOMMODATE	⑤	…を適応させる	86	ADMIT+	③	…を入れる
21	ACCOMMODATION	⑤	宿泊設備(s)	39	ADOPT	③	採用する
40	ACCOMPANY	④	いっしょに行く	13	ADOPTION	⑤	採用
38	ACCOMPLISH	④	成し遂げる	52	ADULT	③	成人
15	ACCOMPLISHMENT	⑤	功績	109	ADVANCE	③	前進する
25	ACCORD	⑤	一致する	113	ADVANTAGE	③	有利な点
18	ACCORDANCE	⑤	一致	40	ADVENTURE	③	冒険
183	ACCORDING	③	…によれば	201	ADVERTISE	③	広告を出す
245	ACCOUNT	③	説明	24	ADVERTISEMENT	③	広告, 宣伝
31	ACCURATE	④	正確な	87	ADVICE+	③	忠告
22	ACCURATELY	④	正確に	68	ADVISE+	③	忠告する
51	ACCUSE	③	告発する	24	ADVISER	⑤	助言者
15	ACCUSTOM+	③	慣らす	34	ADVOCATE	⑤	支持する
52	ACHE	③	痛む; 痛み	50	AFFAIR	③	事
72	ACHIEVE	⑤	成し遂げる	84	AFFECT	④	影響する
31	ACHIEVEMENT	④	達成	20	AFFECTION	④	愛情
29	ACID	④	酸	57	AFFORD	③	余裕がある
36	ACKNOWLEDGE	⑤	認める	262	AFRAID+	②	怖がって
41	ACORN	②	どんぐり	1488	AFTER+	①	…の後に
14	ACQUAINT	⑤	知らせる	217	AFTERNOON	①	午後
13	ACQUAINTANCE	④	知人	34	AFTERWARD	④	後で
69	ACQUIRE	④	習得する	1220	AGAIN	①	もう一度

頻度	語	分類	意味	頻度	語	分類	意味
560	AGAINST	②	…に反対して	19	AMAZING	⑤	驚くほどの
202	AGE	③	年齢	22	AMBITION	③	大望
109	AGENCY	④	代理店	16	AMBITIOUS	④	大望を抱いた
80	AGENDA	⑤	会議事項	17	AMBULANCE	②	救急車
59	AGENT	③	代理人	248	AMONG+	①	…の間に
23	AGGRESSIVE	⑤	攻撃的な	*	AMORPHOUS	⑤	アモルファス(非結晶質)
392	AGO+	①	…前に	262	AMOUNT	③	総額
16	AGONY	④	苦悩	19	AMUSE+	③	おもしろがらせる
288	AGREE+	③	意見が一致する	*	AMUSING+	⑤	おもしろい
236	AGREEMENT	③	一致	44	ANALYSIS	⑤	分析
21	AGRICULTURAL	④	農業の	56	ANALYST	⑤	分析者
295	AH	④	ああ	14	ANALYZE	④	分析する
16	AHA	⑤	ははあ,ほう	13	ANCESTOR	④	先祖
239	AHEAD	②	前方に	37	ANCHOR	②	いかり
69	AID	④	助ける	68	ANCIENT	③	古代の
23	AIDE	⑤	補佐官	33177	AND+	①	…と…
68	AIM+	③	向ける;ねらい	18	ANGEL	②	天使
465	AIR	②	空気	47	ANGER	③	怒り
57	AIRCRAFT	⑤	航空機	33	ANGLE	③	角度
38	AIRLINE	⑤	定期航空(路)	24	ANGRILY	④	怒って
56	AIRPLANE	②	飛行機	86	ANGRY	②	怒った
64	AIRPORT	②	空港	522	ANIMAL	①	動物
101	ALARM	②	警報	47	ANKLE	②	足首
19	ALBUM	④	アルバム	23	ANNIVERSARY	⑤	記念日
23	ALCOHOL	③	アルコール飲料	89	ANNOUNCE	③	発表する
40	ALERT	⑤	油断のない	44	ANNOUNCEMENT	⑤	発表
40	ALIEN	⑤	外国の	27	ANNOY	③	いらいらさせる
18	ALIKE	③	互いによく似た	80	ANNUAL	⑤	1年の
85	ALIVE	②	生きている	17	ANNUALLY	⑤	毎年
4648	ALL+	①	全部の	955	ANOTHER+	①	もう1つの
30	ALLIGATOR	②	ワニ	775	ANSWER+	①	答え;答える
284	ALLOW+	②	許す	31	ANT	②	アリ
20	ALLOWANCE	⑤	手当	15	ANTENNA	②	アンテナ
*	ALLOY	⑤	合金	30	ANTICIPATE	④	予期する
22	ALLY	④	同盟者	27	ANTIQUUE	②	骨董的な
544	ALMOST+	②	ほとんど	23	ANXIETY	③	心配
269	ALONE	②	ひとりで	25	ANXIOUS	③	切望して
529	ALONG	②	…に沿って	20	ANXIOUSLY	④	切望して
21	ALOUD	③	声を出して	1622	ANY+	①	いくらかの
52	ALPHABET	②	アルファベット	85	ANYBODY	②	だれか
403	ALREADY	①	もう,すでに	15	ANYHOW	③	どうしても
1073	ALSO	①	…もまた	38	ANYMORE	④	今では
30	ALTER	⑤	変える	257	ANYONE+	①	だれか
62	ALTERNATIVE	④	どちらかの	542	ANYTHING	①	何か
273	ALTHOUGH+	③	…だけれども	166	ANYWAY+	②	とにかく
28	ALTOGETHER	③	まったく	66	ANYWHERE	②	どこかに[へ]
13	ALUMINUM	⑤	アルミニウム	78	APART	②	離れて
865	ALWAYS+	①	いつも	132	APARTMENT	②	アパート
18	AMATEUR	④	アマチュア	13	APE	②	類人猿
30	AMAZE+	④	びっくりさせる	26	APOLOGIZE	③	謝る

頻度	語	分類	意味	頻度	語	分類	意味
23	APOLOGY	④	わび	57	ASIDE	③	わきへ
25	APPARENT	④	見かけの	1505	ASK+	①	尋ねる
59	APPARENTLY	④	明らかに	81	ASLEEP+	②	眠って
128	APPEAL+	③	求める	52	ASPECT	④	局面
255	APPEAR	③	現れる;…らしい	18	ASPEN	⑤	セイヨウハコヤナギ
54	APPEARANCE	③	現れること	35	ASSEMBLE	⑤	集める
18	APPETITE	⑤	食欲	37	ASSEMBLY	⑤	集会
147	APPLE	②	リンゴ	18	ASSESS	⑤	評価する
46	APPLIANCE	⑤	(家庭用)器具	21	ASSESSMENT	⑤	(課税のための)評価
129	APPLICATION	④	申し込み	47	ASSET	⑤	資産(s)
112	APPLY	③	申し込む,適用する	32	ASSIGN	⑤	割り当てる
31	APPOINT	③	任命する	30	ASSIGNMENT	⑤	任務
71	APPOINTMENT+	④	約束	16	ASSIST	④	手伝う
133	APPRECIATE	④	高く評価する	36	ASSISTANCE	⑤	助力
36	APPRECIATION	④	(高く)評価	74	ASSISTANT	④	助手
209	APPROACH+	④	近づく	75	ASSOCIATE	④	連想する
70	APPROPRIATE	④	適当な	70	ASSOCIATION	③	協会
31	APPROVAL	③	承認	105	ASSUME	④	当然と思う
47	APPROVE	③	よいと認める	30	ASSUMPTION	⑤	仮定
43	APPROXIMATELY	⑤	おおよそ	63	ASSURE	④	保証する
20	APRON	②	エプロン	22	ASTONISH	④	驚かす
16	AQUARIUM	④	水族館	16	ASTONISHMENT	⑤	驚き
24	ARCH	③	アーチ	74	ASTRONAUT	②	宇宙飛行士
39	ARCHITECT	⑤	建築家	6949	AT+	①	…に
20	ARCHITECTURAL	⑤	建築学の	30	ATHLETE	⑤	運動選手
18	ARCHITECTURE	⑤	建築様式	24	ATMOSPHERE+	④	雰囲気;大気
441	AREA	③	地域	14	ATOMIC	④	原子の
86	ARGUE	③	論じる	95	ATTACH	④	取り付ける
88	ARGUMENT	③	議論	18	ATTACHMENT	⑤	付属品
52	ARISE	③	起こる	87	ATTACK	②	発作,攻撃する
30	ARITHMETIC	③	算数	127	ATTEMPT	③	試みる
399	ARM	②	腕;武器	85	ATTEND+	③	出席する
50	ARMY	②	陸軍	20	ATTENDANT	②	接客係
1059	AROUND+	②	…の周りを	227	ATTENTION	③	注意
16	AROUSE	⑤	呼び起こす	75	ATTITUDE	④	態度
76	ARRANGE	③	整える	37	ATTORNEY	⑤	弁護士
107	ARRANGEMENT	③	配列	62	ATTRACT	③	引き付ける
30	ARREST	②	逮捕する	17	ATTRACTION	⑤	魅力
35	ARRIVAL	③	到着	49	ATTRACTIVE	④	魅力的な
193	ARRIVE+	①	到着する	17	ATTRIBUTE	④	帰する
54	ARROW	②	矢	21	AUCTION	⑤	競売
185	ART	②	芸術	159	AUDIENCE+	②	聴衆
23	ARTERY	⑤	動脈	13	AUDIO	⑤	音声の
120	ARTICLE	③	記事	156	AUNT	①	おば
43	ARTIFICIAL	③	人造の	110	AUTHOR	④	著者
97	ARTIST	②	芸術家	85	AUTHORITY	③	権威
7137	AS+	①	…のとき	26	AUTHORIZE	⑤	権限を与える
36	ASH	②	灰	31	AUTOMATIC	③	自動の
23	ASHAMED+	③	恥じて	27	AUTOMATICALLY	④	自動的に
16	ASHORE	④	岸に[へ]	*	AUTOMATION	⑤	オートメーション

頻度	語	分類	意味	頻度	語	分類	意味
37	AUTOMOBILE	②	自動車	14	BARBER	③	理髪師
26	AUTUMN	②	秋	46	BARE	③	からの;裸の
241	AVAILABLE	④	利用できる	40	BARELY	⑤	かろうじて
94	AVERAGE	③	平均	28	BARGAIN	③	契約
117	AVOID	③	避ける	28	BARGE	⑤	はしけ
20	AWAIT	⑤	待つ	101	BARK	②	ほえる
56	AWAKE+	②	目を覚ます	53	BARN	②	納屋
20	AWAKEN	④	目覚めさせる	34	BARREL	②	たる
101	AWARD	④	賞	21	BARRIER	④	さく
78	AWARE	④	気づいて	23	BARRISTER	⑤	法廷弁護士
1058	AWAY+	①	離れて	265	BASE+	②	ベース,土台
17	AWE	⑤	畏敬	93	BASEBALL	②	野球
51	AWFUL	②	恐ろしい	36	BASEMENT	②	地階
24	AWFULLY	⑤	とても	143	BASIC	④	基礎の
16	AWHILE	②	しばらく	24	BASICALLY	⑤	基本的に
20	AWKWARD	③	ぎこちない	105	BASIS	④	基礎
29	AX	②	おの	127	BASKET	②	かご
209	BABY	②	赤ん坊	19	BASKETBALL	②	バスケットボール
2052	BACK+	①	後ろ	22	BASS	②	バス
86	BACKGROUND	③	背景	94	BAT	②	バット;コウモリ
18	BACKPACK	⑤	バックパック	95	BATH	②	入浴
59	BACKWARD	④	後方へ	32	BATHE	②	入浴する
18	BACKYARD	④	裏庭	57	BATHROOM+	②	浴室
28	BACON	②	ベーコン	16	BATHTUB	②	浴槽
415	BAD+	①	悪い	13	BATON	④	指揮棒
41	BADLY	④	悪く,ひどく	29	BATTER	②	打者
227	BAG	②	袋	34	BATTERY	②	電池
29	BAGGAGE+	②	手荷物	51	BATTLE	②	戦闘
30	BAIT	②	えさ	69	BAY	②	湾
88	BAKE	②	焼く	50675	BE+	①	…である
53	BAKER	②	パン屋	186	BEACH	②	浜
126	BALANCE	②	つり合い	31	BEAD	②	ビーズ
19	BALD	⑤	はげた	20	BEAK	③	くちばし
291	BALL	②	球;舞踏会	38	BEAM	③	光線
24	BALLET	④	バレエ	111	BEAN	②	豆
62	BALLOON	②	気球;風船	417	BEAR	②	クマ;運ぶ
13	BALLOT	⑤	投票用紙	47	BEARD	②	あごひげ
14	BAMBOO	④	タケ	68	BEAST	③	獣
19	BAN	⑤	禁止;禁止する	143	BEAT	②	打つ;拍子
30	BANANA	②	バナナ	284	BEAUTIFUL	①	美しい
91	BAND	②	ひも,バンド	20	BEAUTIFULLY	④	美しく
26	BANDAGE	②	包帯	54	BEAUTY	③	美しさ
25	BANG	②	ドンという音	60	BEAVER	②	ビーバー
14	BANJO	⑤	バンジョー	1411	BECAUSE+	①	…だから
477	BANK	②	銀行;土手	784	BECOME+	①	(…に)なる
30	BANKER	⑤	銀行家	384	BED+	②	ベッド
26	BANKRUPTCY	⑤	破産	95	BEDROOM	②	寝室
18	BANNER	⑤	旗	89	BEE	②	ハチ
118	BAR	②	棒状のもの;バー	40	BEEF	②	牛肉
15	BARBECUE	②	バーベキュー	70	BEER+	②	ビール

頻度	語	分類	意味	頻度	語	分類	意味
22	BEET	②	ビート, サウダゴン	355	BLACK+	①	黒い
16	BEETLE	②	甲虫	23	BLACKBERRY	⑤	黒イチゴ
1452	BEFORE+	①	…の前に	19	BLACKBOARD	②	黒板
65	BEG	②	請う	24	BLACKEN	⑤	黒くする
1047	BEGIN+	①	始める	14	BLACKNESS	⑤	暗さ
16	BEGINNER	⑤	初心者	13	BLACKSMITH	⑤	かじ屋
101	BEGINNING	②	初め	29	BLADE	②	(細長い)葉, 刃
46	BEHALF	⑤	…のために	47	BLAME	③	とがめる
15	BEHAVE	③	ふるまう	40	BLANK	③	白紙の
75	BEHAVIOR+	③	ふるまい	76	BLANKET	②	毛布
443	BEHIND	②	…の後ろに[を]	44	BLAST	⑤	発進させる, 爆破
18	BEHOLD	⑤	見る	29	BLAZE	⑤	炎
56	BEING	②	生き物, 存在	35	BLEED	⑤	出血する
48	BELIEF	③	信念	20	BLEND	⑤	混ぜ合わせる
399	BELIEVE+	②	信じる	15	BLENDER	②	ミキサー
148	BELL	②	ベル	22	BLESS	③	祝福する
21	BELLY	②	腹	118	BLIND	③	目の見えない
102	BELONG+	③	所有である	32	BLINK	⑤	まばたきする
13	BELoved	⑤	最愛の	13	BLISTER	⑤	水ぶくれ
229	BELOW	②	…の下に[へ]	15	BLIZZARD	⑤	大吹雪
61	BELT	②	ベルト	13	BLOAT	⑤	むくんだ
58	BENCH	②	ベンチ	94	BLOCK	②	ブロック;(木の)塊
107	BEND	②	曲げる	193	BLOOD	②	血
76	BENEATH	③	…の下に[で]	42	BLOODY	⑤	むごたらしい
109	BENEFIT	④	ためになるもの	20	BLOOM	⑤	花を咲かせる
24	BERRY	③	ベリー	26	BLOSSOM	④	花(s)
147	BESIDE	②	…のそばに	22	BLOUSE	②	ブラウス
82	BESIDES	③	…のほかに	221	BLOW	②	吹く;強打
55	BET	②	賭ける;賭け金	316	BLUE+	①	青い;青色
602	BETWEEN+	①	…の間に	45	BLUFF	⑤	絶壁
13	BEVERAGE	⑤	飲み物	15	BLUNT	⑤	鈍い
138	BEYOND	③	…の向こうに	31	BLUR	⑤	ぼんやりさせる
62	BICYCLE	②	自転車	268	BOARD	②	板
65	BID	⑤	入札	18	BOAST	④	自慢する
1073	BIG+	①	大きい	415	BOAT	①	ボート, 船
69	BIKE	②	自転車	355	BODY	②	体
20	BILATERAL	⑤	相互に義務を負う	89	BOIL	②	沸騰させる
220	BILL	②	紙幣;くちばし	14	BOILER	⑤	ボイラー
208	BILLION	④	10億	34	BOLD	③	大胆な
20	BINARY	⑤	2つからなる	15	BOLDLY	⑤	大胆に
71	BIND	③	束ねる;縁を付ける	26	BOLT	⑤	ボルト
* BIOTECHNOLOGY		⑤	バイオテクノロジー	33	BOMB	②	爆弾
15	BIRCH	⑤	カンバ	60	BOND	④	証書;きずな
397	BIRD	①	鳥	130	BONE	②	骨
36	BIRTH	③	誕生	15	BONNET	②	ボンネット(帽子)
102	BIRTHDAY	②	誕生日	13	BONUS	⑤	ボーナス
16	BISCUIT	③	ビスケット	704	BOOK+	①	本
344	BIT	②	小片;少し	14	BOOKCASE	②	本箱
107	BITE	②	かむ	25	BOOKLET	④	小冊子
36	BITTER	③	苦い	49	BOOM	②	とどろき

付録 2 固有名詞・略語・数詞のリスト

固有名詞，略語，数詞の分類

「現代英語のキーワード」5,000語を作成する際に除外した1,019語の固有名詞，略語，数詞は分類して以下に示した。

1. 固有名詞

- (1) 人の名前
- (2) 曆に関する項目
- (3) 地理的な名前
- (4) その他

2. 略語

- (1) 省略語
- (2) 短縮語
- (3) 頭文字語
- (4) テレックス文

3. 数詞

- (1) 基数
- (2) 序数詞
- (3) ローマ数字
- (4) 算用数字

1. 固有名詞

固有名詞として使われた語を素材の英文で検索し、(1) 人の名前、(2) 曆に関する項目、(3) 地理的な名前、(4) その他に分類した。

(1) 人の名前

人の名前は、① 名、② 姓、③ イニシャル、④ 称号、⑤ その他に下位分類される。

① 名 (given name, 愛称も含む)

数字は頻度。男女両方で使われる名は頻度の多い方に分類した。

男子名

25 Al	26 Cucullin	40 Harry
27 Alan	46 Dan	86 Henry
41 Albert	25 Daniel	52 Herman
21 Aleck	13 Danny	33 Hodja
21 Alexander	97 Dave	56 Hubert
17 Alvin	30 David	84 Ishi
29 Anansi	24 Dmitri	62 Jack
34 Andrew	73 Don	35 Jacob
17 Anene	18 Donald	28 Jeff
26 Arion	34 Douwa	36 Jep
68 Arnold	32 Duke	56 Jerry
19 Arthur	121 Earl	272 Jim
25 Atherton	18 Ed	28 Jimmy
105 Ben	15 Edgar	187 Jiya
14 Bert	195 Edward	77 Joe
52 Billy	13 Eli	14 Johann
105 Bob	45 Eric	149 John
54 Bobby	58 Erich	34 Jon
36 Boris	15 Fara	54 Jose
34 Brian	14 Felipe	49 Joseph
19 Bryan	44 Fin	23 Kano
24 Buzz	27 Fred	52 Keith
24 Caleb	61 Frederick	228 Ken
25 Casey	31 Garrett	15 Kenichi
29 Chang	48 Gawaine	66 Kevin
112 Charles	101 George	151 Kino
54 Charlie	47 Georyn	97 Lee
70 Chester	14 Gerry	13 Leo
24 Christian	24 Gillespie	19 Leonard
66 Christopher	42 Graham	32 Lou
25 Claude	17 Hank	37 Louis
278 Corney	71 Hans	33 Lud

13 Mac	17 Philemon	26 Stormalong
18 Majapa	81 Pierre	24 Stuey
18 Malcolm	68 Quig	30 Tako
20 Mallet	15 Ralph	28 Tatsuo
14 Maloney	42 Ramon	33 Teo
21 Manuel	18 Randy	26 Terwyn
42 Mateo	61 Richard	51 Themistokles
44 Michael	71 Robert	24 Think-Tank
30 Mike	32 Roberta	54 Thomas
18 Milo	22 Roberto	79 Tim
37 Mink	14 Rodger	32 Tio
44 Mogi	39 Roger	107 Tom
60 Morris	63 Rollo	77 Tommy
14 Ned	16 Ronald	14 Tony
25 Neil	31 Rudi	39 Torr
37 Niccolo	32 Rufus	22 Toshi
36 Nicholas	14 Sabran	17 Tutankhamun
40 Nicky	45 Sam	35 Ulysses
23 Nobby	16 Sammy	18 Ulise
15 Oscar	24 Sasha	16 Verne
17 Paddy	23 Scott	21 Wally
104 Pappa	15 Sebastian	26 Walt
86 Paul	40 Sequoyah	51 William
35 Pepe	59 Seth	26 Willie
42 Perdiccas	34 Simon	35 Willoughby
19 Pete	18 Stanley	47 Yoshi
53 Peter	26 Stephen	25 Yukio
27 Petya	20 Steve	14 Zeus
19 Phil	13 Steven	

女子名

42 Ala	72 Beth	30 Elizabeth
43 Alexandra	35 Betty	26 Ella
15 Alice	15 Brenda	35 Ellen
39 Alicia	33 Carol	50 Elsie
29 Amelia	66 Caroline	20 Em
91 Ana	37 Carrie	26 Emily
55 Andy	20 Charlotte	97 Emma
45 Anna	13 Colombe	17 Estelle
26 Anne	15 Cougar	25 Eva
19 Annika	13 Darcy	49 Georgette
21 Arachne	17 Doris	19 Gertie
24 Auguste	15 Edna	16 Goldie
35 Barbara	26 Eileen	299 Gran
28 Belinda	98 Elisabeth	65 Hannah

68 Harriet	14 Lucia	28 Pablita
15 Helen	25 Lupe	20 Peg
13 Henny	19 Madge	39 Pippa
37 Ida	14 Maiju	47 Pippi
26 Isabel	15 Marcella	29 Polly
35 Jan	30 Margaret	22 Rachel
74 Jane	122 Maria	121 Rhonda
15 Jeanette	46 Marie	70 Rosa
41 Janey	69 Marsha	33 Ruth
38 Jeanne	114 Mary	25 Sabra
315 Jenny	44 Mary Jo	27 Sal
39 Jessica	117 Mathilde	75 Sally
47 Joan	33 Matilda	85 Sara
63 Juana	16 Mattie	46 Sarah
23 Judy	15 Maybelle	22 Sarita
23 Julia	40 Midge	46 Setsu
15 Julie	47 Miko	14 Susan
26 Karen	28 Milna	32 Tamar
62 Kate	27 Momo	40 Teresa
32 Kay	17 Myrtle	14 Tia
33 Kumi	33 Namby	13 Tina
160 Laura	16 Nana	41 Trinka
72 Lena	47 Nancy	16 Tsuru-san
38 Lenore	37 Natachee	68 Wilma
81 Lina	17 Olga	32 Winifred
63 Linda	26 Oona	26 Zakia

動物名

27 Alacran	サソリ
48 Andre	アザラシ
33 Connemara	馬
32 Jake	ライオン
17 Komodo	竜
21 Mapuche	きつね
34 Pooh	熊
34 Queenie	馬
13 Burt	チンパンジー
14 Dandy	馬
15 Luvie	チンパンジー
14 Nubby	犬
13 Opo	イルカ
14 Toby	犬

② 姓 (surname)

57 Adams	16 Granger	16 Najibullah
22 Andersen	22 Goodridge	31 Norton
16 Anderson	15 Greene	22 Nyad
50 Ann	124 Hamada	37 Olinsky
311 Anthony	13 Hamilton	18 Omega
21 Armitage	17 Hart	16 Oop
76 Asano	18 Hilaire	21 Osten
21 Atwood	15 Holden	14 Owen
20 Bach	15 Houdini	20 Picasso
150 Banno	14 Howard	14 Pinochet
38 Barnes	16 Hussein	14 Pott
24 Beauchamp	13 Iota	14 Roh
14 Birdie	19 Irving	13 Rosen
15 Bixby	30 Irwin	14 Ross
16 Blanchard	28 Isaacs	136 Quayle
15 Bobowicz	34 Jackson	26 Reagan
16 Bona	45 James	17 Reichert
16 Bonheur	53 Jenner	64 Riley
47 Brady	71 Johnson	21 Roccio
77 Breton	90 Jones	31 Russell
26 Bridger	25 Judd	27 Seward
13 Burch	21 Kelly	13 Shakespeare
45 Carlos	28 Kim	15 Shaw
16 Carlucci	14 Kinsman	15 Sigoloff
29 Carmen	40 Konheim	16 Skeat
53 Carter	25 Kroc	71 Smith
31 Chamberlain	16 Larkin	14 Smug
17 Clark	23 Lewis	17 Spillane
14 Collins	14 Leyden	14 Stein
47 Columbus	29 Li	19 Stevenson
23 Cosby	53 Lincoln	18 Takeshita
43 Crail	14 Liszt	21 Talbot
21 Crowder	13 Lopez	18 Tanen
144 Davidson	35 Lucas	48 Taylor
14 Davis	28 Luisa	22 Tellep
14 Derr	15 Maka	14 Terada
13 Disney	56 Malley	23 Tomas
29 Dukakis	18 Mandela	56 Trump
17 Dumas	43 Martin	28 Von
54 Eberhart	13 Matson	63 Walter
26 Eckleberry	18 Maung	50 Watson
21 Edison	15 Mccoy	19 Wellington
19 Folgil	60 Miguel	15 Wheeler
24 Foster	16 Miriam	14 Wilder
16 Fowler	24 Morgan	33 Wolson

③ イニシャル

イニシャルとして以下に挙げた語には記号として使われた語の頻度も含まれる。
イニシャルの A は冠詞の A に含まれる。

385 B	32 K	123 S
318 C	91 L	65 T
273 D	94 M	21 U
235 E	24 N	48 V
61 F	67 O	54 W
26 G	72 P	80 X
38 H	38 Q	54 Y
65 J	99 R	36 Z

④ 称号 (title)

固有名詞はしばしば大文字で始まる同格の称号を伴い, Mrs. Taylor, Senator Morse のように複合の名前を作る。称号は性別を示す normal title と地位を示す courtesy title に分けられる (Quirk, et al, 1972)。

Normal title

580 Dr.
46 Madame
173 Miss
16 Mister
17 Monsieur
1317 Mr.
419 Mrs.
70 Ms.
18 Senor

Courtesy title () 内は例

41 Senator	(Senator Catron)
23 Commander	(Commander Pott)
17 Sergeant	(Sergeant Riley)

⑤ その他

Dad や Ma などの家族名は呼格的に使われることが多く, 大文字で書かれる場合は固有名詞として扱う (大塚, 1970; Quirk, et al, 1972)。Narrator や Manservant などの普通名詞も大文字で書かれた場合は固有名詞化と考える (市河, 1940)。

家族名

220 Dad
19 Daddy
74 Grandma

108 Ma
 124 Mama
 112 Mom
 41 Pa
 130 Papa

普通名詞の固有名詞化

() 内は例

47 Bard	吟遊詩人	(the Bard)
38 Badger	たぬき (擬人化)	(Badger said)
35 Baron	男爵	(the Baron)
13 Earthling	地球人	(we Earthlings)
21 Enchantress	魔法使いの女	(the Enchantress)
52 Forester	森林管理者	(Chief Forester)
32 Headmaster	校長	(the Headmaster)
27 Interviewer	インタビュアー	(INTERVIEWER)
26 Jester	道化師	(the Court Jester)
37 Maestro	巨匠	(the Maestro)
15 Manservant	召使	(his Manservant)
16 Narrator	ナレーター	(the Narrator)
25 Oji-san	おじいさん	(Oji-san said)
44 Sultan	サルタン	(the Sultan of Morocco)

(2) 暦に関する項目

① 月

March と May については月名の頻度と他の品詞の頻度とを分けた.

72 January
 54 February
 41 March
 89 April
 80 May
 132 June
 151 July
 69 August
 56 September
 65 October
 60 November
 41 December

② 曜日

121 Sunday
 95 Monday
 45 Tuesday

53 Wednesday
62 Thursday
80 Friday
105 Saturday

③ 祭

58 Christmas
16 Easter
22 Yagua

(3) 地理的な名前

① 大陸

48 Africa
174 America
21 Asia
38 Australia
50 Europe

② 国家, 州

国家

Asia

28 Afghanistan	370 Japan	36 Pakistan
62 China	21 Jordan	15 Philippines
23 Egypt	25 Kabul	15 Taiwan
37 India	13 Hong (Kong)	39 Vietnam
18 Iran	17 (Hong) Kong	
52 Israel	62 Korea	

Europe

25 Britain	63 Greek	22 Spain
110 England	13 Holland	27 Sweden
20 Finland	32 Ireland	21 Swiss
34 France	31 Italy	13 Switzerland
39 Germany	101 Soviet	13 Wales

America

48 Canada	
48 Mexico	
15 Brazil	14 Chile

Africa

13 Guinea

Oceania

13 (New) Zealand

地方

13 Palestine
16 Scotland
13 Provence

州

114 California	15 Kansas	22 Oregon
19 Colorado	14 Kentucky	23 Pennsylvania
26 Florida	15 Louisiana	15 Tennessee
17 Hawaii	20 Massachusetts	55 Texas
50 Illinois	36 Michigan	21 Virginia
30 Indiana	28 Mississippi	14 Wyoming
22 Iowa	22 Missouri	
30 (New) Jersey	15 Montana	

③ 市, 町, 地区

市

Asia

14 Beijing	28 Kyoto	140 Tokyo
16 Hiroshima	16 Osaka	
17 Jerusalem	24 Seoul	

Europe

15 Bremen	76 Geneva	18 Rome
13 Dover	106 London	42 Moscow
14 Dublin	43 Paris	43 Paris
17 Troy		

America

54 (Los)Angeles	109 Francisco	27 (New)Orleans
46 Boston	17 Hollywood	23 Philadelphia
75 Chicago	30 Houston	23 Sacramento
15 Cincinnati	19 Portland	143 San(Francisco)
42 Columbia	88 Washington	32 Santa(Barbara)
13 Dallas	259 (New) York	24 Springfield
19 (San) Diego	57 Los (Angeles)	
17 Fort (Worth)	14 Montreal	

地区

17 Brooklyn	29 Manhattan	17 Woodlawn
14 En	20 Panduk	14 Shinjuku
13 Rio	21 Shora	14 Slote
14 Farnham	17 Tappan	13 Zocalo

④ その他の地理的な名前

天体

29 Mars

海洋

40 Atlantic (the Atlantic Ocean)

45 Pacific (the Pacific Ocean)

海岸線

19 Cape (Cape Cod)

25 Gulf (the Gulf of Mexico)

川

22 Hudson (Hudson River)

島

17 Surtsey (火山噴火でできた新島)

通り

30 Avenue (Fifth Avenue)

13 Madison (Madison Avenue)

42 Regent (Regent Street)

(4) その他

① 固有形容詞 (Proper Adjective) など

固有形容詞 (カーム, 1978) とは形容詞的用法の固有名詞, および固有名詞から派生した形容詞のこと. 英語では固有形容詞も, その形容詞から転用された普通名詞も語の頭文字を保存するのでどちらか判別に苦しむことが多い (市河, 1940). たとえば, He speaks German. の German は固有名詞であり, He is a German. は普通名詞である. 両方の用法があるため本研究ではこれらの語は固有名詞と同様に除外した.

国, 国民

40 Afghan	120 French	19 Mexican
41 African	78 German	28 Palestinian
409 American	63 Greek	32 Roman
20 Arab	117 Indian	15 Russian
22 Athenian	16 Iranian	16 Scotch
13 Aztec	55 Irish	24 Spanish
72 British	24 Israeli	15 Swedish
29 Canadian	28 Italian	14 Trojan
91 Chinese	198 Japanese	20 Yankee
15 Dutch	55 Korean	
244 English	14 Latin	
51 European	20 Martian	

建築様式

13 Colonial
21 Victorian

② 乗り物名

29 Amaryllis	(船)	24 C-46	(飛行機)
31 Rockland	(船)	16 Fuji	(船)
19 Apollo	(宇宙船)	14 Skyrocket	(船)
24 Dove	(船)	14 Chitty-Chitty-Bang-Bang	(車)
37 Hilda	(船)	17 Windwagon	(wagonの一種)

③ 公共施設など

大学

16 Cornell
14 Harvard
13 Oxford
17 Cambridge

学校

15 Lamplighter (the Lamplighter School in Dallas)

ホテル

21 Plaza (Keio Plaza Hotel)

レストラン

14 Denny's
15 El (El Pollo Loco)

④ 会社と製品名

会社名

31 AP	(通信社)
17 Apex	(Apex Corporation)
28 Brundswick	(Brundswick Corp.)
25 Carlson	(Carlson Electro Service)
25 Chevron	(Chevron Corp.)
36 Compaq	(コンピュータ関係)
21 Con	(Con Oil)
39 Consolidate	(Consolidated Brands, Inc.)
56 Electro	(Hamada Electro Dynamics Corp.)
20 I-Ranch	(I-Ranch Co.)
342 IBM	(コンピュータ関係)
26 Intel	(コンピュータ関係)
20 Jiffy	(Jiffy Co.)
30 Lockheed	(Lockheed Corp.)
55 Lowery	(Lowery Brewers)
21 Mart	(Value Mart)
17 Mercury	(Mercury Marine Div.)
18 Mob	(Mob Oil)

29	NBC	(放送会社)
19	Omnicom	(Omnicom International)
22	Paradyne	(Paradyne Corp.)
23	Shemesh	(Shemesh Enterprises)
19	UPI-Kyodo	(通信社)
13	Beatrice	(Beatrice Co.)
15	Carlton	(Carlton cigarette production)
13	C-Cola	(C-Cola bottlers)
16	CNBC	(放送局)
14	FAA	
15	FNN	(放送局)
16	Hughes	(Hughes Aircraft Co.)
14	Interbank	(Interbank Card Association)
14	Kodak	(光学機器メーカー)
16	Koss	(Koss Company)
15	Lubrizol	(Lubrizol Corp.)
13	McDonald	(McDonald's Corp.)
13	Microsoft	(コンピュータ関係)
14	N-W	(N-W Airlines)
16	NEC	(コンピュータ関係)
15	Orr	(Orr Company)
14	Philips	(電機メーカー)
13	Shamrock	(Shamrock Holdings Inc.)
15	Tandem	(S. J. Tandem & Co.)
15	Toshiba	(電機メーカー)
14	V-International	
14	Wickes	(Wickes Cos.)

製品名

23	Guinness	(beer)
25	Inboard	(Intel Inboard 386/PC)
51	Lotus	(Lotus 1-2-3)
21	SLT	(a Compaq laptop)
17	T-200	(a new radioactive isotope)
17	XT	(IBM PC)
35	OS/2	(software)
52	1-2-3	(Lotus 1-2-3)
14	Laserjet	(Laserjet cartridge)
15	Paradox	(Paradox 386 software)
13	PS/2	(IBM PS/2 Model 80)
16	Spellgramm	(software)
13	Ultralite	(NEC laptop computer)
14	Wordperfect	(software)

⑤ その他

政治, 経済, 法律関連

24 Communist	(共産党员)	
31 Democrat	(民主党員)	
29 Republican	(共和党員)	
17 Commerce	(the Chamber of Commerce	商工会議所)
88 Parliament	(the Parliament	英国議会)
19 Senate	(the Senate	上院)
20 Supreme	(the Supreme Court	最高裁判所)
22 Mujahedin	(アフガンのゲリラ)	

宗教

20 Catholic		
17 Parsee	(パルシー教徒)	

種族

36 Cherokee	(北米のチェロキー族)	
-------------	-------------	--

スポーツ

28 Grasshopper	(Grasshopper Smith	少年野球チーム)
15 Miami	(Miami Dolphins	フットボールチーム)
49 Olympic	(the Olympics	国際オリンピック大会)

新聞

22 Journal	(the Wall Street Journal)	
------------	---------------------------	--

料理

14 Pepperoni	(ピザ名)	
--------------	-------	--

英語以外

25 La	(a la mode, a la carte	フランス語)
35 Saldu	(アメリカインディアンのことば)	
13 Sisu	(フィンランド語)	
15 LOGO	(コンピューター言語)	

臨時語

433 ABC	(the British ABC Association)	
55 DEF	(DEF Hall)	
15 PQR	(PQR Center in Philadelphia)	
177 XYZ	(Dr. B, Profesor of XYZ University)	

その他

40 Hm	(間投詞)	
23 Ooh	(間投詞)	
14 Real-Estate	(real estate の表記で使う方が一般的)	
24 Database	(data base の表記で使う方が一般的)	
23 Patt	(洋裁用語)	
16 PH	(水素イオン濃度指数)	
46 Ruum	(怪物名)	
29 Spink	(造語)	

54 STS	(洋裁用語)
58 De	(Colonel De Lancey 複合で固有名詞になる)

2. 略語

ある語または語群の全形を用いる代わりにその一部で間に合わすことを省略 (abbreviation) といい, できたものを略語という (大塚他, 1970). 省略の様式により, (1) 省略語, (2) 短縮語, (3) 頭文字語, (4) テレックス文に分類した.

(1) 省略語

省略語 : 語の一部を省略したもの

① 語の最初と最後を残して内部を省略したもの

27 JR.	Junior
77 ST.	Saint, Street

② 語頭の幾文字かを残して後は省略したもの

16 APR.	April
68 AUG.	August
14 CA	California
13 CALIF.	California
94 CO.	Company
92 CORP.	corporation
113 INC.	incorporated
15 OCT.	October
30 PP.	pages
30 RE.	regarding
42 REP	representative
41 SEPT.	September

③ 最初の文字と語中の主要な子音字を残すもの

67 ETC.	et cetera
183 OK	okay
43 O. K.	okay
17 PHD	philosophiae doctor
15 RR	railroad
114 TV	television
84 COS	because
13 VS	versus

(2) 短縮語

短縮語 (clipped word) は語の一部を切り取った語のこと

51 Ad	advertisemet
20 Auto	automobile

21	Chimp	chimpanzee
19	Condo	condominium
37	Doc	doctor
19	Exam	examination
22	Fax	facsimile
30	Lab	laboratory
39	Math	mathematics
16	Micro	microcomputer
16	Mini	minicomputer
23	Photo	photograph
14	Rhino	rhinoceros
60	Vet	veterinarian

(3) 頭文字語

頭文字語 (acronym) : 語群の頭文字ばかりでできている語

63	A. M.	ante meridiem
19	CEO	chief executive officer
17	CPU	Central Processing Unit
22	DOS	disk operating system
20	EEC	European Economic Community
19	GATT	General Agreement on Tariffs and Trade
23	INTELSAT	International Telecommunications Satellite
17	LM	lunar module
16	M. D.	Doctor of Medicine
21	MIPS	the Most Important Products
13	MIS	management information systems
16	NASA	National Aeronautics and Space Administration
101	P. M.	post meridiem
198	PC	personal computer
22	PLO	Palestine Liberation Organization
17	P. L. O.	Palestine Liberation Organization
16	RS	roght side
178	U. S.	United States
139	U. S. A.	United States of America
15	VGA	Video Graphics Array
13	VP	Vice President

(4) テレックス文の略記

テレックスは限られた時間内に最大量の情報を送る必要上、略記が用いられる

23	HAMADYNAMICS	Hamada Electro Dynamics Corp.
----	--------------	-------------------------------

3. 数詞

数詞は、(1) 基数、(2) 序数、(3) ローマ数字、(4) 算用数字に分類される

(1) 基数

One の頻度は代名詞の One に含まれている

1759 Two	39 Thirteen	33 Twenty-five
984 Three	32 Fourteen	94 Thirty
442 Four	88 Fifteen	18 Thirty-five
424 Five	41 Sixteen	50 Forty
288 Six	20 Seventeen	105 Fifty
199 Seven	35 Eighteen	40 Sixty
182 Eight	35 Nineteen	23 Seventy
101 Nine	132 Twenty	14 Seventy-five
284 Ten	18 Twenty-one	21 Eighty
45 Eleven	17 Twenty-two	24 Ninety
125 Twelve	18 Twenty-four	

(2) 序数

First, Second は序数以外の頻度の方が高いので数詞として除外しなかった。

204 Third	17 Sixth	13 Tenth
49 Fourth	26 Seventh	15 Sixteenth
48 Fifth	22 Eighth	15 Twentieth

(3) ローマ数字

115 II	98 III	36 IV
--------	--------	-------

(4) 算用数字

39 \$1	396 1	13 160
24 \$10	44 1/2	39 17
20 \$100	174 10	87 18
13 \$1,000	15 1,000	50 19
15 \$100,000	18 10%	71 19##
16 \$12	56 100	16 1950
24 \$2	88 11	27 1960
16 \$40	103 12	17 1965
35 \$5	74 13	24 1969
31 \$50	52 14	32 1970
27 \$500	129 15	27 1972
13 \$7	21 150	20 1973
22 0	14 15%	13 1974
38 000	67 16	28 1976

38 1977	51 1979	39 1981
31 1978	43 1980	21 1982
17 1983	26 27	19 45
35 1984	20 28	194 5
35 1985	27 29	14 5%
58 1986	242 3	63 50
53 1987	113 30	19 500
52 1988	15 30%	13 55
14 1990	26 300	118 6
314 2	31 31	53 60
152 20	18 32	13 66
17 20%	19 33	102 7
27 200	16 34	32 70
13 2, 000	27 35	17 75
48 21	19 36	112 8
37 22	16 37	29 80
48 23	17 386	30 88
50 24	190 4	82 9
75 25	50 40	22 90
14 25%	13 41	
33 26	13 437	

付録 3 使用した言語材料の出典

1. 「現代英語のキーワード」の元になっている言語材料

(1) 素材（言語材料）

生活語彙

生活関連の雑誌等

- House and Garden, Jan, 1989.
Home, Dec, 1988.
Home Plans, Dec, 1988.
Rogers, Jenny, Healthy Food in Half an Hour, Penguin Books, London, 1987.
田崎清忠, 『アメリカン・ピクトペディア』, 大修館書店, 東京, 1984.
脇山恰, 『海外・暮らしの用語事典』, 改訂版, ジャパンタイムズ, 1983

絵単語集

- Abbs, Brian, Longman Picture Wordbook, Longman Group UK Ltd., Essex, England, 1986.
Bradbury, Lynne J., Ladybird Picture Word Book, Ladybird Books Inc., Lewiston, Maine.
Disney, Walt, Learn with Words, Purnell Books, Longdon, 1978.
Hill, L. A., Oxford Picture Dictionary, OUP, Oxford, 1981.
Kaufman, Joe, Words, Western Publishing Co, Inc., Racine, Wisconsin, 1974.
久埜百合, 『WORD BOOK - English in Action』, ぼーぐなんイングリッシュスクール, 東京, 1986.
仲田律子 (監), 『子供たちのすばらしい英語の世界たんけん』, Addison Wesley Publishers Japan, Tokyo, 1984.
Ogle, Lucille and Tina Thoburn, The Golden Picture Dictionary, Western Publishing Company, Inc., Racine, Wisconsin, 1975.
Scarry, Richard, Richard Scarry's Best Word Book Ever, Western Publishing Co. Inc., Racine Wisconsin, 1972.
Scarry, Richard, Richard Scarry's Best First Book Ever, Random House, New York, 1979.
Scarry, Richard, 500 Words to Grow on, Random House, New York, 1983.
Schimpff, Jill Wagner, 『セサミストリートえいわじてん』, OUP, Oxford, 1983.
Chamber, Selma Lola, Little Golden Book of Words, Western Publishing Company, Inc., Racine, Wisconsin, 1974.

病気関連

- 仁木久恵, 助川尚子, N. Engel, 『臨床看護英語』, 医学書院, 1986.
Setzler, H. H. Jr., et al., Graded Reading and Conversation Series for Nurses, Grade 1~4, Igaku-Shoin Ltd., 1982.
高階経和, E.N.メルダール, 『医師のための英会話』, 第1巻, 鳳鳴堂書店, 東京, 1984.
東京衛生病院看護学院編, New Hospital Conversation, 医学書院, 1978.

植木武, ドレール トウン, 『看護英会話入門』, 医学書院, 1981.
内海滉, エリック ベレント, 『海外旅行の救急パスポート』,
日本英語教育協会, 1983.

専門分野

情報収集

The Japan Times, 8/1, 8/4, 1988.
Time, 8/29/1988
Business Week, 9/5/1988.

ビジネス

Trump, Donald J., Trump -- The Art of the Deal, Arrow Books, London,
1987.
Rogers, The IBM Way, Harper & Row, New York, 1985.
Bertha S., How to Prepare for the GMAT, Second Edition, Newhouse,
McGraw-Hill Book Company, New York, 1983.
鳥谷剛三, 長谷川潔 監修, Business English Master, Vol.1~Vol.5,
Britannica Japan, Inc., 1980.
長野, 秋山, 大竹, 木村共訳注, 『英文ビジネスレターハンドブック』,
研究社, 1988
Bateman, David, Norman S., Communicating in Business, Scott, Foresman
and Company, 1989.

会議

大杉邦三, Don J. Elick, 『会議英語』, 大修館書店, 東京, 1980.
佐藤たつお, 『国際会議英語の聞き方話し方』, 時評社, 東京, 1986.

法律

Atiyah, P. S., Law and Modern Society, Oxford University Press,
Oxford, 1983.
Bobrow, Jerry, Barron's How to Prepare for the LSAT, Fourth Edition,
Barron's Educational Series, Inc., New York, 1987.

コンピュータ

PC Computing, Jan, 1989.
Mullen, Norma D., P. Charles Brown, English for Computer Science,
Oxford University Press, Oxford, 1983.

日常会話

Svartvik, Jan, Randolph Quirk, A Corpus of English Conversation,
C W K Gleerup Lund, 1980, pp.34-371.

女性雑誌

Elle, Jan, 1989.

Cosmopolitan, Dec, 1988.

Woman's Day, May, 1988.

Working Woman, July, 1988.

テスト

『全国高校入試問題正解 61年受験用 英語・数学・国語』, 旺文社, 1985,
pp. 33-200.

『全国高校入試問題正解 62年受験用 英語・数学・国語』, 旺文社, 1986,
pp. 33-208.

『3か年(61・60・59年度)共通1次試験問題詳解』, 聖文社, 東京, 1985.

『昭和61年全国大学入試問題正解 英語(国公立大編)』, 旺文社, 1986.

『昭和61年全国大学入試問題正解 英語(私立大編)』, 旺文社, 1986.

デービッド・トンプソン監修, 『これがアメリカの大学入試だ!』,

朝日出版社, 東京, 1984.

『TOEIC攻略法』, 別冊 The English Journal 21, アルク, 東京, 1986.

米国教科書

Clymer, Theodore, et al., The Ginn Reading Program, Ginn and Company,
Massachusetts, 1982. level K ~ 15

Level K Animal Crackers

Level 1 One Potato, Two

Level 2 Little Dog Laughed

Level 3 Fish and Not Fish

Level 4 Inside My Hat

Level 5 Birds Fly, Bears Don't

Level 6 Across the Fence

Level 7 Glad to Meet You

Level 8 Give Me a Clue

Level 9 Mystery Sneaker

Level 10 Ten Times Round

Level 11 Barefoot Island

Level 12 Ride the Sunrise

Level 13 Flights of Color

Level 14 Green Salad Seasons

Level 15 Chains of Light

(2) 補足用言語材料

日本人の誤りやすい語

ベレント, E. (河野武解説), 『英語がうまくなる100日コース』, 朝日イブ
ニングニュース社, 東京, 1977.

ハリントン, D. (平野みどり訳), 『私が採点する日本の英語』, 英友社,
東京, 1974.

Loftus, J. M. (内野研二訳), 「日本人科学者の英語 --- よく見られる誤り

- とその避け方」, 日本物理学会, 『科学英語論文のすべて』, 丸善株式会社, 東京, 1984, pp.101-163.
- メイナード, R., 『ナチュラル・イングリッシュ』, 大修館書店, 東京, 1985.
- ミルワード, P. (土家典生訳), 『英語の語法診断 --- 日本人の英語の誤り』, 南雲堂, 東京, 1980.
- ミルワード, P. (土家典生訳), 『日本人の英語欠陥辞典』, 南雲堂, 東京, 1983.
- ピーターセン, M., 『日本人の英語』, 岩波書店, 東京, 1976.
- パワー, F. (押谷善一郎, 岩田勉解説), 『日本人が間違いやすい英語表現』, 大阪教育図書, 大阪, 1983.
- パワー, F. (押谷善一郎, 岩田勉編訳), 『日本人英語の陥し穴』, 大阪教育図書, 大阪, 1986.
- プライス, H., 長谷川凡次郎, 『英作文の盲点』, 金星堂, 東京, 1963.
- ロス, P., ロス, 典子, 『原因別日本人が間違いやすい英語』, 朝日出版社, 東京, 1988.
- ティム, W., J. スミス, 治田邦宏, 『こんなにもある英語教科書の間違い』, 一光社, 東京, 1989.
- ワトキンス, G., 『英誤を診る』, 進学研究社, 東京, 1987.
- ワトキンス, G., 『続・英誤を診る』, 進学研究社, 東京, 1988.
- ウェブ, J., 『日本人に共通する英語のミス 121』, ジャパンタイムズ, 東京, 1987.

科学技術関連の新語

- 成美堂出版編集部, 『先端技術キーワード辞典』, 成美堂出版, 1989.
- 希代文宏, 杉山徹宗, 堀達夫, 『最新科学技術情報事典』, 鷹書房, 1987,
- 野沢敬, 『朝日キーワード 1990』, 朝日新聞社, 1989, pp.18-47.
- 相賀徹夫, 『データパル』, 小学館, 1990, pp.206-255.
- 深川章, 『現代用語の基礎知識』, 1990, pp.637-696, 697-842.

2. 有効度を計測するための目標言語材料 -- 23種各1,500語の英文の出典と内容

(1) 音声言語

① 日常会話

Svartvik, Jan, Randolph Quirk, A Corpus of English Conversation
C W K Glerup Lund, 1980, pp.804-811.

Text number S.3.3 の発話部分

話者: male administrator (age 52)

3 male undergraduate students (age 20)

2 female undergraduate students (age 20)

内容: 学生たちが図書館の使いづらさを訴えている

② サバイバル英語

Church, Nancy, Anne Moss, How to Survive in the U.S.A.-- English for travelers and newcomers, Cambridge University Press, Cambridge, 1983, pp.125-132.

Tapescript の Listen and answer の会話部分

"Welcome to the U.S.A.!"
"Communicating by phone and mail"
"See America by rent-a-car"
"Getting around"
"Places to stay"
"Handling your money"
"Getting something to eat"
"In case you get sick"
"Enjoying your free time"

③ 映画の対話

「えいが館」, Asahi Weekly, 1987-1988. (名場面集)

"Tucker" (Oct. 16, 1988)
"Broadcast News" (Mar. 20, 1988)
"My Fair Lady" (Nov. 29, 1987)
"The Unbearable Lightness of Being" (Oct. 23, 1988)
"Mother Teresa" (Sept. 18, 1988)

④ 看護婦との対話

Austin, David, Tim Crosfield, English for Nurses, Longman, Burnt Mill, Harlow, 1976.

"Where Do You Work?," p. 5.
"Parts of the Body," pp. 10-11.
"Arranged Admission," pp. 93-94.
"Observation of the Patient," p. 97.
"Respiration, the Cough and Sputum," pp. 106-107.
"Vomitus," pp. 111-112.
"Faeces," pp. 114-116.

⑤ 医師との対話

Cassidy, Laura J., 吾妻堯, 『医師のための実用英会話 -- English Conversation for Physicians』, メジカルビュー社, 東京, 1982.

"Case Discussion on Mr. Alexis," pp. 66-74.
"Surgery of Mr. John Alexis," p. 79.

⑥ 経済ニュース

『abc special 英語経済ニュースを聴く① Dan Cordtz's Econocast』, ABC News and Gloview Co., Ltd., Tokyo, 1982.

"The Fed's New Found Optimism
ボルカーFRB議長の楽観論," p. 80.
"Stage Set for Recovery
景気回復の段取りはできている," p. 82.
"Inflation Down But Not Out
インフレに関する耳よりな知らせ," p. 84.
"Small COLA's Better Than None
もらわないよりましな物価調整費" p. 88.

- "Record Foreign Trade Deficits,
不名誉な新記録達成" p. 90.
- "Business Loan Demands High
なぜ金利は依然として高いのか" p. 92.
- "Argentina Vs. the World
対アルゼンチン貿易対策は危険がいっぱい" p. 94.

⑦ ビジネストーク

Howe, Brian, Visitron -- The language of meetings and negotiations
Longman, Burnt Mill, Harlow, 1988.

- "Opening the negotiations," pp. 52-54.
"Clarifying the proposals," pp. 62-64.
"Exploring the zone of bargaining," pp. 72-73.

⑧ 会議英語

Fitzpatrick, Anthony, English for International Conferences
-- A language course for those working in the fields of
science, economics, politics and administration, Prentice Hall
International (UK) Ltd, Heme Hempstead, Hartfordshire, 1987.
Dramatized Conversation

- "Conference A -- Plenary Session," pp. 57-59.
"Conference B -- Working Groups," pp. 61-63.

⑨ 政治・法律ニュース

語研編集部, 『生録FENニュース・ファイル 第7集』, 語研, 東京, 1987,
pp. 8-60. (イラン・ニカラグア秘密工作問題合同公聴会証言録)

- ノース中佐証言初日 (July 8, 1987)
ノース中佐証言2日目 (July 9, 1987)
ポインデクスター前補佐官証言 (July 17, 1987)
シュルツ国務長官証言 (July 24, 1987)
ミース司法長官証言 (July 30, 1987)
リーガン前首席補佐官証言 (July 31, 1987)
ワインバーガー国防長官証言 (August 1, 1987)
レーガン大統領, テレビ演説で秘密工作の全責任を認める
(August 13, 1987)

⑩ リスニングテスト

Pamela J. Sharpe, Barron's How to Prepare for the TOEFL, Sixth Edition,
Barron's Educational Series, Inc., 1989.

- "Model Test Six Section I: Listening Comprehension,
Appendix," pp. 559-563.

(2) 文字言語

① 生活誌

Ladies' Home Journal, Vol. 104, No. 5, 1988, May.

- "Salad-bar suppers," p. 128.
"Too big? Too small? A question of scale," pp. 142-145.

"The grazer's diet," p.120.

"Easy as 1-2-3," p.66.

② 生活用語

Parnwell, E. C., The New Oxford Picture Dictionary, Oxford University Press, New York, 1988, pp.2-50.

日常的な英単語をテーマ別に掲載, 児童～成人向け

"People and Relationships"

"The Family"

"The Human Body"

"Vegetables"

"Fruits"

"Meat, Poultry, and Seafood"

"Containers, Quantities, and Money"

"The Supermarket"

"Family Restaurant and Cocktail Lounge"

"Restaurant Verbs"

"Common Prepared Foods"

"Outdoor Clothes"

"Everyday Clothes"

"Underwear and Sleepwear"

"Jewelry and Cosmetics"

"Describing Clothes"

"Describing the Weather"

"Seasonal Verbs"

"Houses"

"The Living Room"

"The Dining Room"

"The Kitchen"

"Kitchen Verbs"

"The Bedroom"

"The Baby's Room"

"The Bathroom"

"The Utility Room"

"A Workshop"

"Housework and Repair Verbs"

"Medical and Dental Care"

"Ailments and Injuries"

"Treatments and Remedies"

"Firefighting and Rescue"

"Crime and Punishment"

"The City"

"The U.S. Postal System"

"The Public Library"

"The Armed Forces"

"Trucks"

"Cars"

③ 女性誌

Savvy, 1988, March.

"Thanks But No Thanks," pp.22-23.

"Dialing for Dollars," p.26.

④ 美容誌

Cosmopolitan, 1987, April.

"Health reports," p.53.

"How to control those hunger pangs," pp.72-73.

⑤ 英字新聞

The Japan Times, Monday, March, 12, 1990.

"After recent highs and lows, analysts divided over
stock market outlook -- Bad news isn't as bad
as it seems but interest rates worry many"

⑥ 科学誌

Science News, Volume 136, No.26, December 23 & 30, 1989.

(The Weekly Newsmagazine of Science)

"Science News of the Year," pp.416-422.

Biology, Chemistry, Earth Sciences, Physics,

Space Sciences, Technology

⑦ ビジネスレター

Webster's Guide to Business Correspondence, Merriam-Webster Inc.,
Springfield, Massachusetts, 1988. (Sample Letters)

Acceptance of an Invitation, p.265

Acknowledgement during an Employer's Absence, p.267

Adjustment Letter -- granting a claim, p.269

Adjustment Letter -- refusing a claim, p.271

Adjustment Letter -- granting a discount, p.273

Application Letter -- for a franchise, p.277

Appreciation, p.279

Collection Letter -- reminder, p.281

Collection Letter -- request for payment, p.283

Collection Letter -- final notice, p.285

Collection Letter -- granting an extension, p.287

Complaint -- p.289

⑧ パソコンマニュアル

Goldstein & Blair, The Macintosh Bible, Second Edition, Naiman,
Arthur Berkeley, California, 1988-89, pp.31-37.

"A guide for the perplexed (things that often confuse
beginners)

⑨ パソコン誌

PC Magazine, Vol.9, No.8, April 24, 1990, pp.97-101.

"Spreadsheet Heavyweights Take On 1-2-3"

⑩ 科学読物

Hawking, Stephen W., A Brief History of Time -- From the Big Bang to Black Holes, Bantam Books, New York, 1988, pp.1-6.

⑪ 現代小説

Christie, Agatha, N or M?, Dell Publishing Co., Inc., New York, 1968, pp.5-10.

⑫ 読解テスト

Pamela J. Sharpe, Barron's How to Prepare for the TOEFL, Sixth Edition, Barron's Educational Series, Inc., 1989.

"Model Test Six Section III: Reading Comprehension and Vocabulary," pp.402-408.

⑬ 政治誌

Time, No.14, April 2, 1990, pp.11-12.

"TAIWAN A Scare for Mossbacks -- Protests push President Lee to press for reforms"

"CHINA Glimmers at the Grass Roots -- The hard-line grip relaxes a little, but only on the economic front"

3. 「現代英語のキーワード」の分類に用いた言語材料

(1) 必修

『中学校指導書外国語編』, 文部省, 開隆堂出版, 1989.

(2) 生活

Moe, Alden J., Carol J. Hopkins, R. Timothy Rush, The Vocabulary of First-Grade Children, Charles C Thomas, Publisher, Springfield, 1982.

絵単語集 13冊の出典 1.の(1)に同じ

幼児物語 41冊

Benchley, Nathaniel, A Ghost Named Fred, Harper & Row, Publishers, New York, 1968.

Benchley, Nathaniel, Oscar Otter, Harper & Row, Publishers, New York, 1966.

Berenstain, Stan and Jan Berenstain, He Bear She Bear, William Collins Sons & Co Ltd, Glasgow, 1974.

Bonsall, Crosby, The Case of the Cat's Meow, Harper & Row, Publishers, New York, 1965.

Bonsall, Crosby, The Case of the Hungry Stranger, Harper & Row, Publishers, New York, 1963.

- Brown, Margaret Wise, Goodnight Moon, Harper & Row, Publishers, New York, 1947.
- Brown, Margaret Wise, The Runaway Bunny, Harper & Row, Publishers, New York, 1970.
- Carle, Eric, The Very Hungry Caterpillar, Puffin Books, Penguin Books Ltd., Harmondsworth, Middlesex, 1975.
- Davidson, Margaret, Helen Keller, Scholastic Book Services, New York, 1969.
- De Paola, Tomie, Charie Needs a Cloak, Prentice-Hall, Inc., Englewood Cliffs, N. J., 1973.
- Dr. Seuss, Mr. Brown Can Moo! Can You?, A Bright and Early Book, Random House, New York, 1970.
- Eastman, P. D., Are You My Mother?, William Collins Sons & Co Ltd, Glasgow, 1960.
- Eastman, P. D., Big Dog Little Dog, Random House, New York, 1973.
- Ehrlich, Amy, Annie Finds a Home, Random House, New York, 1982.
- Ets, Marie, Hall, In the Forest, Penguin Books Ltd., Harmondsworth, Middlesex, 1972.
- Freeman, Don, Corduroy, Penguin Books Ltd., Harmondsworth, Middlesex, 1968.
- Fritz, Jean, And Then What Happened, Paul Revere?, Scholastic Book Services, New York, 1973.
- Fritz, Jean, Where was Patrick Henry on the 29th of May?, Coward, McCann & Geoghegan, 1975.
- Hoff, Syd, Sammy the Seal, Harper & Row, Publishers, New York, 1959.
- Hoff, Syd, Stanley, Harper & Row, Publishers, New York, 1962.
- Holland, Margaret and Alison Strickland, The Emperor's New Clothes, School Book Fairs, Inc., 1980.
- Hope, Laura Lee, The Bobbsey Twins, Simon & Schuster, New York, 1982.
- Kessler, Leonard, Kick, Pass, and Run, Harper & Row, Publishers, New York, 1966.
- Krauss, Ruth, The Carrot Seed, Harper & Row, Publishers, New York, 1945.
- Lawrence, James, Binky Brothers, Detectives, Harper & Row, Publishers, New York, 1968.
- Lovel, Arnold, Mouse Tales, Harper & Row, Publishers, New York, 1972.
- Lovel, Arnold, Frog and Toad are Friends, Harper & Row, Publishers, New York, 1970.
- Lovel, Arnold, Frog and Toad Together, Harper & Row, Publishers, New York, 1971.
- Mayer, Mercer, Just For You, Western Publishing Company, Inc., Racine, Wisconsin, 1975.
- Mayer, Mercer, Just Me and My Dad, Western Publishing Company, Inc., Racine, Wisconsin, 1977.

- McCloskey, Robert, Make Way for Ducklings, Penguin Books Ltd., Harmondsworth, Middlesex, 1969.
- Minarik, E. H., Father Bear Comes Home, Harper & Row, Publishers, New York, 1959.
- Minarik, E. H., No Fighting, No Biting!, Harper & Row, Publishers, New York, 1958.
- Minarik, E., Holmelund, Little Bear, Harper & Row, Publishers, New York, 1957.
- Minarik, E., Holmelund, Little Bear's Visit, Harper & Row, Publishers, New York, 1961.
- Myrick, Mildred, The Secret Three, Harper & Row, Publishers, New York, 1963.
- Parish, Peggy, Play Ball, America Bedelia, Harper & Row, Publishers, New York, 1972.
- Rey, Margaret E. and H. A. Rey, Curious George Goes to the Hospital, Houghton Mifflin Company, Boston, 1966.
- Sendak, Maurice, Chicken Soup with Rice, Scholastic Book Services, New York, 1962.
- Sendak, Maurice, Where the Wild Things Are, Penguin Books Ltd., Harmondsworth, Middlesex, 1963.
- Slote, Alfred, Rabbit Ears, Harper & Row, Publishers, New York, 1982.

(3) 基本

10種の基本語彙

- Ogden, C. K., The Basic Words, The Hokuseido Press, Tokyo, 1983.
- van Ek, J. A., The Threshold Level for Modern Language Learning in Schools, Longman, 1976.
- 東京都中学校英語教育研究会研究部, 「英語基本語彙1,000語, 補足460語, 外来語(英語)400語」, 『語彙と英語教育(9)』, 1986.
- West, Michael, A General Service List of English Words, Longmans, 1953.
- Summers, D., et al., Longman Dictionary of Contemporary English, Longman, 1987.
- Palmer, Harold E. "The Standard English Vocabulary", 『英語教授法事典』, 開拓社, 東京, 1981, pp.281-318.
- 大学英語教育学会(JACET)教材研究委員会, "JACET LIST OF BASIC WORDS, REVISED," 『「英語購読用教科書のあり方」についてのアンケート調査報告 -- 「JACET基本語第2次案」を中心に』, 1983, pp.18-39.
- Hindmarsh, Roland, Cambridge English Lexicon, Cambridge University Press, Cambridge, 1980.
- 全国英語教育研究団体連合会(全英連)編, 『高校基本英単語活用集(改訂新版)』研究社, 東京, 1981.
- Thorndike, E. L., Irving Lorge, "The First 1,000 Words," The Teacher's Word Book of 30,000 Words, Bureau of Publications Teachers College, Columbia University, New York, 1944.

(4) 教育

中学校英語教科書

- New Horizon English Course 1, 太田朗他, 東京書籍, 1987.
New Horizon English Course 2, 太田朗他, 東京書籍, 1987.
New Horizon English Course 3, 太田朗他, 東京書籍, 1987.
New Everyday English 1, 羽鳥博愛他, 中教出版, 1988.
New Everyday English 2, 羽鳥博愛他, 中教出版, 1988.
New Everyday English 3, 羽鳥博愛他, 中教出版, 1988.
Total English New Edition 1, 中島文雄他, 秀文出版, 1988.
Total English New Edition 2, 中島文雄他, 秀文出版, 1987.
Total English New Edition 3, 中島文雄他, 秀文出版, 1987.
One World English Course 1, 長谷川潔他, 教育出版, 1988.
One World English Course 2, 長谷川潔他, 教育出版, 1988.
One World English Course 3, 長谷川潔他, 教育出版, 1988.
Sunshine English Course 1, 佐藤喬他, 開隆堂, 1987.
Sunshine English Course 2, 佐藤喬他, 開隆堂, 1987.
Sunshine English Course 3, 佐藤喬他, 開隆堂, 1987.
New Crown English Series 1, 中村敬他, 三省堂, 1988.
New Crown English Course 2, 中村敬他, 三省堂, 1988.
New Crown English Course 3, 中村敬他, 三省堂, 1988.

高等学校英語教科書

- New Edition Unicorn English Course I, 吉田正俊他, 文英堂, 1987.
New Edition Unicorn English Course II, 吉田正俊他, 文英堂, 1988.
New Edition Unicorn English Course II B, 吉田正俊他, 文英堂, 1988.
Milestone English Course I, 成田義光他, 啓林館, 1987.
Milestone English Course II, 成田義光他, 啓林館, 1988.
Milestone English Readers II B, 寺田正義他, 啓林館, 1988.
New Horizon English Course I, 緒方勲他, 東京書籍, 1987.
New Horizon English Course II, 緒方勲他, 東京書籍, 1988.
New Crystal English Readings II B, 緒方勲他, 東京書籍, 1988.
Mainstream I, The New Comprehensive English Course Second Edition,
安藤昭一他, 増進堂, 1987.
Mainstream II, The New Comprehensive English Course Second Edition,
安藤昭一他, 増進堂, 1988.
Mainstream II B, The New English Reading Course,
安藤昭一他, 増進堂, 1986.
Highroad to English I, 斎藤忠利他, 三省堂, 1987.
Highroad to English II, 斎藤忠利他, 三省堂, 1988.
Highroad to English II B New Edition, 岩元巖他, 三省堂, 1986.
The Crown English Series I, 平野敬一他, 三省堂, 1987.
The Crown English Series II, 平野敬一他, 三省堂, 1988.
The Crown English Reader II B New Edition, 平野敬一他, 三省堂, 1986.

高校・大学入試問題

『全国高校入試問題正解 61年受験用 英語・数学・国語』， 旺文社， 1985，
pp. 33-200.

『全国高校入試問題正解 62年受験用 英語・数学・国語』， 旺文社， 1986，
pp. 33-208.

『3か年（61・60・59年度）共通1次試験問題詳解』， 聖文社， 東京， 1985.

『昭和61年全国大学入試問題正解 英語（国公立大編）』， 旺文社， 1986.

『昭和61年全国大学入試問題正解 英語（私立大編）』， 旺文社， 1986.

『旺文社カセット+ブック・63 全国大学入試問題正解， 英語ヒアリング問題
（私立大編）テキスト』， 旺文社， 1988.

『旺文社カセット+ブック・63 全国大学入試問題正解， 英語ヒアリング問題
（国公立大編）テキスト』， 旺文社， 1988.

『旺文社カセット+ブック・89 全国大学入試問題正解， 英語ヒアリング問題
（私立大編）テキスト』， 旺文社， 1989.

『旺文社カセット+ブック・89 全国大学入試問題正解， 英語ヒアリング問題
（国公立大編）テキスト』， 旺文社， 1989.